

里館遺跡

SATATE SITE

—供養塔および駐車場造成に伴う緊急発掘調査報告書—

2013.2

宗教法人 天昌寺

盛岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、岩手県盛岡市天昌寺町に所在する里館遺跡で実施した発掘調査の報告書である。
2. 本書は、供養塔および駐車場造成に係る事前調査であり、記録保存を目的とした緊急発掘調査である。
調査期間は、平成23年8月22日から平成23年11月25日、調査面積は2,096㎡である
3. 本調査は、土地所有者である宗教法人天昌寺と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき、遺跡の学び館が野外調査および出土資料整理・報告書編集を行った。また、本調査に係る費用は、事業主体である宗教法人天昌寺より支出された。
4. 本書の編集は遺跡の学び館が行い、執筆作業は佐々木亮二、三品花菜子が担当した。
5. 遺構平面位置は日本測地系を用い、公共座標第X系を座標変換した調査座標で表示した。
里館遺跡 調査座標原点 $X - 32,000 \cdot Y + 24,500 \rightarrow R X \pm 0 \quad R Y \pm 0$
6. 高さは標高値をそのまま使用している。
7. 遺構記号は次のとおりである。

(1) 城館期

遺 構	記 号	遺 構	記 号	遺 構	記 号
柱 列 跡	SA	掘立柱建物跡	SB	堀・溝跡	SD
竪穴建物跡	SI	土 坑	SK		

(2) 城館期以外

遺 構	記 号	遺 構	記 号	遺 構	記 号
竪穴住居跡	RA	土 坑	RD	竪 穴	RE

8. 調査業務の一部を下記個人・業者に委託した。

古銭鑑定 榊引寿幸
航空写真撮影 株式会社 タックエンジニアリング
年代測定 株式会社 加速器分析研究所

9. 調査および整理作業には、次の方々の協力を得た。(五十音順、敬称略)

[発掘調査・室内整理作業]

阿部正幸、天沼芳子、長内理恵、嘉糠和男、川村久美子、熊谷あさ子、小松愛子、佐藤和子、佐藤公一、
佐藤美智子、竹花栄子、谷藤貴子、千葉留里子、袴田英治、樋口泰子、日野杉節子

[助言・協力]

岩手県教育委員会、宗教法人天昌寺、井上雅孝、榊引寿幸、羽柴直人、山田しょう

10. 発掘調査に伴う出土遺物および諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管してある。

目 次

例 言
目 次
表目次
挿図目次
写真図版目次

I 遺跡の環境	1
II 調査成果	4
III 総括	82
附章 里館遺跡における放射性炭素年代	

表 目 次

第1表 陥し穴状遺構一覧	10	第9表 ピット計測一覧(1)	62
第2表 竪穴建物跡一覧	18	第10表 ピット計測一覧(2)	63
第3表 柱列跡一覧	35	第11表 ピット計測一覧(3)	64
第4表 掘立柱建物跡一覧	35	第12表 古銭計測一覧(1)	77
第5表 竪穴状遺構一覧	48	第13表 古銭計測一覧(2)	78
第6表 溝跡一覧	48		
第7表 沢状地形一覧	48		
第8表 土坑一覧	55		

挿 図 目 次

第1図 里館遺跡位置図	1	第21図 SI321竪穴建物跡	33
第2図 地形分類と周辺の遺跡分布	3	第22図 SI322竪穴建物跡	34
第3図 里館遺跡全体図	5・6	第23図 SA301～304掘立柱建物	36
第4図 里館遺跡第56次調査全体図	11・12	第24図 SA305～308掘立柱建物跡	37
第5図 RD001～007土坑	16	第25図 SB301・302掘立柱建物跡	38
第6図 RA001竪穴住居跡	17	第26図 SB303～305掘立柱建物跡	39
第7図 SI301・302竪穴建物跡	19	第27図 SB306・307掘立柱建物跡	40
第8図 SI303・304竪穴建物跡	20	第28図 SB308掘立柱建物跡	41
第9図 SI305・306竪穴建物跡	21	第29図 SB309・310掘立柱建物跡	42
第10図 SI307竪穴建物跡	22	第30図 SB311・312掘立柱建物跡	43
第11図 SI308竪穴建物跡	23	第31図 SB313・314掘立柱建物跡	44
第12図 SI309竪穴建物跡	24	第32図 SB315・316掘立柱建物跡	45
第13図 SI310竪穴建物跡	25	第33図 SB317・318掘立柱建物跡	46
第14図 SI311・312竪穴建物跡	26	第34図 SB319掘立柱建物跡	47
第15図 SI313竪穴建物跡	27	第35図 RE001竪穴跡	49
第16図 SI314竪穴建物跡	28	第36図 RE002・003竪穴跡	50
第17図 SI315・316竪穴建物跡	29	第37図 SD410～412溝跡	51
第18図 SI317竪穴建物跡	30	第38図 RZ001沢状地形跡	52
第19図 SI318・319竪穴建物跡	31	第39図 RZ002～004沢状地形跡(1)	53
第20図 SI320竪穴建物跡	32	第40図 RZ002～004沢状地形跡(2)	54

第41図 SK406～414土坑……………56	第51図 遺構出土陶磁器(1)……………70
第42図 SK415～423土坑……………57	第52図 遺構出土陶磁器(2)、遺構出土金属器(1)……………71
第43図 SK424～432土坑……………58	第53図 遺構出土金属器(2)、SB316出土琥珀……………72
第44図 SK433～445土坑……………59	第54図 遺構出土石製品(1)……………73
第45図 SK446～453土坑……………60	第55図 遺構出土石製品(2)……………74
第46図 SK454・455土坑……………61	第56図 遺構出土石製品(3)……………75
第47図 グリットピット(1)……………65	第57図 遺構出土石製品(4)、遺構外出土土器・石器……………76
第48図 グリットピット(2)……………66	第58図 遺構出土古銭(1)……………79
第49図 グリットピット(3)……………67	第59図 遺構出土古銭(2)、遺構外出土古銭(1)……………80
第50図 グリットピット(4)……………68	第60図 遺構外出土古銭(2)……………81

写 真 図 版 目 次

- 第1図版 里館遺跡第56次調査区遠景、里館遺跡第56次調査区全景
- 第2図版 SB 016 掘立柱建物跡、竪穴建物跡重複状況
- 第3図版 RD 005・006土坑、RA 001 竪穴住居跡、SI 305・306・313～317 竪穴建物跡、RE 001 竪穴、RZ 002～004 沢状地形
- 第4図版 里館遺跡第56次調査出土 陶磁器、鉄・銅製品
- 第5図版 里館遺跡第56次調査出土 石製品・琥珀原石、土器・石器
- 第6図版 里館遺跡第56次調査出土 古銭

○遺物の表現について

- (1) 土器……土器の区分は、土師器・あかやき土器・須恵器に大別した。
- a 土器の実測図・拓本の縮小率は1/3とした。
- b 挿図の土器の配列は器種・器形・文様モチーフ及び施文技法でまとめた。
- c 土師器の黒色処理や彩色されたものは、網目(スクリーントーン)で表現した。
- (2) 石器
- a 縮小率を1/3として器種ごとにまとめて配列した。
- (3) 石製品・鉄製品
- a 縮小率を1/2とした。
- (4) 挿図中の記号番号は、遺物の出土地点及び出土層位を表している。
- (例) RA 001 A層 → RA 001 竪穴住居跡A層より出土
- (例) G6-A20 III a層
- ↓ ↓ ↓
- ※1 ※2 ※3
- ※1 大グリッド……遺跡の全体を50mメッシュで区切り設定した。北西隅を起点に西から東にA・B・C……のアルファベット、北から南には1・2・3……のアラビア数字を付し、A6、C12など、両方の組み合わせでグリッド名を表した。
- ※2 小グリッド……大グリッドの中をさらに2mメッシュで区切り、北西隅を起点として西から東にA～Yのアルファベット、北から南に1～25のアラビア数字を付し、グリッド名は両方の組み合わせで表した。
- ※3 遺物の出土層位を示す。

○遺構の表現について

各遺構の平面図で、複数の遺構を同一図面に表示する場合、説明する遺構は実線で表し、重複遺構は一点鎖線で表し、掘込面に層位差のある重複遺構は二点鎖線で表した。

土層図は堆積のしかたを重視し、線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』(1994 小山正忠・竹原秀雄)を参考にした。

I. 遺跡の環境

1. 地理的環境

遺跡の位置 里館遺跡は、盛岡市街地より北西約3kmの天昌寺町内に所在する（第1図）。かつては水田・畑などの農地が主体を占めていたが、近年は急速に宅地化が進められている。遺跡の範囲は南北250～380m、東西650mと推定され、標高は129～132mである。現況は宅地である（第2図）。

地形・地質 盛岡市は東に北上山地、西に奥羽山脈を擁し、北西には岩手山（2,038m）を望む。中央の北上平野には東北一の大川である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は、構成する地質やその形成年代が異なるため、東西の地形の様相は大きく異なる。また、岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地質・地形に大きく影響を及ぼしている。

奥羽山脈より東流する雫石川は雫石盆地を形成し、その流れは烏泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦（市内上太田）で急激に狭められ、その狭窄部を抜けて北上川と合流する。雫石川は有史以前から何度も流路を変えており、雫石川南岸に広がる沖積段丘の形成に大きな影響を及ぼしている。また、里館遺跡が立地する北岸の沖積段丘の形成にも影響を与えており、里館遺跡の南端は、雫石川の旧河道によって画された比高差3～4m段丘崖となっている。

この段丘は、雫石川の氾濫によって形成された所謂自然堤防であり、縄文時代中期の土器片を含む黒色土層を基底とし、その上層に2～3mの厚さで砂礫・シルト・粘土層、さらに表土が覆っている。この砂礫層やシルト層の間には厚さ0.2～5cmほどの鉄分が沈殿した層が互層に入り込んでいる。これは段丘が水漬けと乾燥の状態を繰り返し、徐々に形成されていったことを裏付けるものである。



第1図 里館遺跡位置図 (1:100,000)

2. 歴史的環境

周辺の遺跡 里館遺跡が立地する沖積段丘の北側には、岩手山を主な給源とする火山灰砂台地（滝沢台地）の南縁部が接しているが、その範囲は盛岡市北部から滝沢村北部までおよび、数多くの縄文～平安時代の遺跡が立地する。

縄文時代 滝沢台地の南東部にあたる厨川地区には数多くの縄文時代の遺跡が分布している。大新町・大館町・安倍館遺跡からは草創期の「爪形文土器」が発見されている。それに続く早期の押型文や貝殻文土器も大新町遺跡から出土している。ほかにも大館堤・館坂・前九年・宿田遺跡で早期初頭～早期末の土器群が確認されている。中期になると大館町遺跡に大規模な集落が営まれるようになり、周辺の大館堤・大新町・小屋塚遺跡でも小規模な派生集落が確認されている。

弥生～古墳 弥生時代については遺物が少量発見されるものの、明確な遺構はあまり確認されていない。安倍館遺跡で弥生終末期の赤穴式、後北 C₂-D 式が出土している。古墳時代の遺構・遺物も発見は少ないが、宿田遺跡で北大 I 式や南小泉式併行期の古式土器器など、続縄文や古墳時代中期～後期の遺物が確認されている。

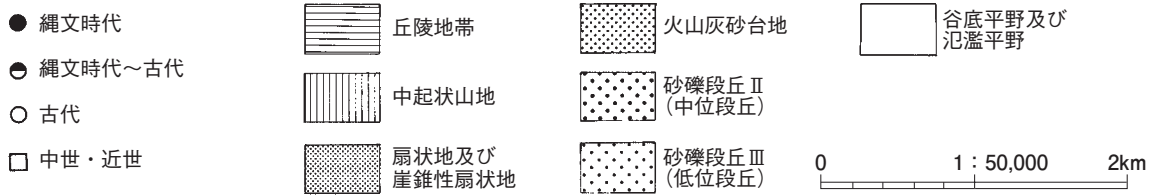
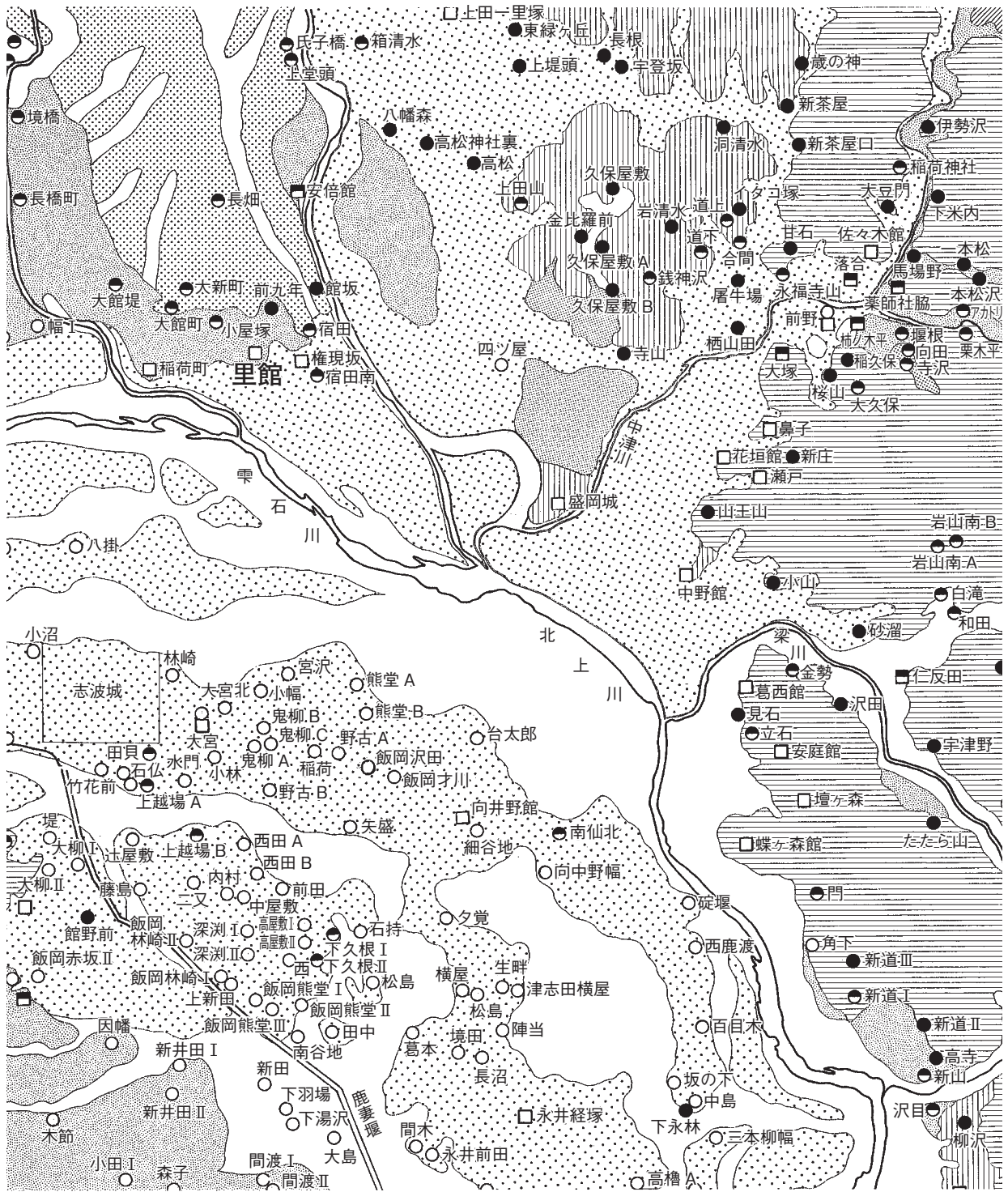
古代 奈良時代になると小規模ながら、大館町・大新町・小屋塚遺跡に竪穴住居が造られ集落が営まれ始める。また、本遺跡の北東に位置する宿田遺跡からは円形周溝墓が数多く発見されており、周辺集落の共同墓地として利用されていたと推測される。平安時代（9 世紀）になると志波城（803 年）が造営され、この地域にも律令国家の支配が及ぶ。しかし、志波城は北側を流れる雫石川の度重なる水害のために、10 年余りでその機能を徳丹城（矢巾町）に移動させる。

10 世紀後半から 12 世紀までの遺跡は非常に少ないが、大新町遺跡や上堂頭遺跡、高松神社裏遺跡では 10 世紀後半頃の掘立柱建物や竪穴と土器が出土している。里館遺跡の西約 800 m に所在する稲荷町遺跡では 12 世紀後半の掘立柱建物跡や竪穴跡などの居館に付随する遺構が確認されている。

中世 戦国期の盛岡周辺は、南部氏と斯波氏の衝突が激しかった地域であるが、市内に数多く分布する城館跡の多くは、室町時代から戦国時代のものと考えられている。これらの城館跡は丘陵や山頂など見晴らしのいい場所だけでなく、平野部の微高地などにも多数築かれている。里館遺跡の北東 1km に所在する安倍館遺跡は、7 つの曲輪を擁する 16 世紀を中心とした城館遺跡である。

近世 現在の城下の町並みの形成は、南部氏の盛岡城築城から始まる。

九戸合戦終結後の天正 19 年（1591）、南部信直は帰還する豊臣軍の軍監浅野長政から不來方城において、この不來方の地に新城を築くよう、積極的に奨められている（『祐清私記』）。その後、慶長 3 年（1598）より盛岡城の築城は始まり、寛永 10 年（1633）に一応の完成をみる。石垣補修に係る発掘調査により、盛岡城は 1～5 期の変遷を経て現在に至っていることが判明している。また、盛岡城は当初の基本的縄張りに浅野長政が関わり、実際の築城工事には前田利家の家臣内堀伊豆世頼式が奉行並として参画していたことから、戦国期の北奥地域の城館とは大きく異なり、総石垣の豊臣系城郭として国内最北の事例となっている。



第2図 地形分類と周辺の遺跡分布

Ⅱ．調査成果

1. 遺跡の現況

里館遺跡は安倍館遺跡のような古絵図がなく、全体の構造や規模はこれまでの調査成果と現況から推定することになる。遺跡の南限は比高差3～4mの段丘崖で雫石川の旧河道によって画されている。

遺跡の推定範囲として、西端は南北に流れる幅2～5mの水路とし、また東は比高1m以下の緩斜面の下端としている。北側は滝沢台地との間に後背湿地が存在し、北限となっている。

この範囲の中に堀と考えられる水路が横T字形に流れており、これによって区画される東半を権現坂地区、北西部を西権現坂地区、南西部を里館地区としている。

里館地区の中にはいくつか堀跡と考えられる地形が存在している。現在の天昌寺の西側には南北に用水路が流れており、この地区の東限の堀跡と推定される。この水路は北に150mで西にわかれ、やや屈曲しながら遺跡西限の水路につながっている。また、国道46号線と市道中屋敷町青山1丁目2号線（以下「市道」）の交差点から南の道路は周辺より一段低い地形で自然の谷地あるいは堀跡と考えられる部分である。このほかにも、堀跡の末端部分と思われる段丘崖の切込みが確認できる。一つは第29次調査の南西部で現在段丘崖を登る通路で、その北側延長上でS D 300堀跡が検出されている（第1・29次調査）。また、市道から段丘崖を西へ50m行った地点に地形の切り込みがあり「堀っこ」と呼ばれている。この北側でS D 408堀跡が確認されている（第7次調査）。さらに西方約70mの地点は「小堀」と呼ばれており、かつてこのあたりから北西方向に細長く水田が存在していたことから、やはり堀跡の存在が考えられる。実際に北西延長部分の調査（第42・44次調査）で堀跡を確認している。

このように里館地区には、段丘崖に沿って区画された複数の曲輪が存在したことが推定される。

2. 過去の調査

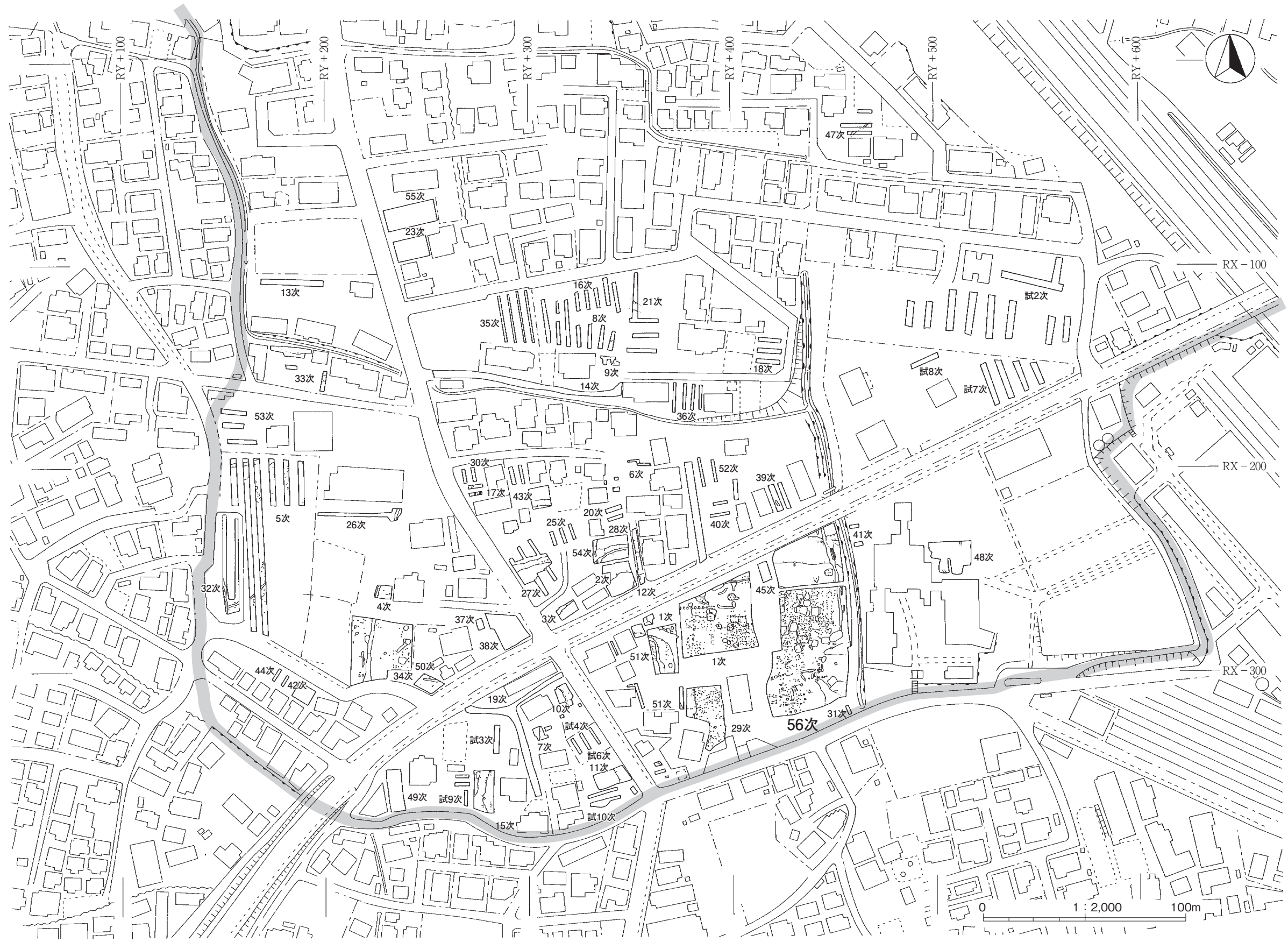
里館遺跡の調査は、昭和32年（1957）の岩手大学の板橋源教授らによる旧国鉄客貨車区建設に伴う事前調査が契機である。これまで盛岡市教育委員会の調査は55次まで行われている。

第1次調査ではS D 300・400の2条の堀跡の他、多数の掘立柱建物跡、竪穴建物跡が確認されている。堀跡のうちS D 300は、南側の段丘崖の切り込みにつながり、里館地区の南西部を区画するものと考えられる。西側の市道が堀跡の名残と考えるならば、間に南北約60m、東西約40mの曲輪が想定される。S D 300の内側（西側）には、4棟の掘立柱建物跡と3列の柱列跡、外側（東側）には、掘立柱建物跡24棟、礎石柱列1列、柱列8列、竪穴建物跡17棟、柵跡2条などが確認されている。S D 300の東側では、桁行4～6間、梁間2～3間で、身舎内部に間仕切があり、庇や広縁をもつ主屋と考えられる建物、桁行4～5間、梁間1～2間の長屋風の建物、桁行2～3間、梁間1～2間の小形の建物の3種類に大別できる。これらの遺構からは、陶磁器、土器、古銭、鉄製品、石製品などが出土している。15～16世紀の陶磁器には瀬戸美濃の灰釉、鉄釉の陶磁器、青磁、白磁の破片などが出土している。古銭では皇宗通寶、元豊通寶、洪武通寶、永樂通寶などが出土している。

第2・3次調査では、第1次調査で確認されたS D 400堀跡の西の延長と考えられる部分が検出されている。この堀は、段丘崖からはなれて東西方向に掘られているもので、平坦部を南北に区画する堀である。里館地区を区画するものと考えられる。

第7次調査では、「堀っこ」から北に走るS D 408堀跡の東肩を確認している。上層からは15～16世紀の明白磁皿破片の他、近世～近代の陶磁器類が出土している。

第10・11次調査では市道西側に南北に走るS D 409堀跡を確認している。



第3図 里館遺跡全体図

第29次調査では南北に走る堀跡を確認しており、これは第1次調査で確認されたS D 300堀跡の延長と考えられる。堀の東側からは掘立柱建物跡6棟、掘立柱列跡4列、竪穴建物跡1棟が発見されている。出土遺物としては、16世紀の瀬戸美濃皿の破片や16～17世紀の志野皿の破片などの陶磁器、皇宗通寶や永楽通寶などの古銭、鉄鏃、鉄釘、砥石が出土している。これらの遺構は、第1次調査で確認された堀跡や建物跡と一連のものと考えられる。

第34次調査では、第4次調査(昭和58年)の際に検出した溝跡の延長を確認している。また、溝跡の西側に同時期と考えられる柵列跡を1条、12世紀と考えられる竪穴建物跡を1棟、竪穴建物跡よりも古い掘立柱建物跡を1棟発見している。これらの遺構から、12世紀にかけてのかわらけ片数十点、瀬戸渥美の陶磁器片が数点出土している。

第45次調査では、東西に走る堀跡が2条並んで確認されており、これは第1次調査で確認されたS D 400堀跡の続きと考えられる。また、堀跡の南側に竪穴建物跡を3棟、土坑2基を確認している。

第54次調査では、第45次調査の続きと考えられる堀跡2条と溝跡2条が確認されている。南側の堀跡は第2次調査で確認されたS D 400堀跡の北端と考えられる。

3. 平成 23 年度の調査

調査経過 当該区域について土地所有者である宗教法人天昌寺から、供養塔建築および駐車場造成に係る事前協議があり、平成 23 年 4 月 26 日付けで発掘届が提出された。これを受けて同年 5 月 19 日～23 日にかけてトレンチによる試掘調査を行った。その結果、計画区域全域において中世の竪穴建物跡や柱穴、溝跡などが確認され、工事着手前の緊急発掘調査が必要となった。平成 23 年 8 月 9 日、宗教法人天昌寺と盛岡市教育委員会との間で「埋蔵文化財に関する協定書」が締結され、遺跡の学び館が調査を行った。調査期間は平成 23 年 8 月 22 日～11 月 25 日、調査面積は 2,096㎡である。

4. 遺構の検出状況

第 56 次調査区は遺跡の南端に位置し、北から南にかけての緩やかな斜面となっている。標高値は 130 m 前後である。遺構は黒褐色シルト～暗褐色砂土層上面で検出した。

検出遺構 確認された遺構は、縄文時代の陥し穴状遺構 7 基、古代の竪穴住居跡 1 棟、中世の竪穴建物跡 21 棟、掘立柱建物跡 19 棟、中世～近世の柱列跡 8 列、土坑 50 基、柱穴 813 口、近世の竪穴状遺構 3 棟、溝跡 3 条、沢状遺構 4 基である。

5. 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構はすべて陥し穴状遺構である。調査区全域に分布し、形状は全て溝状で、RD003 以外は規模もほぼ同じである。出土遺物は確認されていないが、同形の陥し穴状遺構は盛岡全域で確認されており、概ね縄文時代後期～晩期に属するものと考えられる。

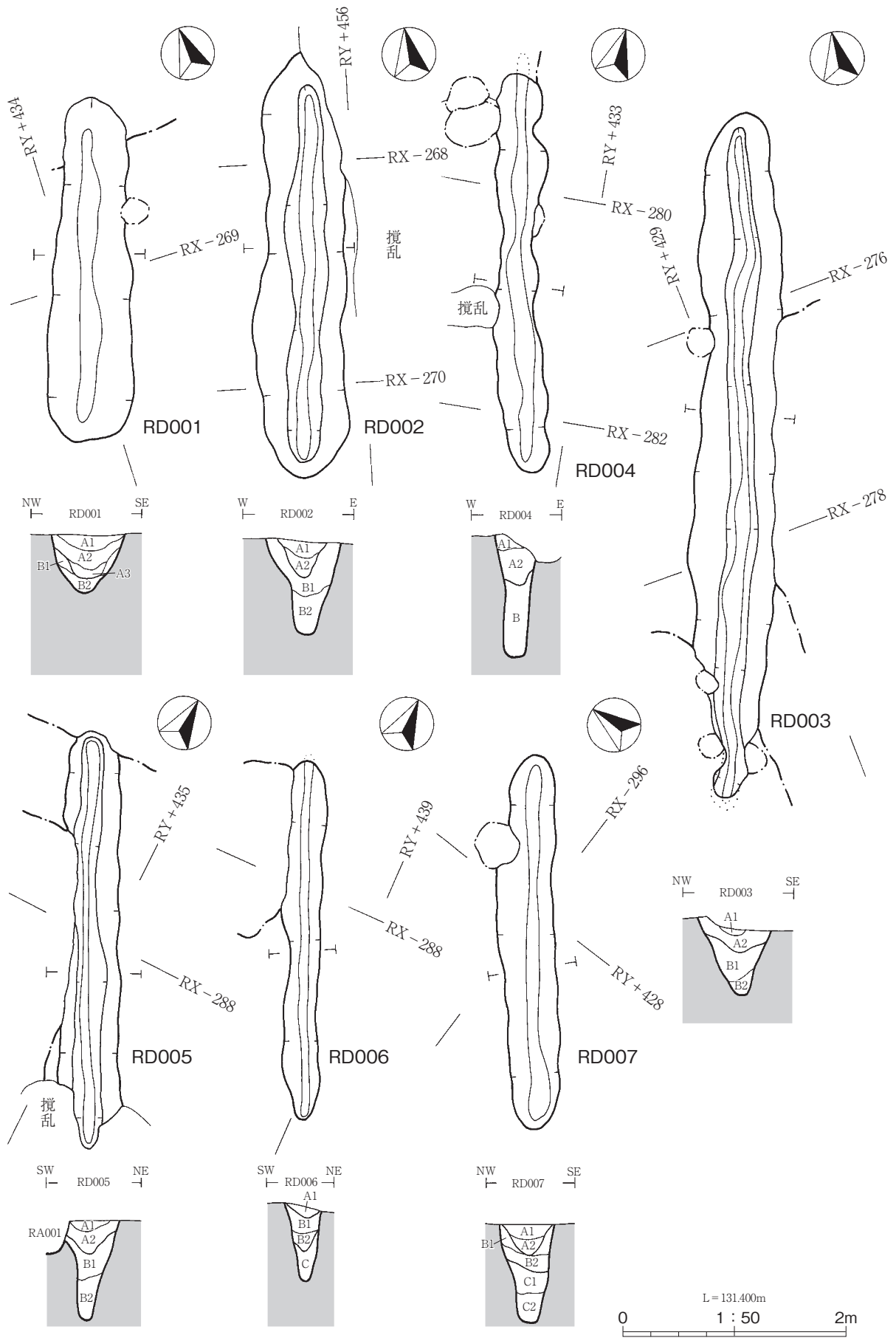
遺構ではないが検出面である砂質シルト層の約 2 m 直下で縄文時代中期の土器片を含む、粘質の高い黒褐色土層が確認されている。これは里館遺跡が立地する自然堤防が形成される以前に北側の火山灰砂台地（滝沢台地）より流れ込んだ二次堆積層と考えられる。

遺構番号	位置	平面形	規模 (m)			重複関係	出土遺物
			長軸	短軸	深さ		
RD001	調査区北	溝状	3.05	0.71	0.51	中近世の遺構に切られる	－
RD002	調査区北東	溝状	3.78	0.81	0.82	中近世の遺構に切られる	－
RD003	調査区中央西	溝状	6.15	0.75	0.65	中近世の遺構に切られる	－
RD004	調査区中央西	溝状	3.55	0.41	1.11	中近世の遺構に切られる	－
RD005	調査区中央	溝状	3.71	0.51	0.91	中近世の遺構に切られる	－
RD006	調査区中央	溝状	3.21	3.25	0.7	中近世の遺構に切られる	－
RD007	調査区南西	溝状	3.75	0.52	0.85	中近世の遺構に切られる	－

第 1 表 陥し穴状遺構一覧



第4図 第56次調査区全体図

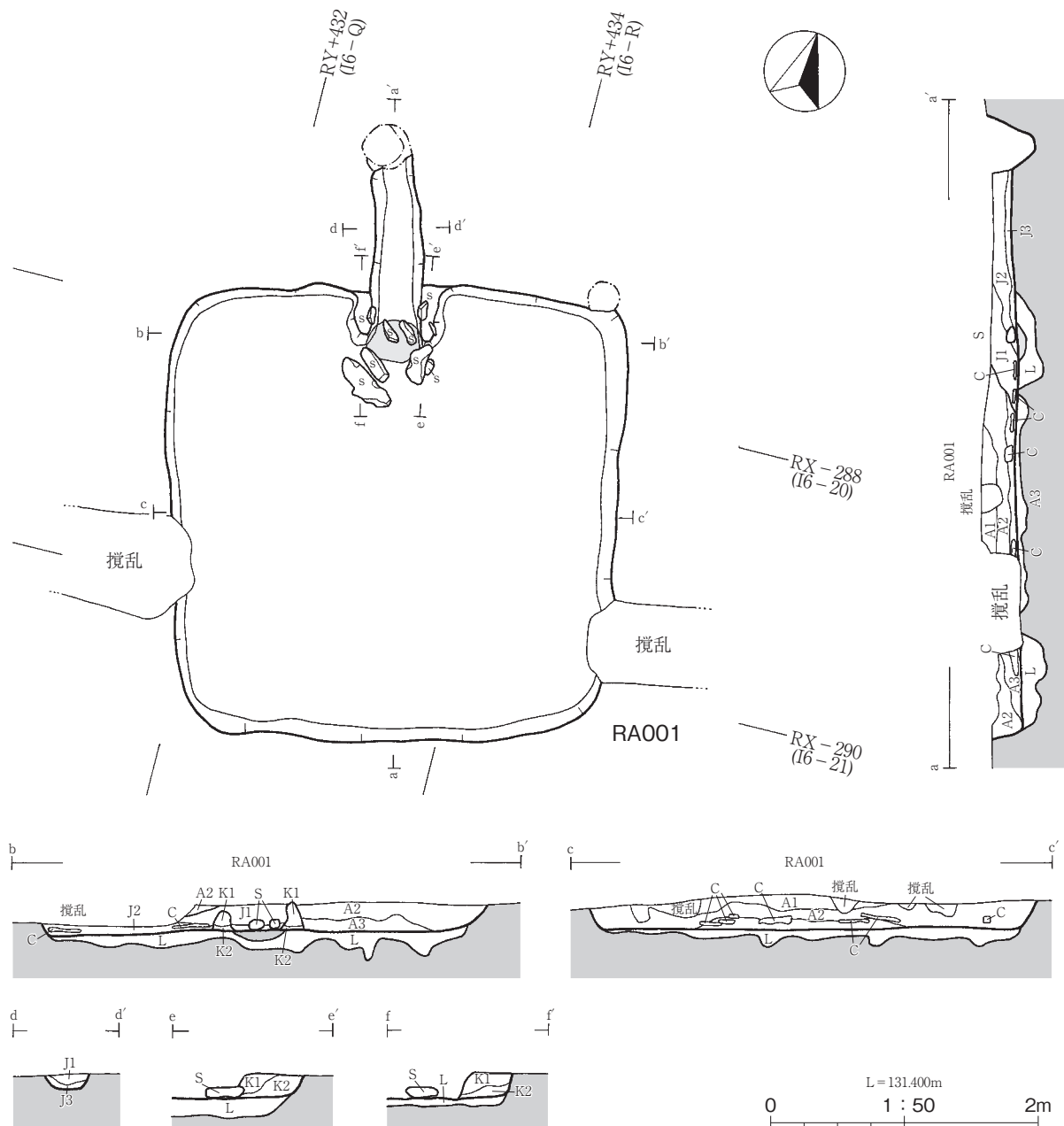


第5图 RD001 ~ 007 土坑

6. 古代の遺構

RA 001 竪穴住居跡 (第6図)

位置	調査区中央	平面形	方形	主軸方向	N 14° W	重複関係	なし
規模	北—南 3.41 m × 西—東 3.35 m	掘込面	削平	検出面	暗褐色シルト層		
埋土	A層—黒褐色土を主体とし、暗褐色砂土を粒状に含む。3層に細分される。						
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.15～0.25 mで、外傾して立ち上がる。						
床の状態	床面はほぼ平坦である。構築土(L層)は暗褐色砂土を主体に黒褐色土を粒～塊状に少量含む。厚さは0.03～0.22 mをはかる。						
カマド	北壁中央に構築され、煙道平面形は溝状を呈する。煙出しは削平されている。煙道内には、黒褐色土を主体とし、暗褐色砂土と焼土を少量含むカマド崩壊土(J層)が堆積している。カマド基底部分は礫を芯材とし、火床面は0.37 × 0.28 mの不整円形を呈する。						
柱穴	なし	出土遺物	土師器の小破片が出土。				

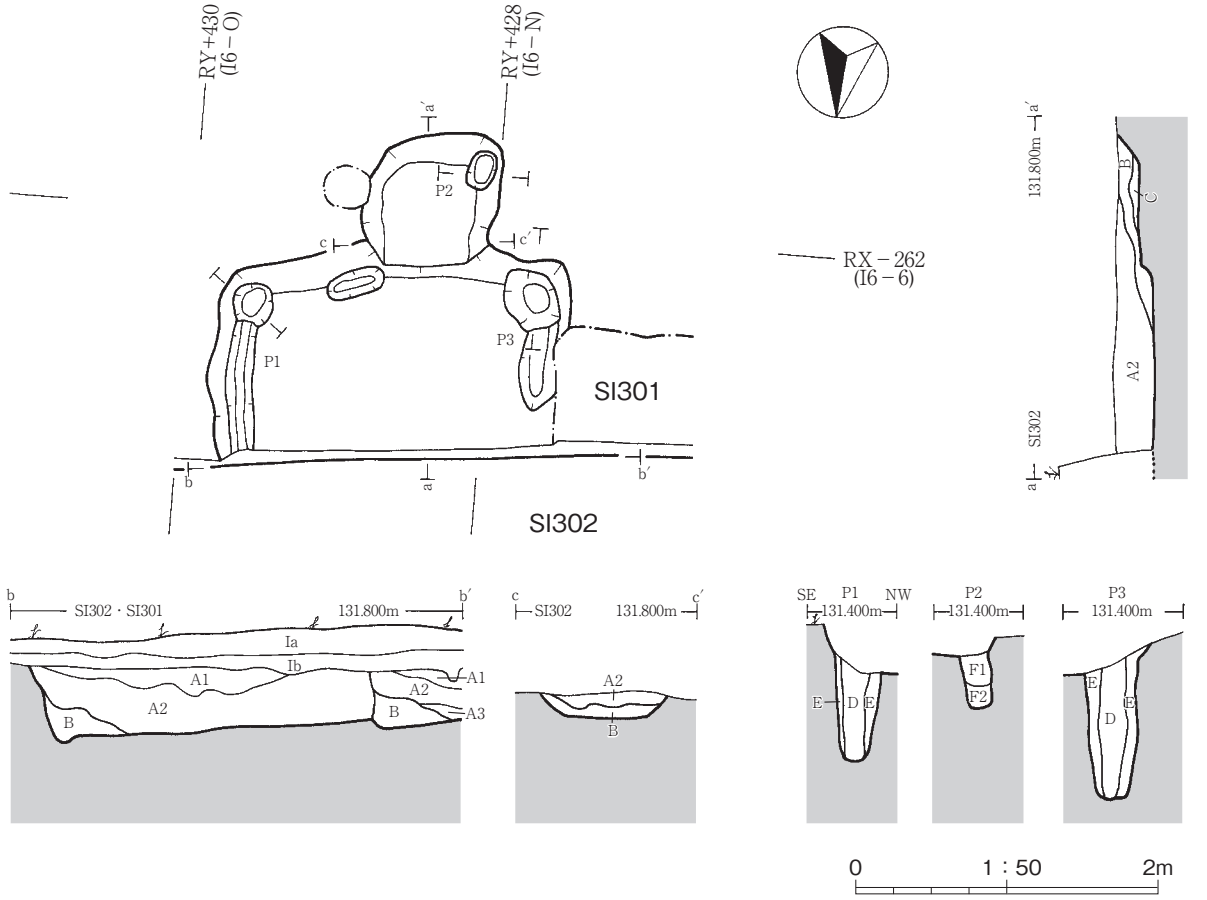
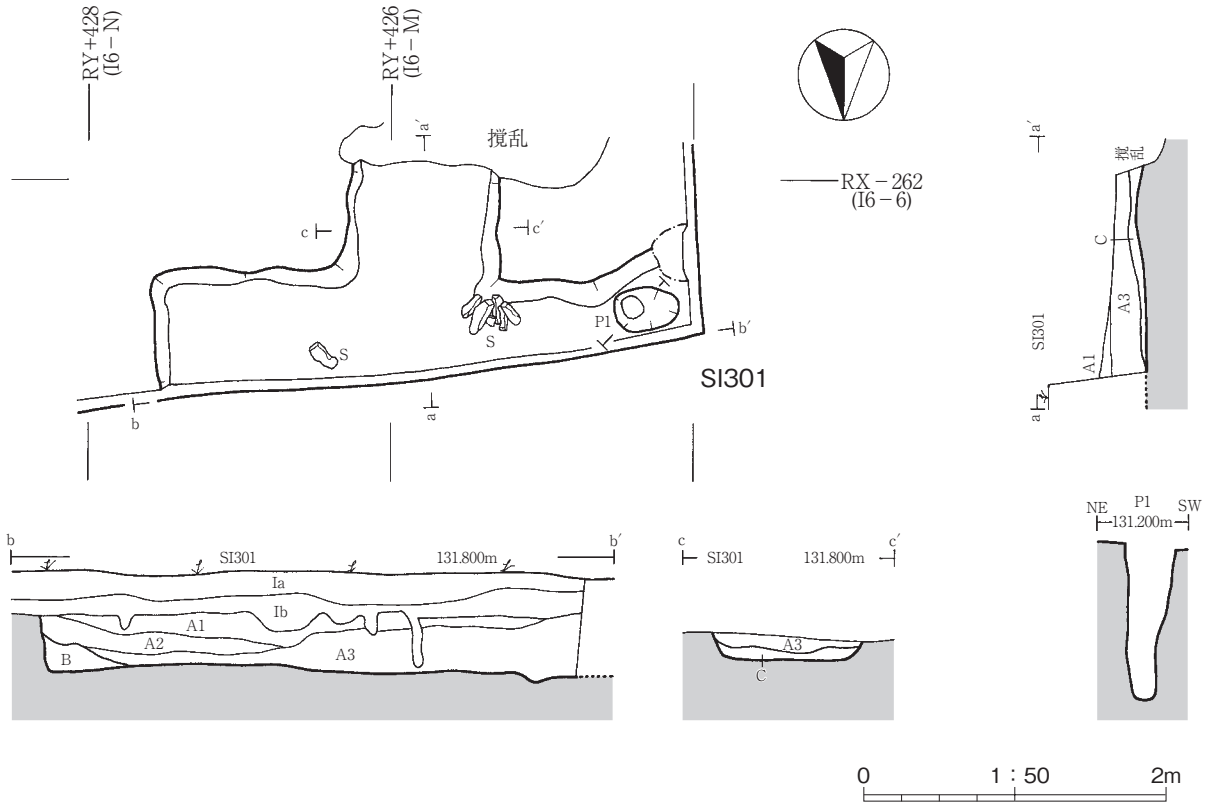


7. 中世の遺構

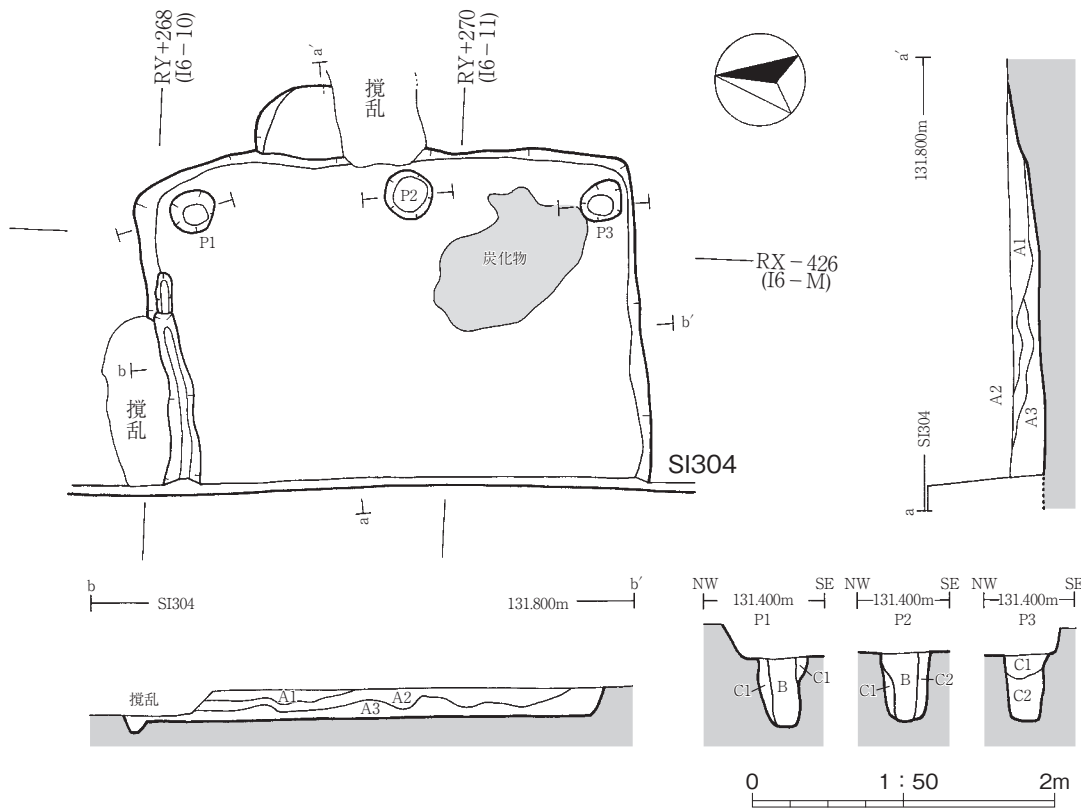
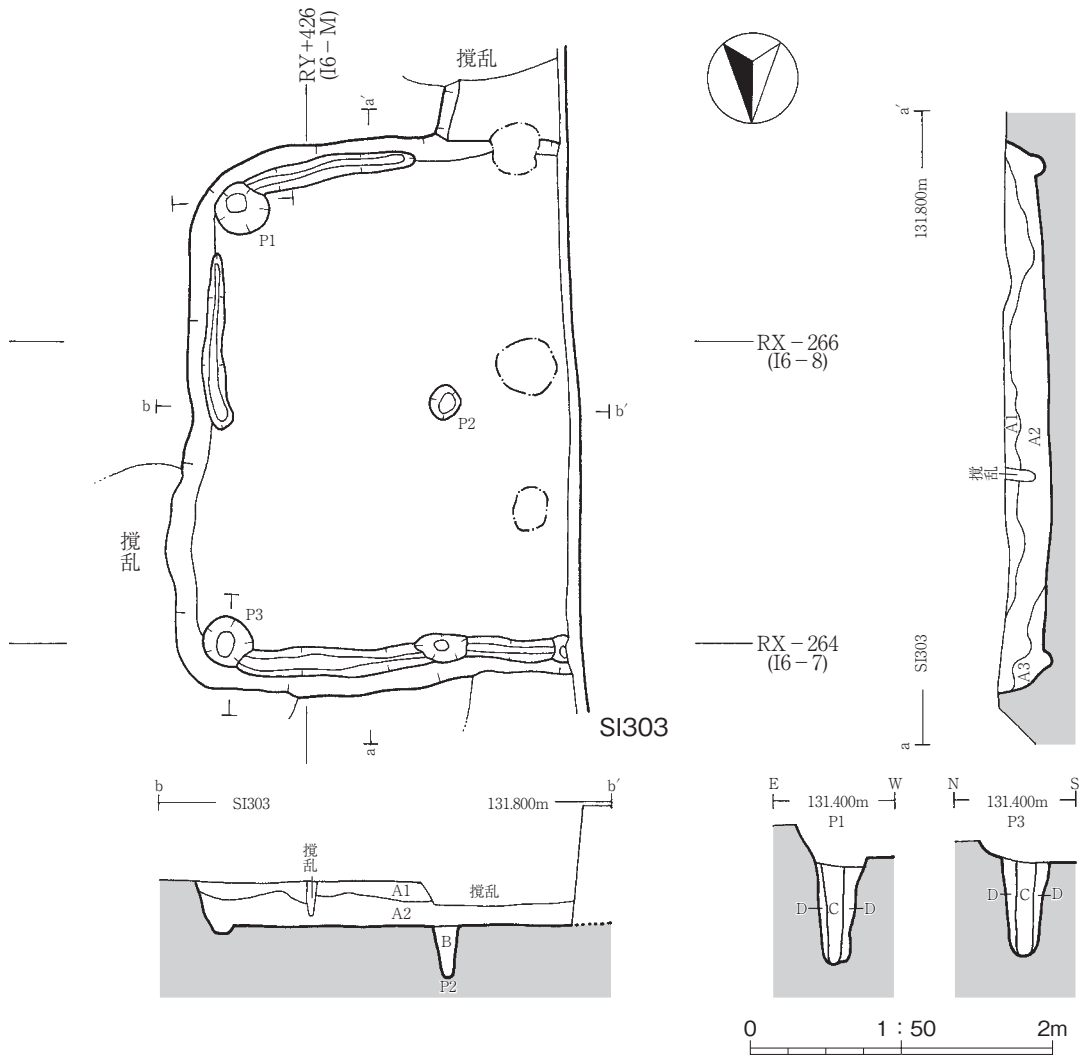
竪穴建物跡 竪穴建物跡は主に調査区北部に集中して確認されている。出入口部分は南北のどちらかに付けられている例が多い。また、重複が多く、SI307～311の重複関係から少なくとも5時期に渡り、竪穴建物跡が造り替えられている。

遺構番号	位置	規模 (m)		主軸方向	重複関係	埋土	柱穴	出土遺物
		一辺	深さ					
SI301	I6-M6	3.54以上	0.25～0.42	S4° W	SI302を切る	黒褐色土	P1-1.03m	—
SI302	I6-N6	2.32以上	0.21～0.43	S5° E	SI301に切られる	黒褐色土	P1-0.61m, P2-0.35m, P3-0.88m	—
SI303	I6-M8	3.65以上	0.21～0.32	S1° w	—	黒褐色土	P1-0.67m, P2-0.62m, P3-0.34m	刀装具
SI304	I6-M11	3.21	0.18～0.23	N 83° E	—	黒褐色土	P1-0.46m, P2-0.45m, P3-0.44m	土師器高台付坏
SI305	I6-R6	2.8	0.05～0.16	S88° E	—	黒褐色土	P1-0.42m, P2-0.23m, P3-0.20m P4-0.45m	砥石
SI306	I6-T8	2.65	0.26～0.33	N4° E	—	黒褐色土	—	元豊通寶 刀子
SI307	I6-S11	3.15	0.13～0.29	S8° W	—	黒褐色土	P1-0.29m, P2-0.24m, P3-0.24m, P4-0.12m P5-0.48m, P6-0.42m, P7-0.15m, P8-0.41m P9-0.63m, P10-0.22m, P11-0.52m	中国産白磁皿 瀬戸美濃灰釉皿 板状鉄製品
SI308	I6-S11	3.89～4.51	0.06～0.42	N1° E	SI309・310・312を切る	褐色土	P1-0.24m, P2-0.47m, P3-0.30m, P4-0.73m P5-0.45m, P6-0.41m, P7-0.50m, P8-0.32m P9-0.55m, P10-0.49m	中国産青磁盤、開元通寶、 皇宗通寶、元豊通寶、天聖 元寶、鉄鏃、棒状鉄製品
SI309	I6-Q10	3.82	0.22～0.49	S3° E	SI309・311を切る	褐色土	P1-0.63m, P2-0.38m, P3-0.58m, P4-0.42m P5-0.63m, P6-0.60m, P7-0.56m, P8-0.57m P9-0.43m, P10-0.38m, P11-0.38m	中国産染付皿
SI310	I6-R10	3.85	0.07～0.31	N3° E	SI309・310に切られる	黒褐色土	P1-0.57m, P2-0.47m, P3-0.43m, P4-0.52m P5-0.45m, P6-0.38m, P7-0.46m, P8-0.47m P9-0.38m, P10-0.36m, P11-0.48m P12-0.50m, P13-0.49m	—
SI311	I6-Q11	3.41	0.30～0.37	N2° W	SI309に切られる	褐色土	P1-0.42m, P2-0.35m, P3-0.47m P4-0.47m, P5-0.27m	—
SI312	I6-T9	3.65	0.16～0.42	N1° E	SI307・309に切られる	褐色土	P1-0.31m	瀬戸美濃灰釉三足盤 石臼
SI313	I6-U10	3.75～4.38	0.53～0.55	S6° E	SI314・315を切る	黒褐色土	P1-0.55m, P2-0.68m, P3-0.69m, P4-0.64m P5-0.65m, P6-0.47m, P7-0.50m, P8-0.60m P9-0.57m, P10-0.12m, P11-0.08m	釘、台石 須恵器坏
SI314	I6-U10	4.02	0.39～0.42	N5° W	SI313に切られる	褐色砂土 (人為)	P1-0.27m, P2-0.23m	—
SI315	I6-V11	4.45	0.05～0.16	E4° S	SI313に切られる	黒褐色土	P1-0.35m, P2-0.39m	—
SI316	I6-M15	3.48	0.29～0.43	S4° W	SI317を切る	黒褐色土	P1-0.10m, P2-0.18m, P3-0.15m	—
SI317	I6-N16	3.9	0.22～0.49	N2° E	SI316に切られる	黒褐色土 (人為)	P1-0.32m, P2-0.31m, P3-0.42m	瀬戸美濃灰釉平碗
SI318	I6-O14	3.28～3.78	0.04～0.07	S4° E	—	黒褐色土	—	—
SI319	I6-Y16	2.05～2.35	0.05～0.20	N6° E	—	黒褐色土	—	—
SI320	I6-R18	3.10～4.05	0.15～0.23	E2° N	—	黒褐色土	P1-0.31m, P2-0.55m, P3-0.29m P4-0.36m, P5-0.41m, P6-0.41m	—
SI321	I6-V19	3.12～4.13	0.14～0.21	N9° E	—	黒褐色土	P1-0.75m, P2-0.56m, P3-0.55m P4-0.43m, P5-0.34m, P6-0.52m P7-0.13m, P8-0.62m	釘、板状鉄製品 古代土師器埴
SI322	I7-O1	3.95	0.03～0.10	N13° W	—	黒褐色土	P1-0.32m, P2-0.31m, P3-0.42m	—

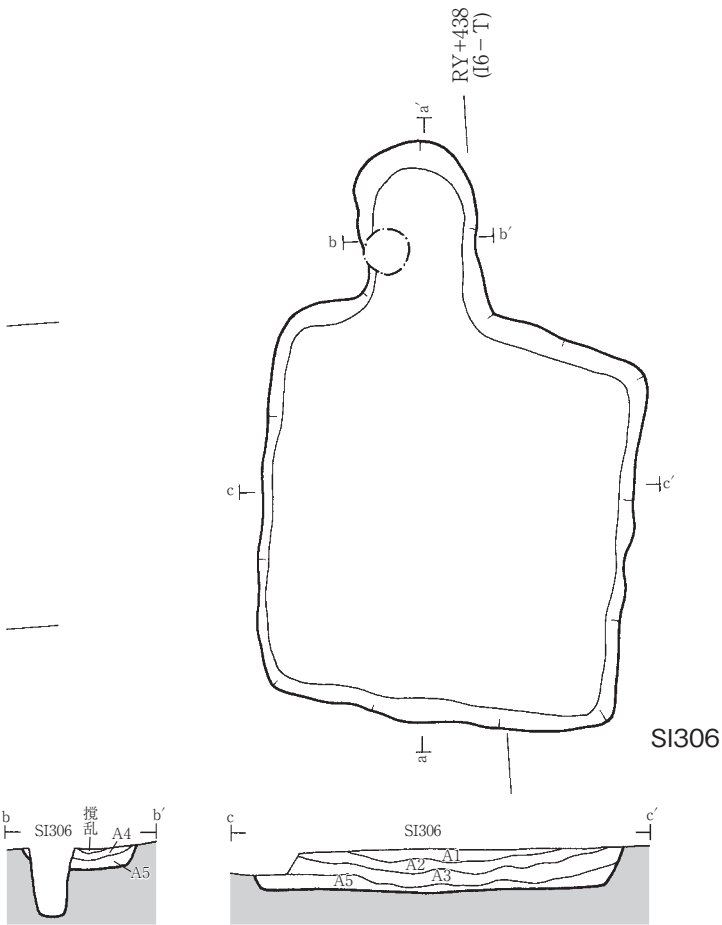
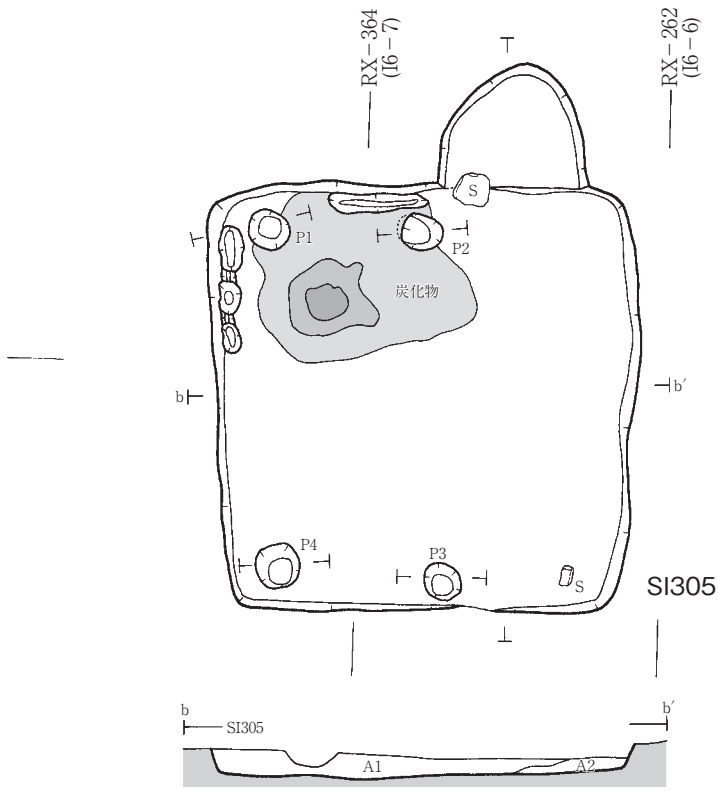
第2表 竪穴建物跡一覧



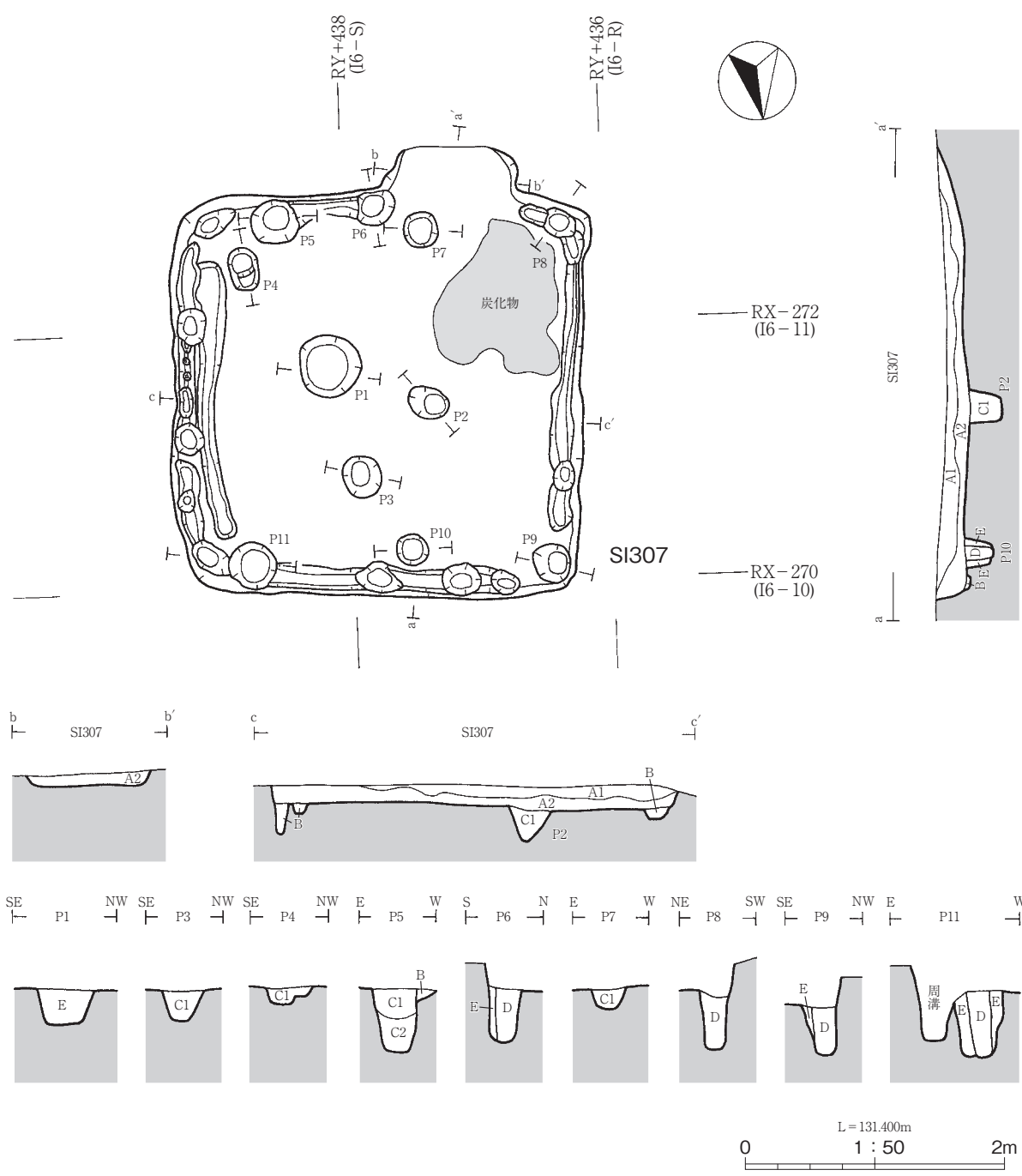
第7図 SI301・302 竪穴建物跡



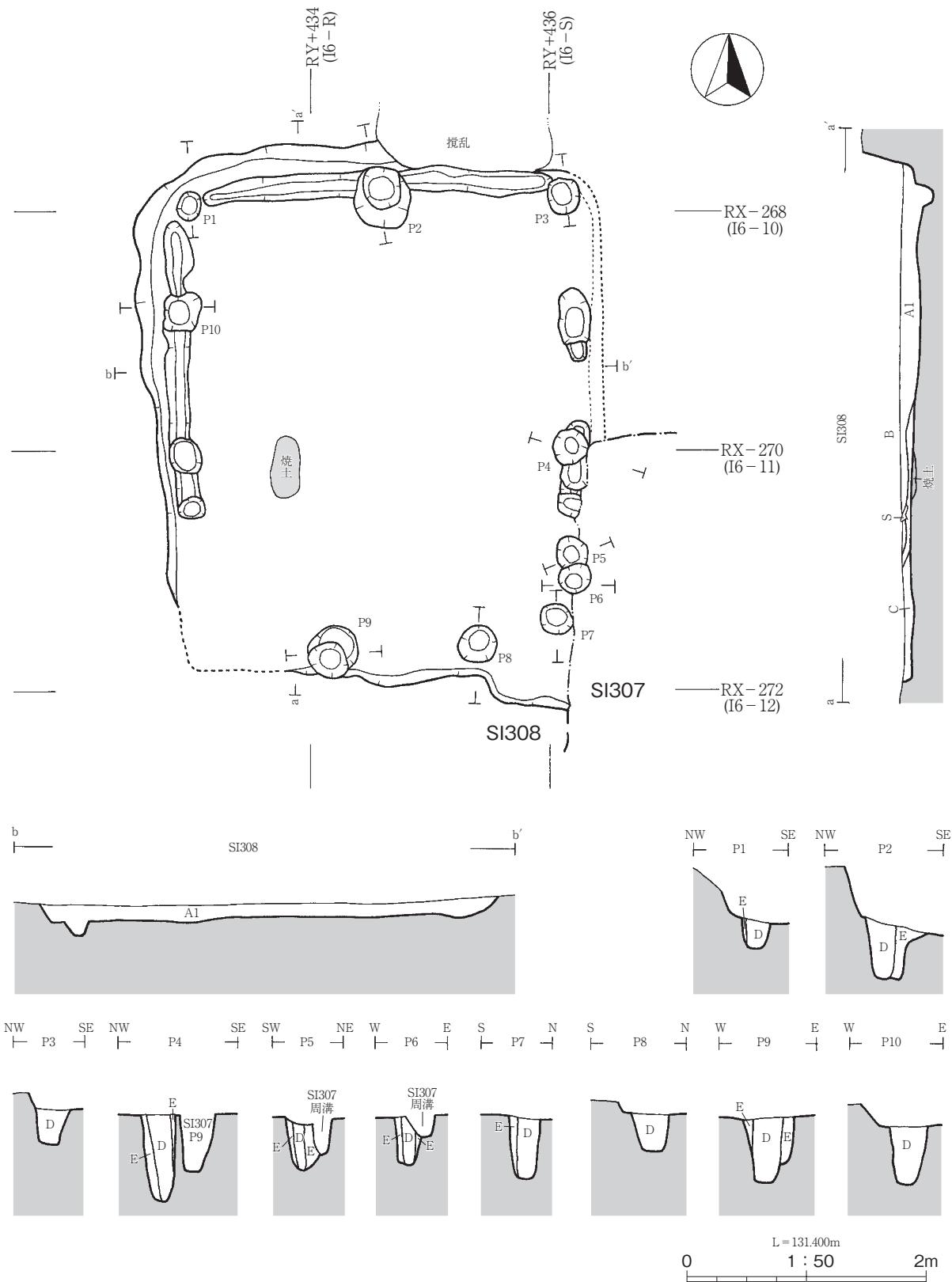
第8図 SI303・304 竪穴建物跡



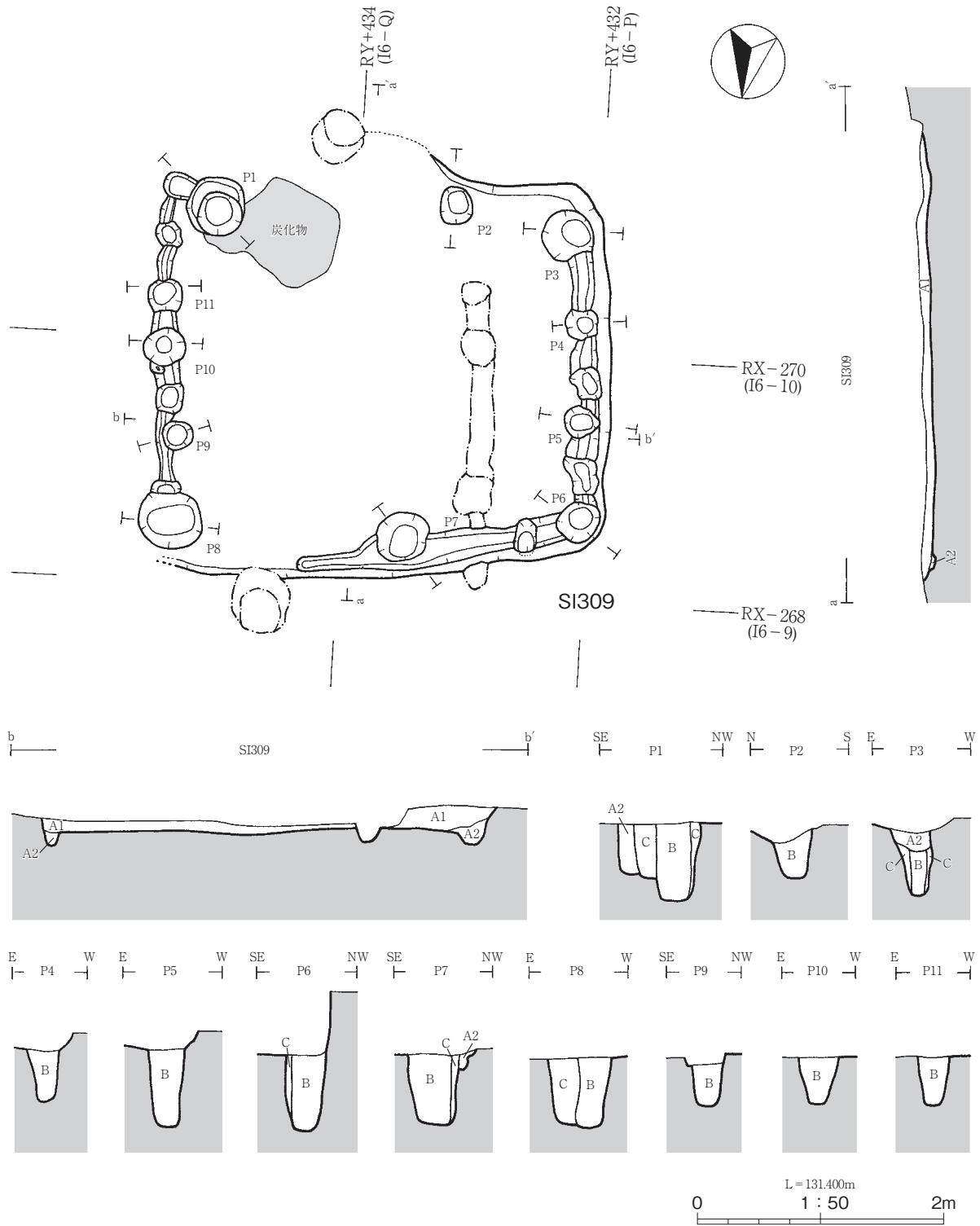
第9図 SI305・306 竪穴建物跡



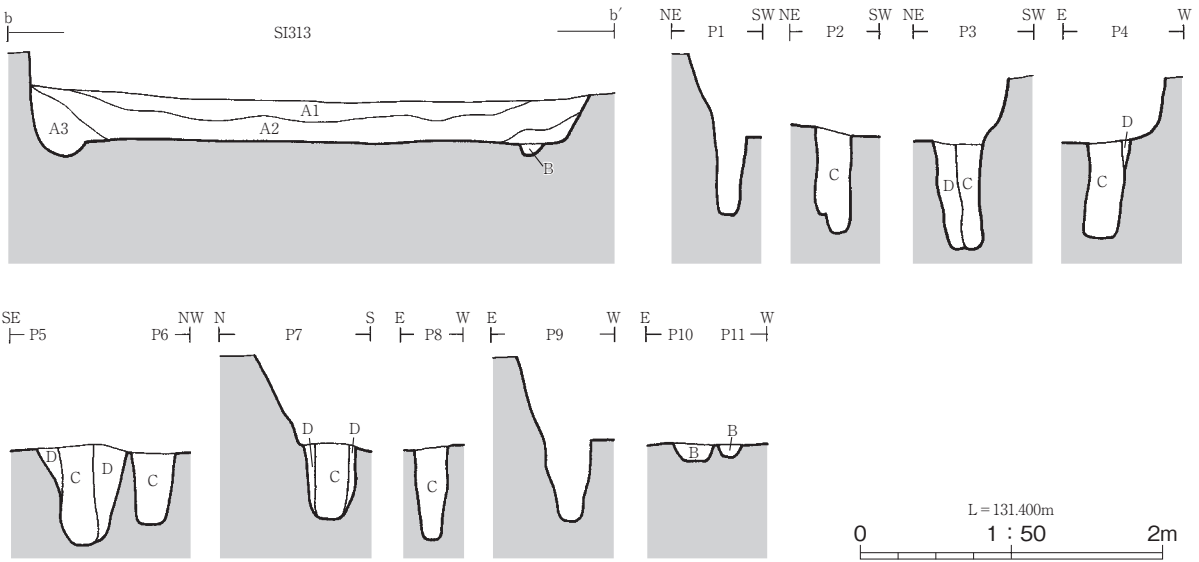
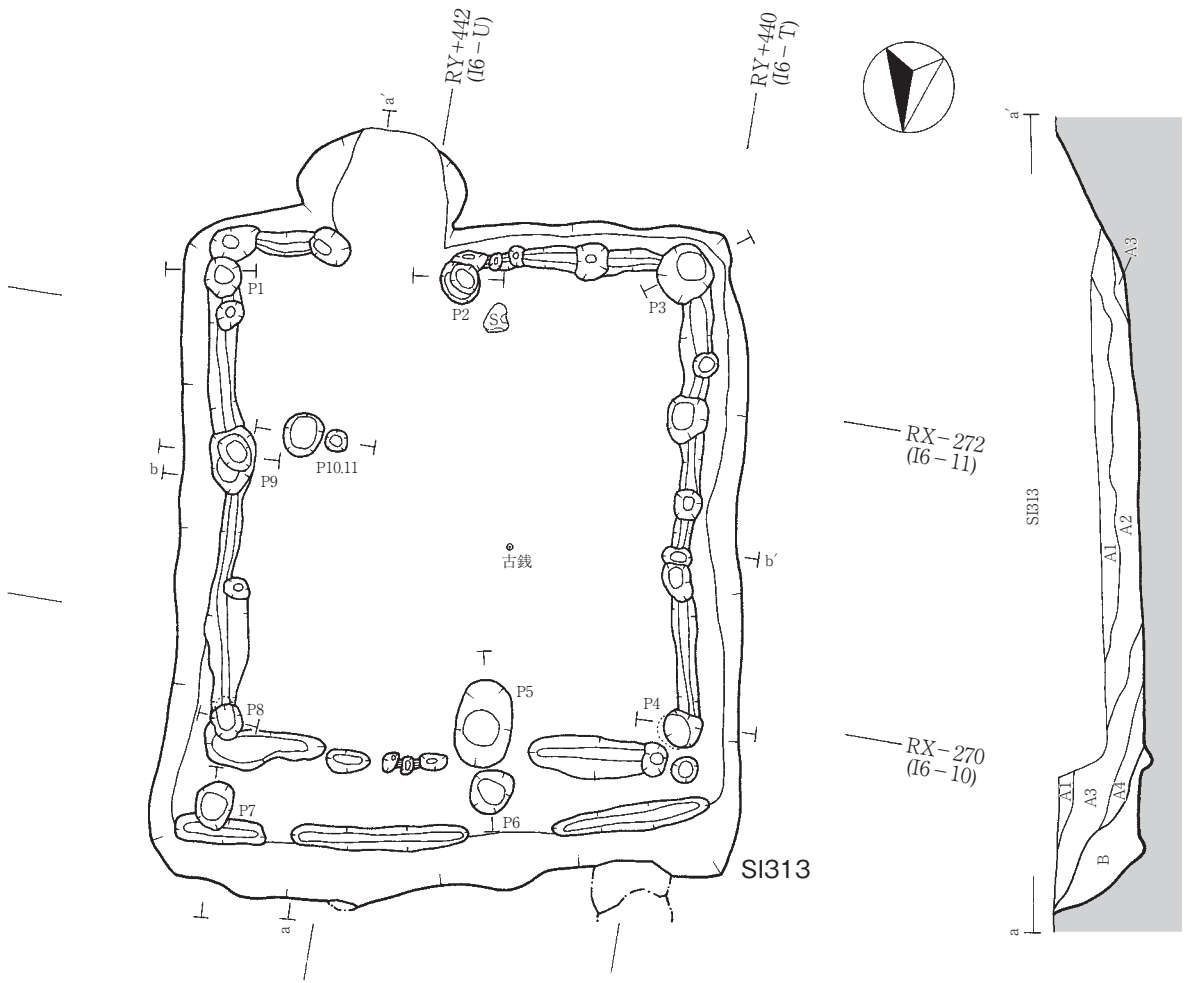
第 10 図 SI307 竪穴建物跡



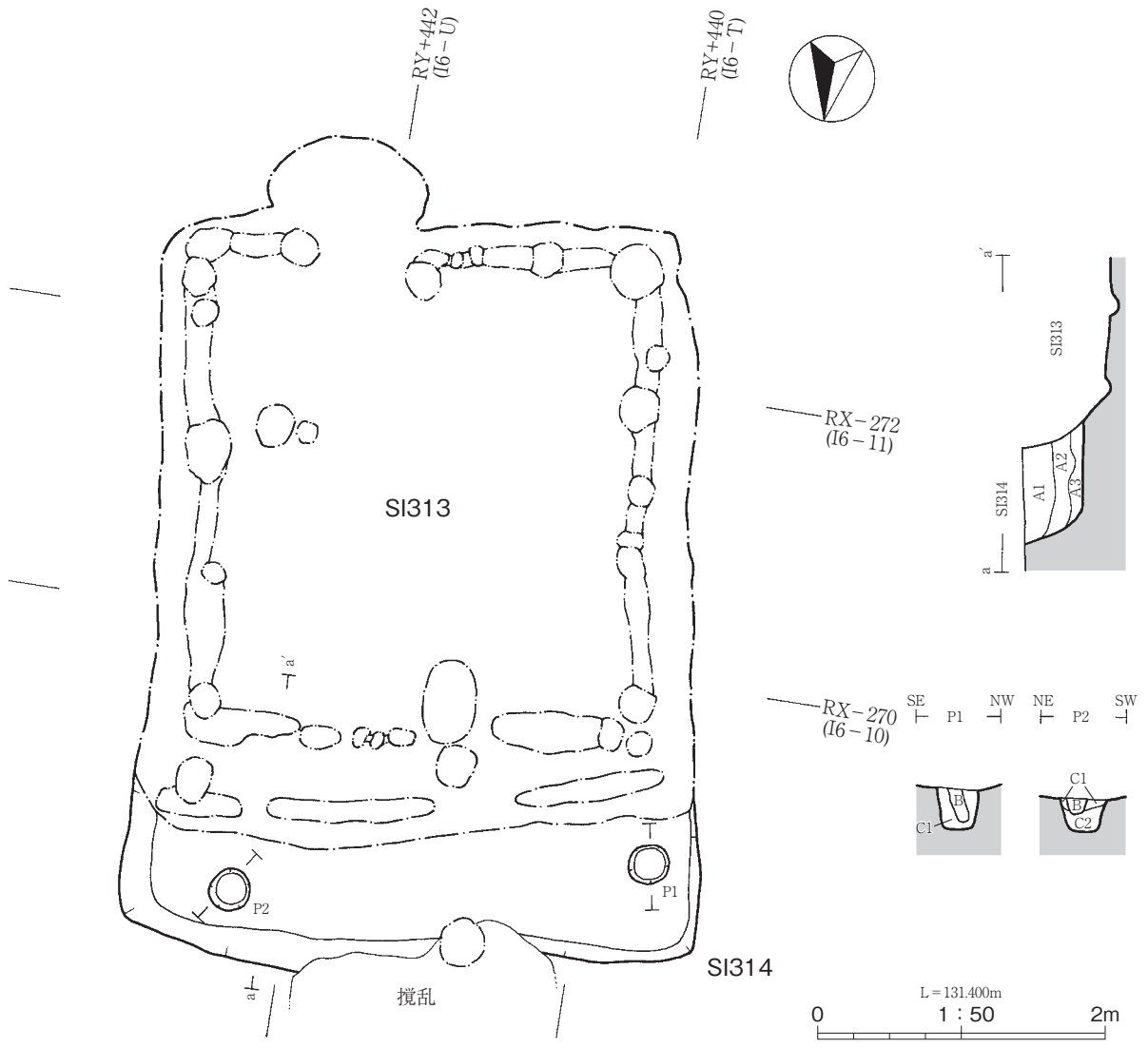
第 11 図 S308 豎穴建物跡



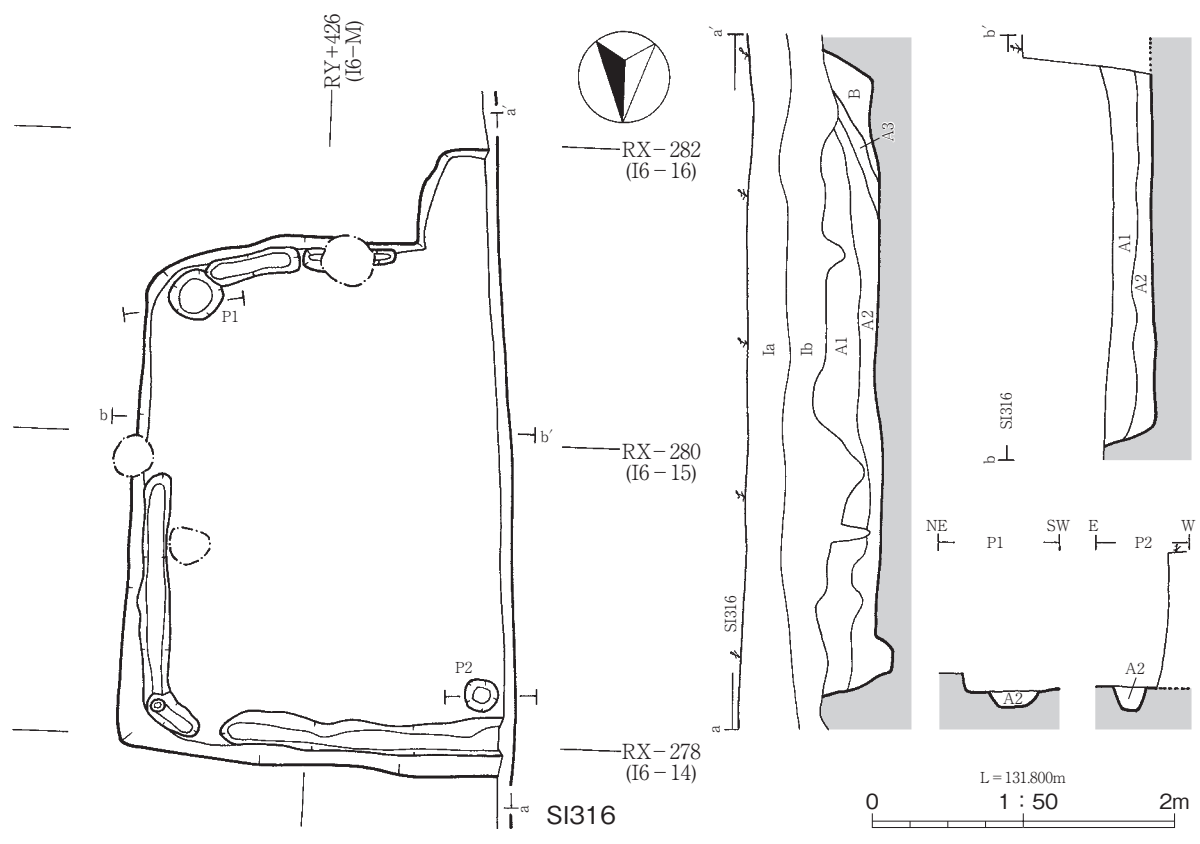
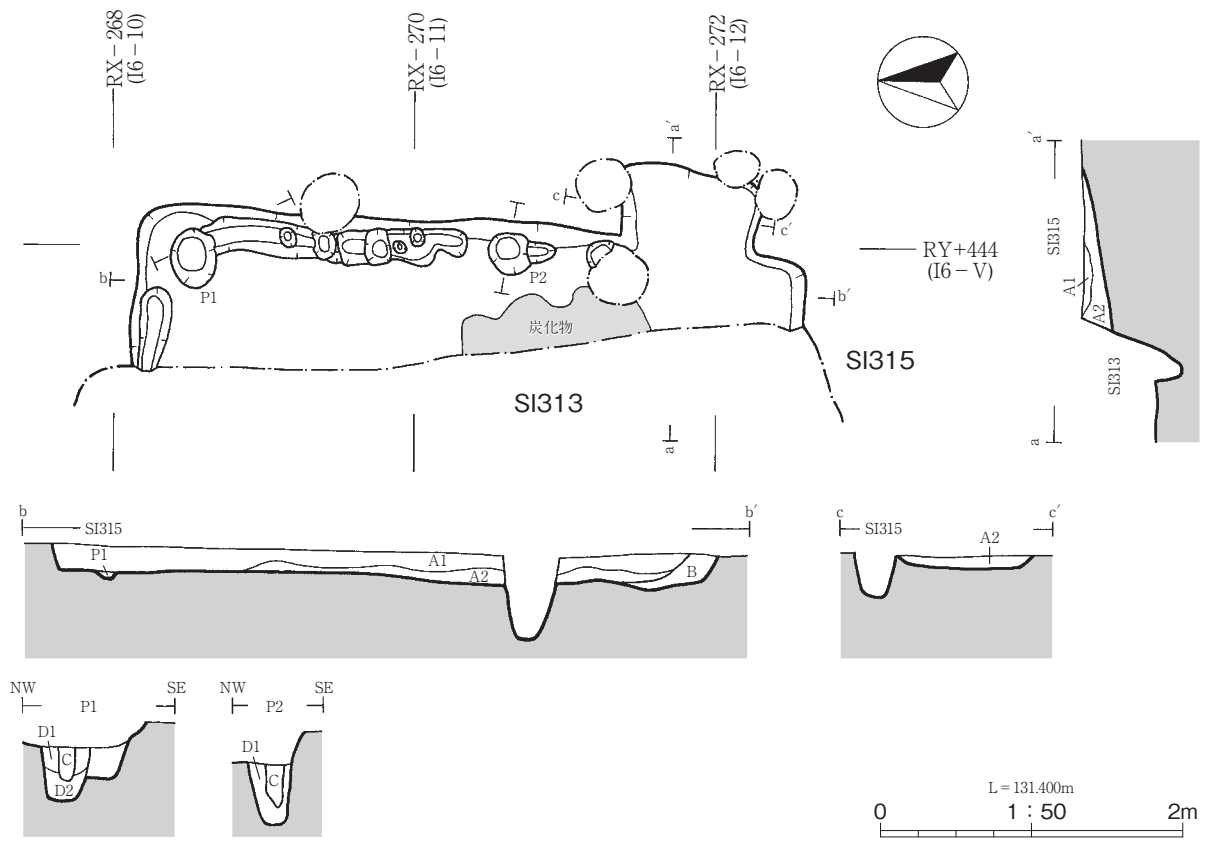
第 12 図 SI309 竪穴建物跡



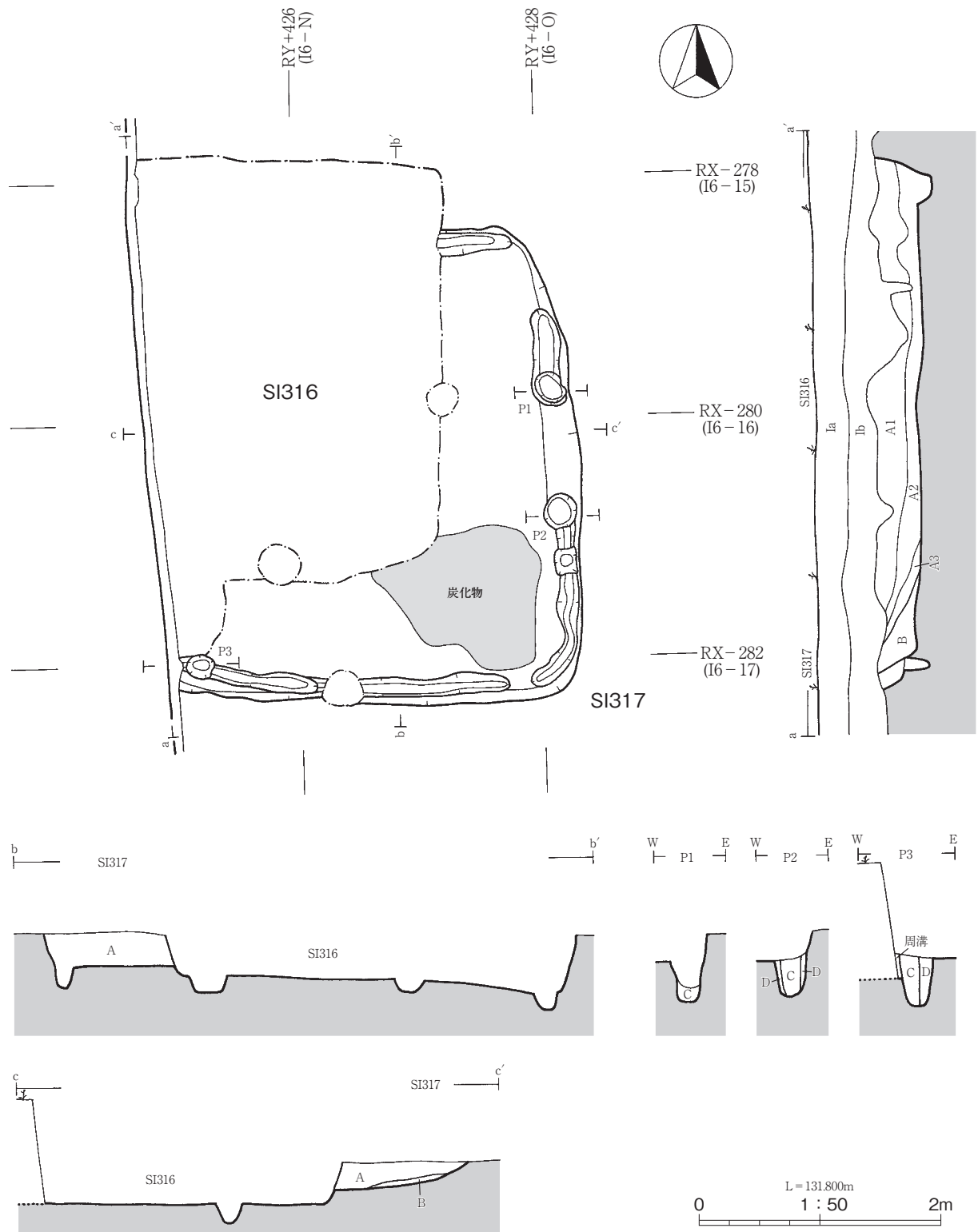
第 15 図 SI313 竪穴建物跡



第 16 図 SI314 豎穴建物跡



第 17 图 SI315・316 竖穴建物跡



第 18 図 SI317 竪穴建物跡

8. 中～近世の遺構

柱列跡 柱列跡は8棟確認された。埋土は黒色土が主体となるものが多い。規模等については第3表にまとめた。

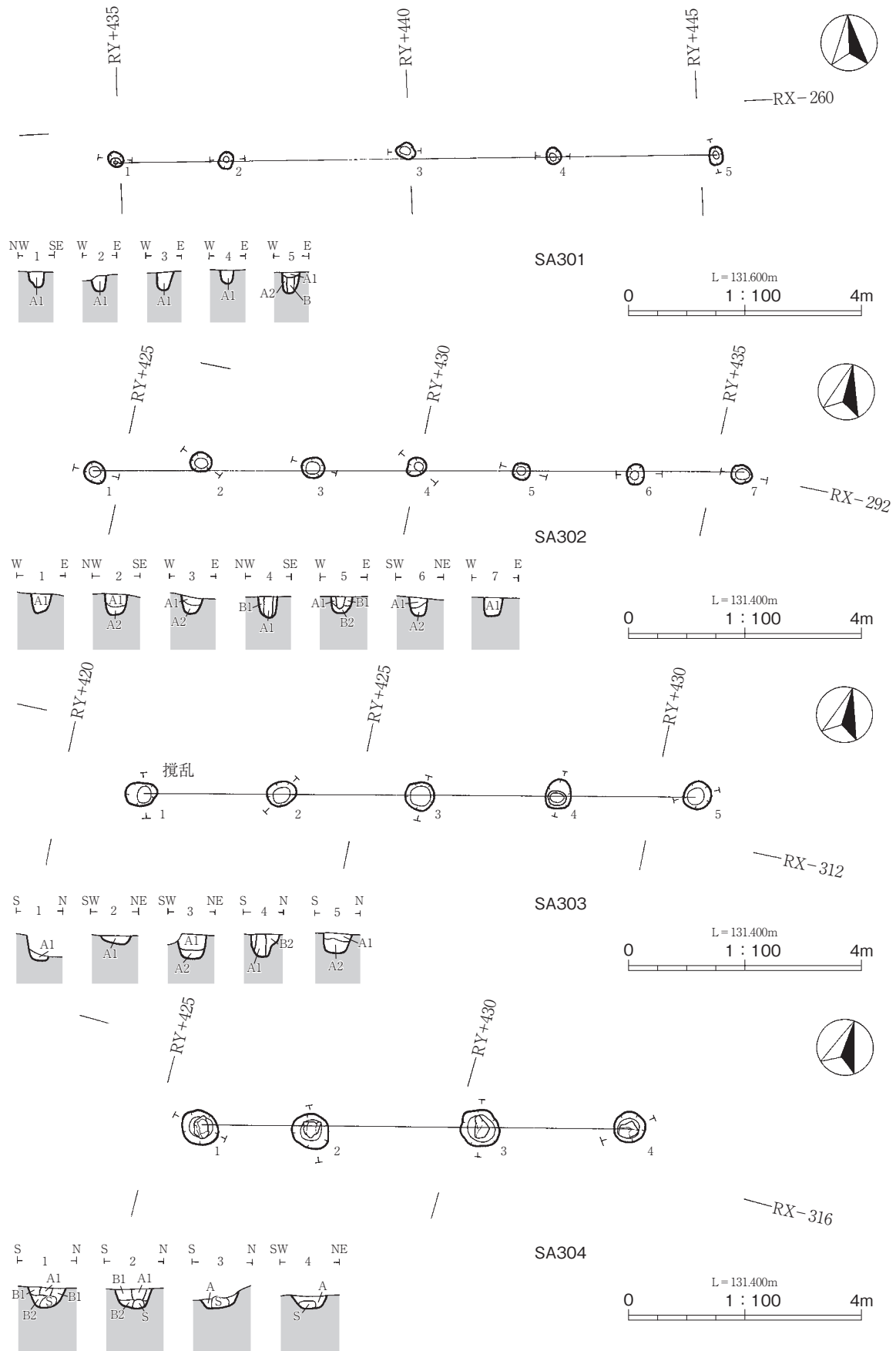
掘立柱建物跡 掘立柱建物跡は19棟確認された。埋土は黒色土を主体とするものが多い。調査区北部に遺構が集中している。規模等については第4表にまとめた。

遺構名	桁行	棟方向	主軸方向	柱間寸法	柱穴規模	時期	出土遺物
SA301	4間 (1030cm)	E2° S	東西棟	6尺3寸～10尺1寸 (190cm～305cm)	径20～30cm 深25～35cm	15～16世紀	永楽通寶
SA302	6間 (1115cm)	W12° S	東西棟	5尺8寸～6尺3寸 (175cm～190cm)	径30～35cm 深30～40cm	15～16世紀	—
SA303	4間 (945cm)	W11° S	東西棟	7尺8寸～7尺9寸 (235cm～240cm)	径45～50cm 深15～45cm	近世	—
SA304	3間 (735cm)	W15° S	東西棟	6尺～9尺5寸 (182cm～287cm)	径60～65cm 深20～35cm	近世	—
SA305	2間 (490cm)	W11° S	南北棟	8尺 (242cm)	径40～45cm 深35～45cm	近世	—
SA306	2間 (490cm)	W11° S	南北棟	8尺 (242cm)	径50～55cm 深45～85cm	近世	—
SA307	4間 (953cm)	W15° S	南北棟	7尺5寸～8尺 (227cm～242cm)	径50～65cm 深40～75cm	近世	—
SA308	2間 (529cm)	W12° S	南北棟	8尺～9尺5寸 (242cm～287cm)	径55～60cm 深20～75cm	近世	—

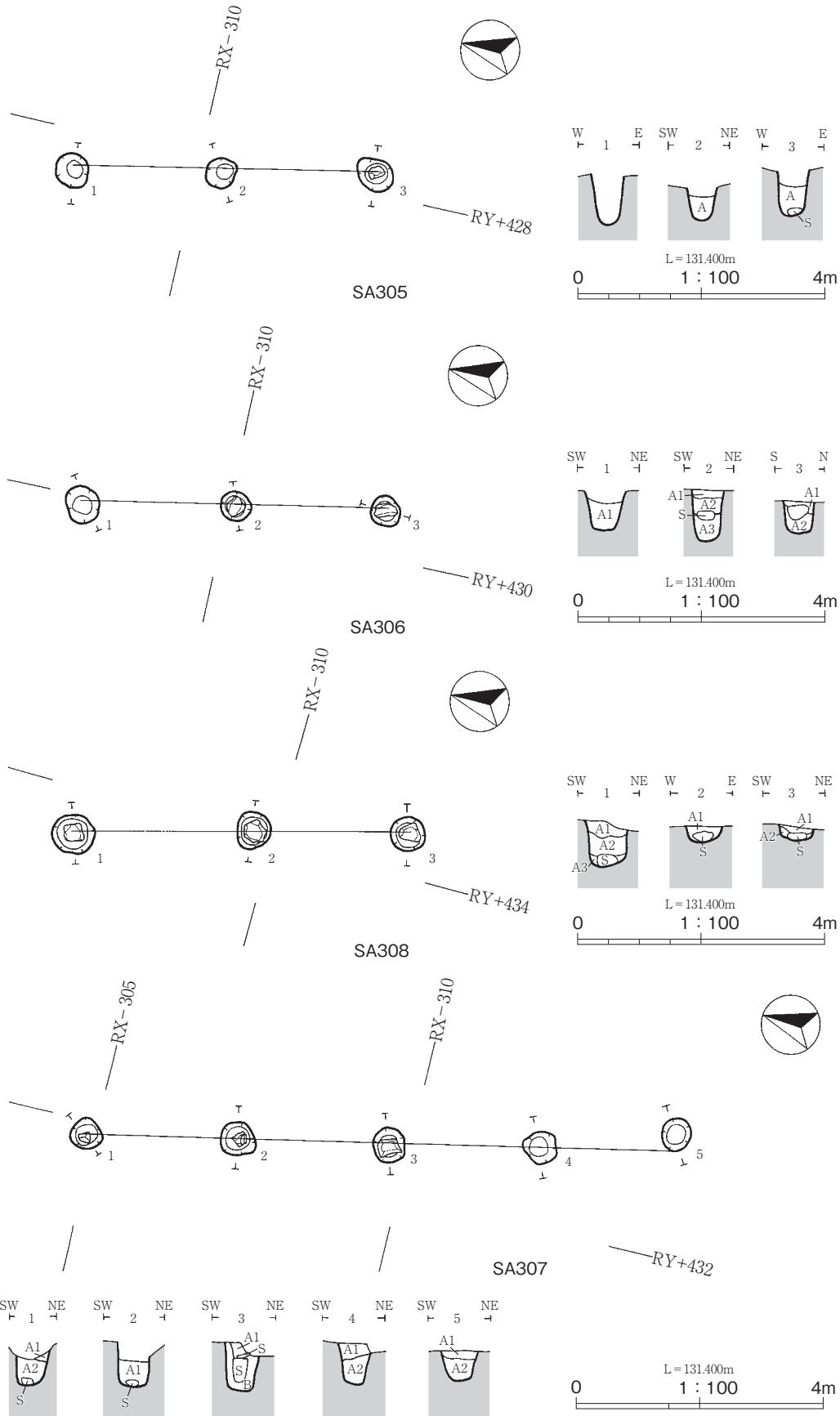
第3表 柱列跡一覧

遺構名	規模			棟方向	主軸方向	柱間寸法		柱穴規模	時期	出土遺物
	桁行	梁間	庇			桁行	梁間			
SB301	4間 (1090cm)	1間 (435cm)	一面庇 (120×440cm)	ほぼ東西	東西棟	8尺5寸～10尺 (257cm～303cm)	14尺5寸 (440cm)	径20～45cm 深10～50cm	15～16世紀	—
SB302	5間 (1145cm)	2間 (380cm)	一面庇 (1155×95cm)	W3° S	東西棟	6尺～12尺2寸 (182cm～370cm)	6尺3寸 (190cm)	径20～65cm 深10～45cm	15～16世紀	—
SB303	3間 (705cm)	1間 (110cm)	—	W2° S	東西棟	7尺3寸～8尺2寸 (220cm～235cm)	3尺5寸 (106cm)	径25～35cm 深20～35cm	15～16世紀	—
SB304	3間 (535cm)	2間 (450cm)	—	N9° E	南北棟	5尺5寸～6尺5寸 (167cm～197cm)	5尺8寸～8尺7寸 (175cm～265cm)	径20～50cm 深15～55cm	15～16世紀	—
SB305	3間 (555cm)	2間 (440cm)	—	ほぼ南北	南北棟	6尺～6尺5寸 (182cm～197cm)	7尺～7尺5寸 (212cm～227cm)	径30～50cm 深20～60cm	15～16世紀	—
SB306	3間 (950cm)	2間 (460cm)	—	W8° S	東西棟	8尺2寸～14尺 (250cm～425cm)	5尺5寸～8尺5寸 (167cm～258cm)	径20～60cm 深15～55cm	15～16世紀	—
SB307	4間以上 (915cm以上)	2間 (515cm)	—	W1° S	東西棟	6尺4寸～8尺5寸 (195cm～258cm)	8尺2寸～8尺7寸 (250cm～265cm)	径20～45cm 深10～55cm	15～16世紀	至道元寶、元祐通寶 永楽通寶
SB308 母屋	7間 (1825cm)	2間 (545cm)	—	W2° S	東西棟	7尺5寸～11尺 (227cm～333cm)	9尺 (273cm)	径20～60cm 深10～70cm	15～16世紀	中国染付皿 宣徳通寶
SB308 角屋	4間 (1050cm)	2間 (460cm)	—	W2° S	東西棟	7尺5寸～9尺5寸 (227cm～288cm)	7尺～8尺5寸 (212cm～258cm)	径30～40cm 深30～40cm	15～16世紀	—
SB309	3間 (595cm)	1間 (365cm)	—	N3° W	南北棟	6尺1寸～8尺 (185cm～242cm)	12尺 (365cm)	径25～35cm 深10～50cm	15～16世紀	—
SB310	4間 (800cm)	2間 (285cm)	—	W1° S	東西棟	4尺5寸～7尺5寸 (135cm～227cm)	7尺5寸～9尺4寸 (227cm～285cm)	径25～35cm 深20～45cm	15～16世紀	—
SB311	3間 (645cm)	2間 (460cm)	—	N4° W	南北棟	6尺～8尺5寸 (182cm～258cm)	6尺～8尺5寸 (182cm～258cm)	径30～50cm 深10～60cm	15～16世紀	—
SB312	3間 (635cm)	1間 (350cm)	一面庇 (625×125cm)	E3° S	東西棟	5尺2寸～9尺 (160cm～273cm)	11尺5寸 (350cm)	径20～40cm 深15～65cm	15～16世紀	永楽通寶
SB313	3間 (810cm)	2間 (540cm)	—	W1° S	東西棟	8尺～10尺5寸 (242cm～318cm)	7尺5寸～9尺5寸 (228cm～288cm)	径25～45cm 深10～65cm	15～16世紀	無銘銭
SB314	6間 (1375cm)	2間 (535cm)	—	E3° S	東西棟	7尺～8尺 (212cm～242cm)	7尺5寸～10尺5寸 (228cm～318cm)	径20～45cm 深10～60cm	15～16世紀	無銘銭
SB315	3間 (730cm)	1間 (340cm)	—	W10° S	東西棟	8尺～8尺5寸 (242cm～257cm)	11尺5寸 (348cm)	径35～50cm 深30～60cm	15～16世紀	—
SB316	5間 (1200cm)	2間 (465cm)	一面庇 (200×210cm)	W11° S	東西棟	7尺～8尺5寸 (212cm～257cm)	7尺5寸～8尺 (228cm～242cm)	径35～45cm 深15～65cm	15～16世紀	瀬戸美濃灰釉皿、石鏝 中国産青磁皿、琥珀原石
SB317	3間 (500cm)	2間 (305cm)	—	N13° W	南北棟	4尺5寸～10尺 (136cm～303cm)	4尺5寸～6尺5寸 (136cm～197cm)	径30～50cm 深15～55cm	15～16世紀	塙石
SB318	2間 (525cm)	2間 (470cm)	—	N9° W	東西棟	7尺5寸～10尺 (227cm～303cm)	7尺6寸～8尺 (230cm～242cm)	径15～40cm 深10～50cm	15～16世紀	—
SB319	3間 (1100cm)	1間 (840cm)	(210×840cm)	W16° S	南北棟	7尺～15尺5寸 (212cm～470cm)	27尺5寸 (833cm)	径60～120cm 深15～65cm	不明	—

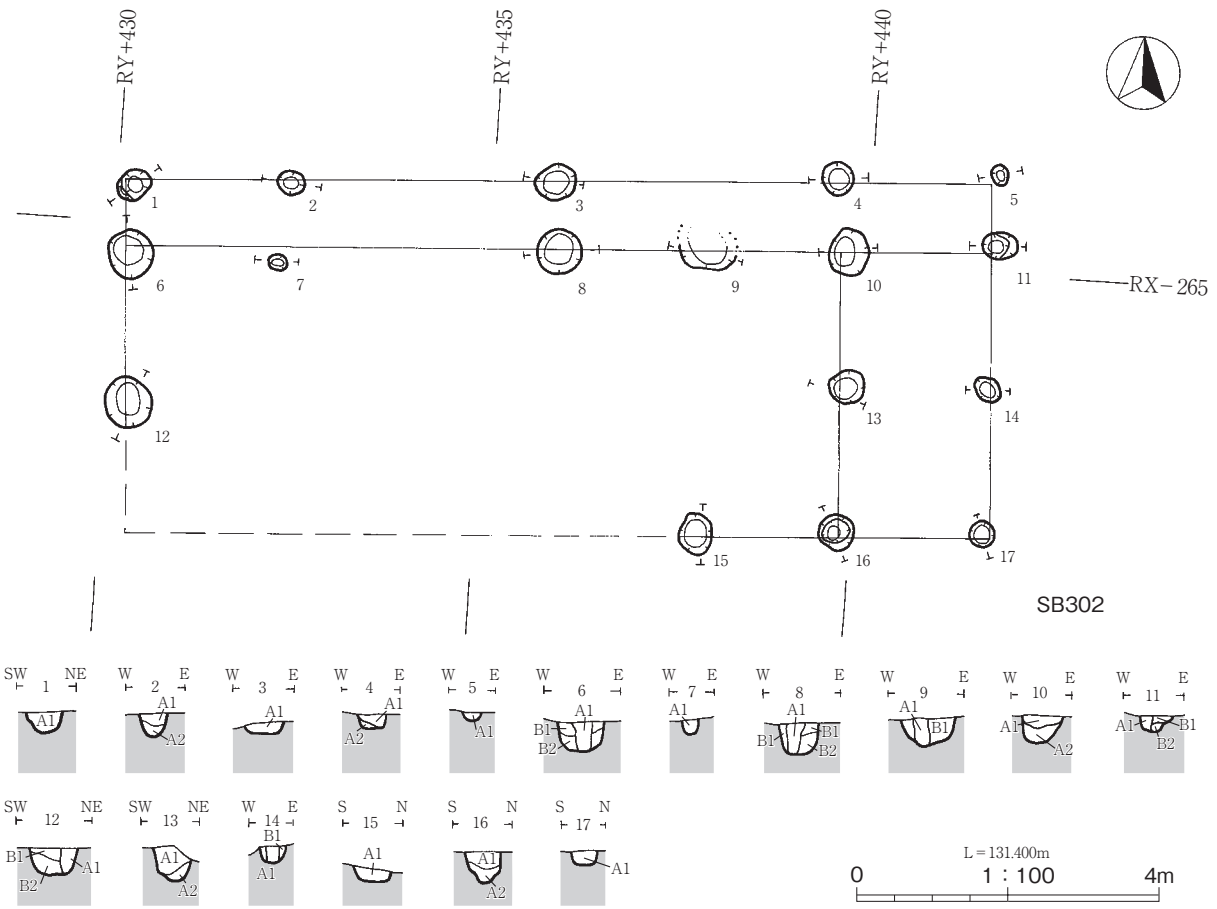
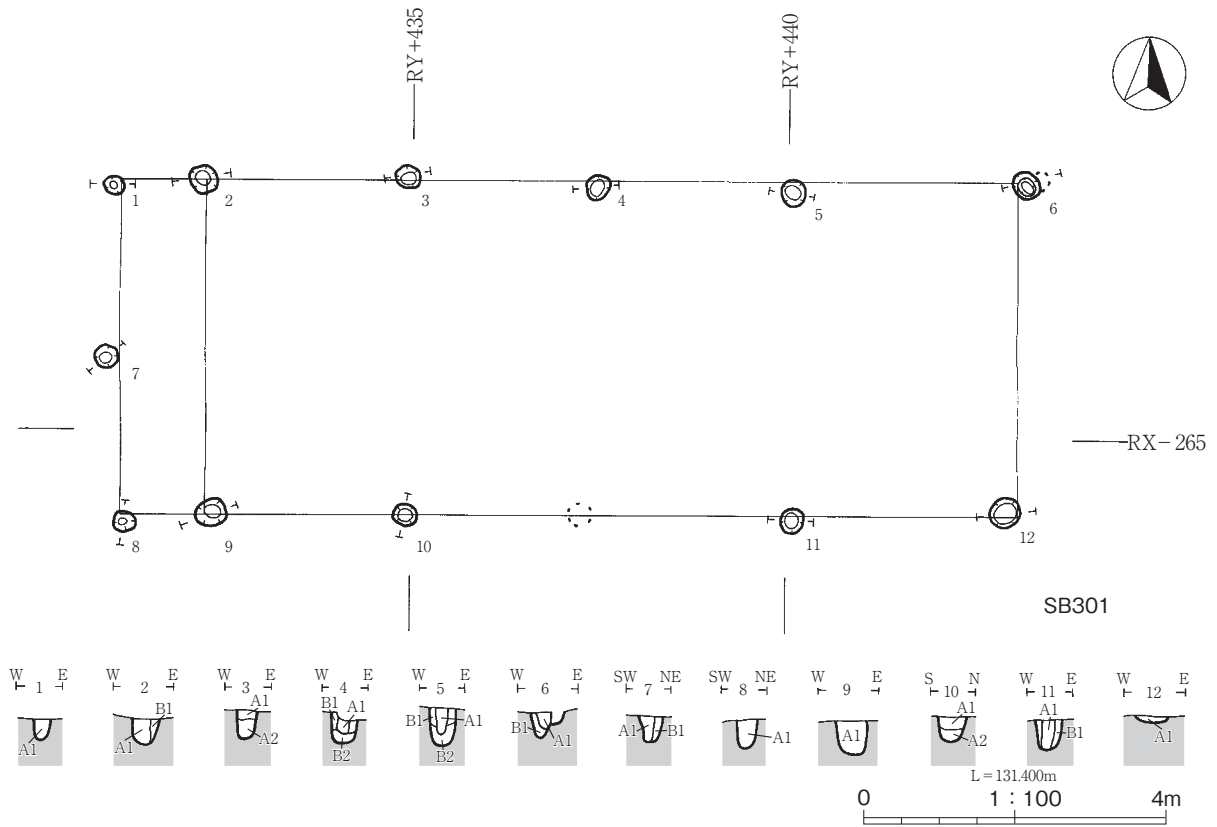
第4表 掘立柱建物跡一覧



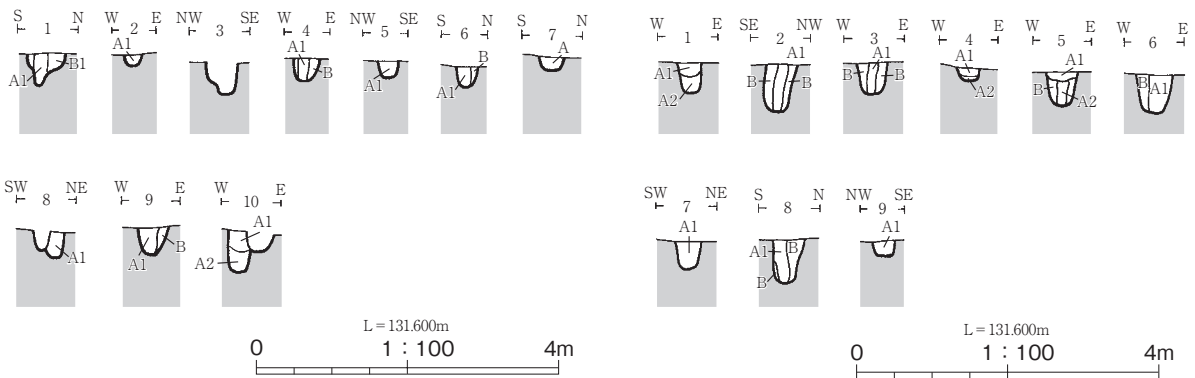
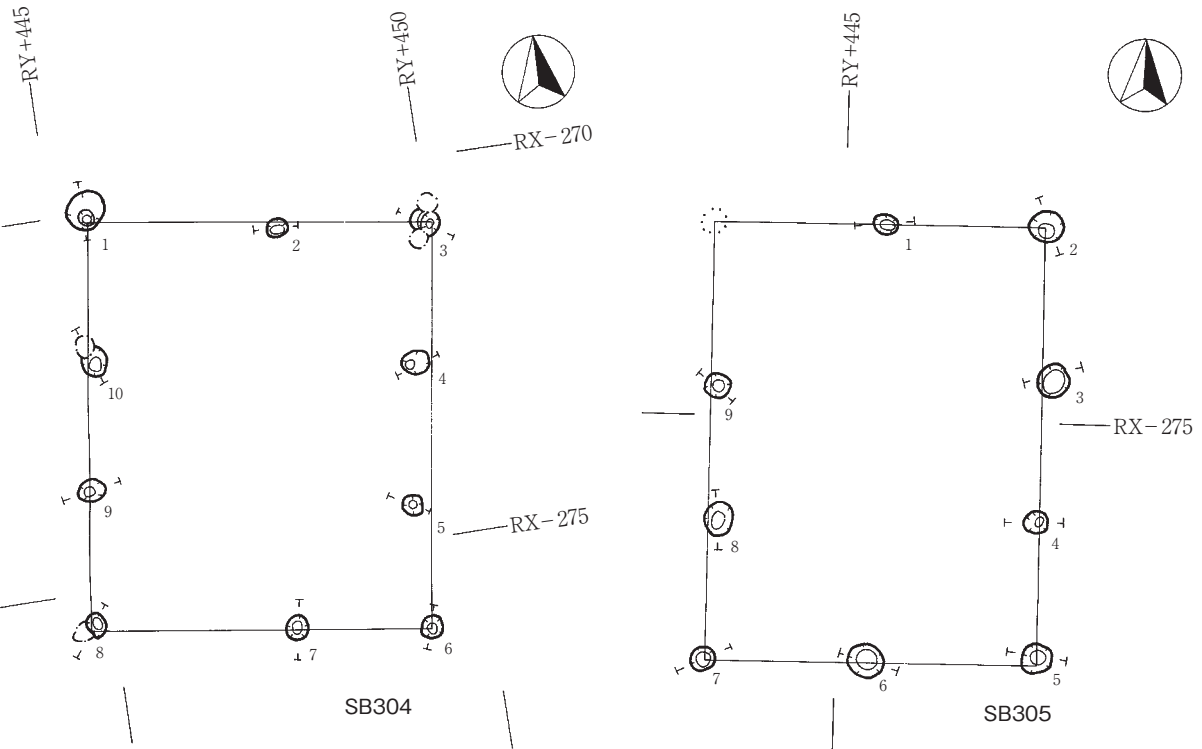
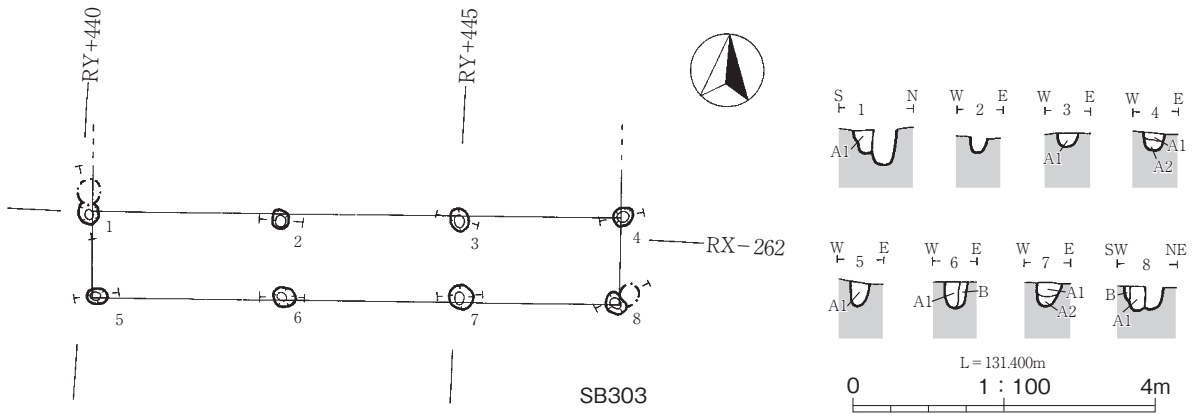
第23図 SA301 ~ 304 柱列跡



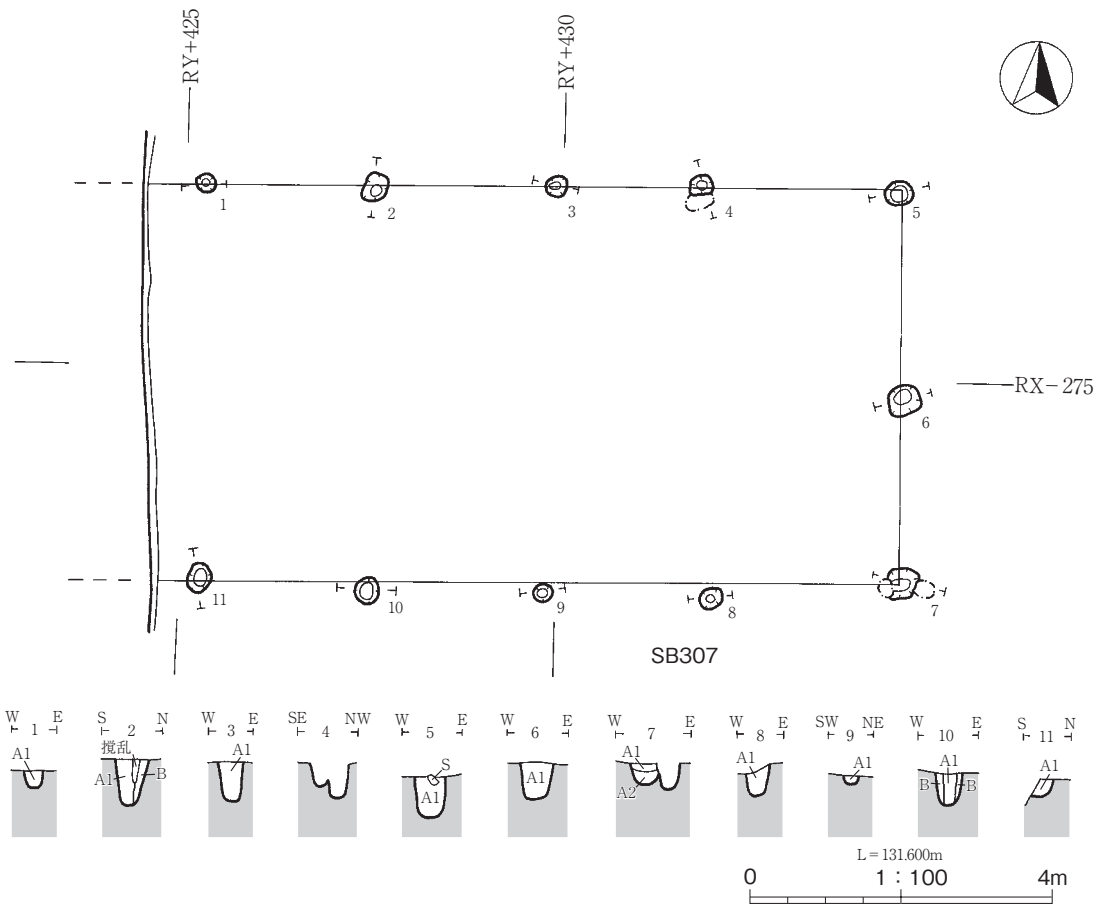
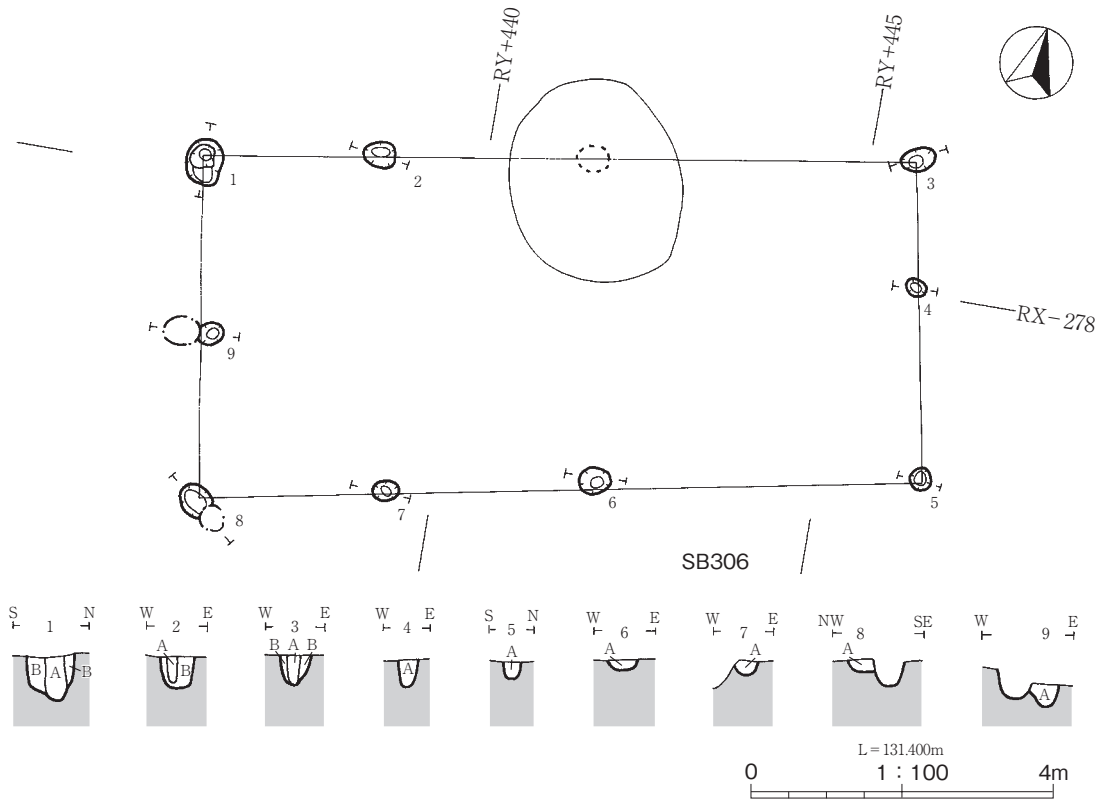
第24図 SA305～308柱列跡



第 25 图 SB301・302 掘立柱建物跡



第 26 図 SB303 ~ 305 掘立柱建物跡

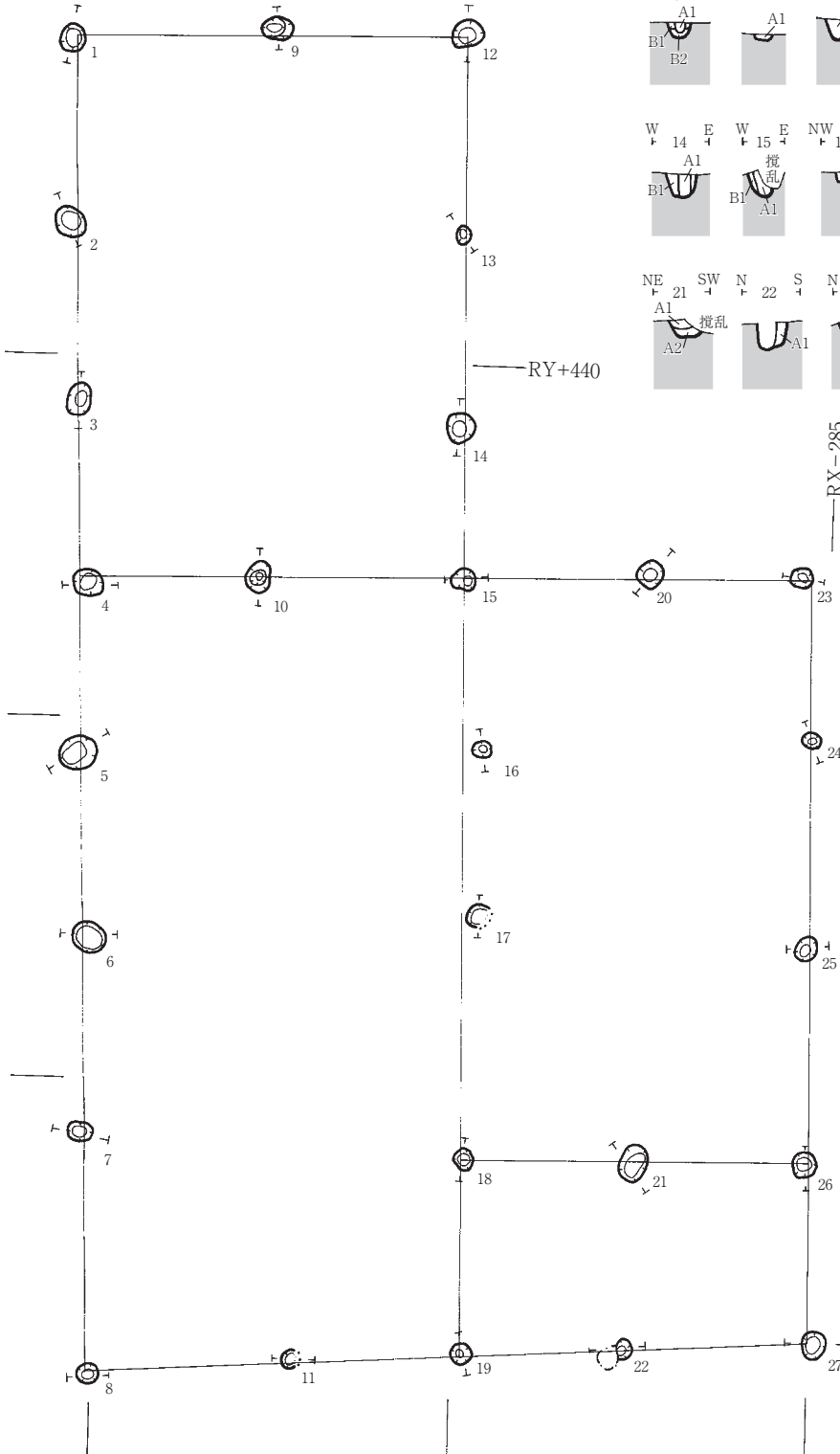
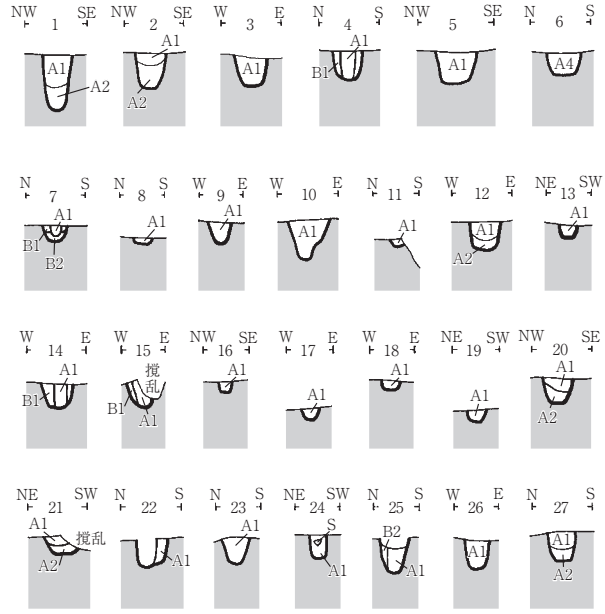


第 27 图 SB306 · 307 掘立柱建物跡

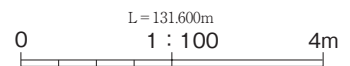


RX-275

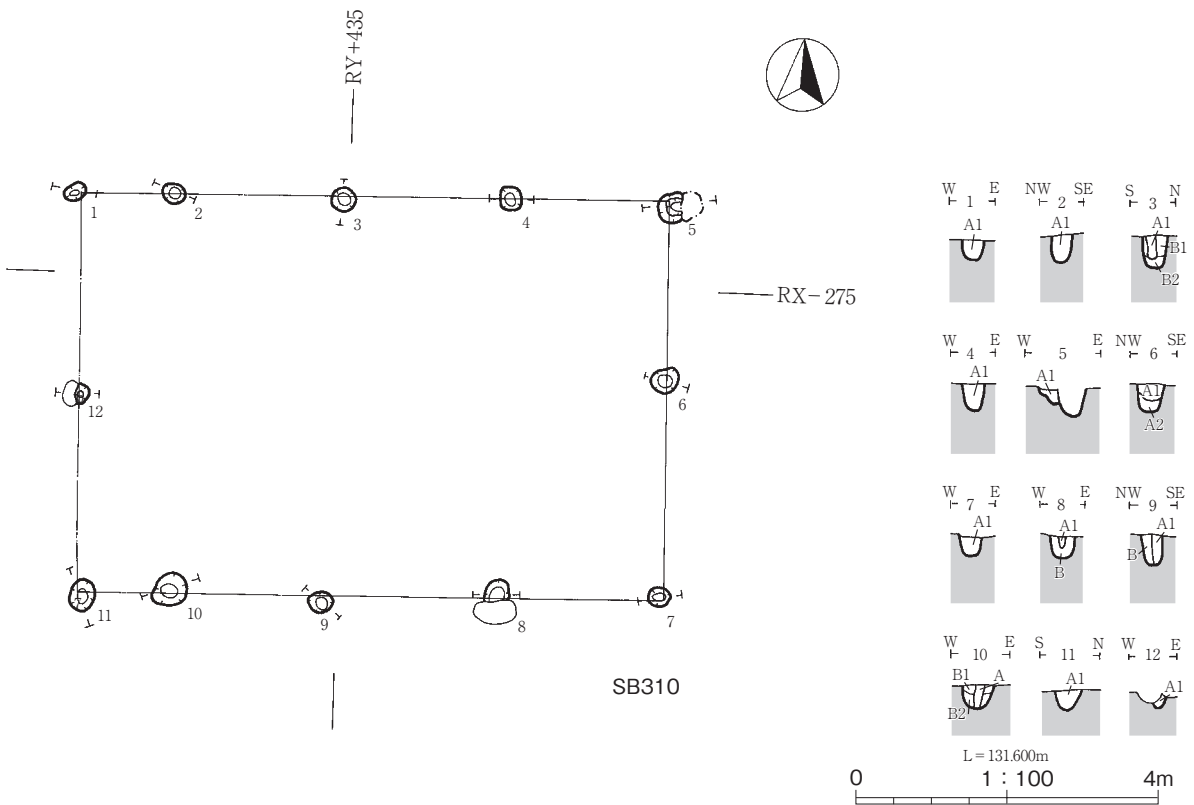
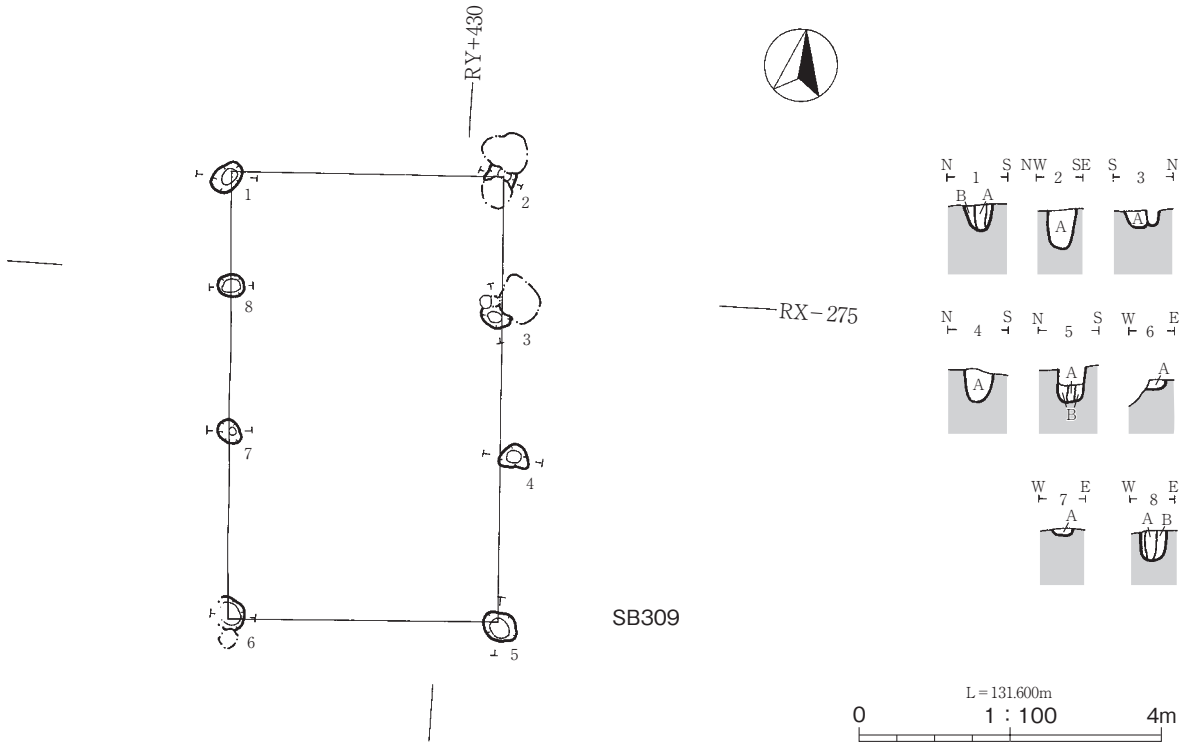
RX-280



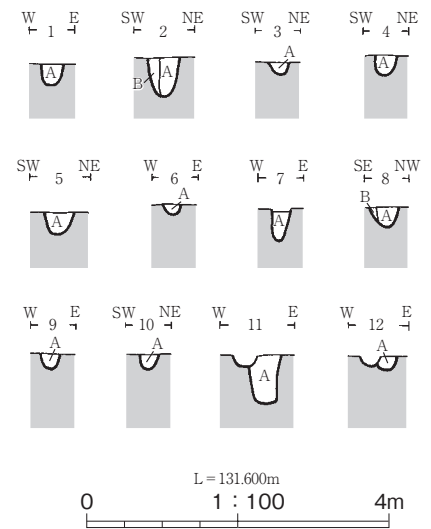
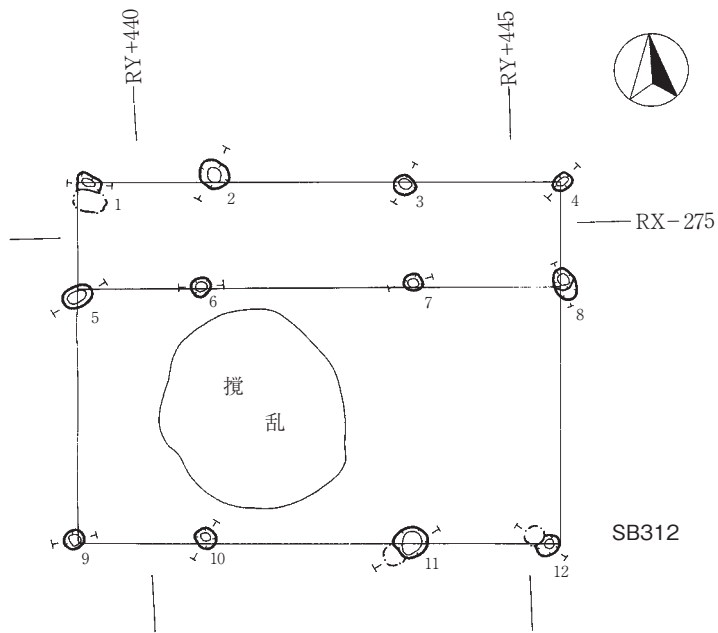
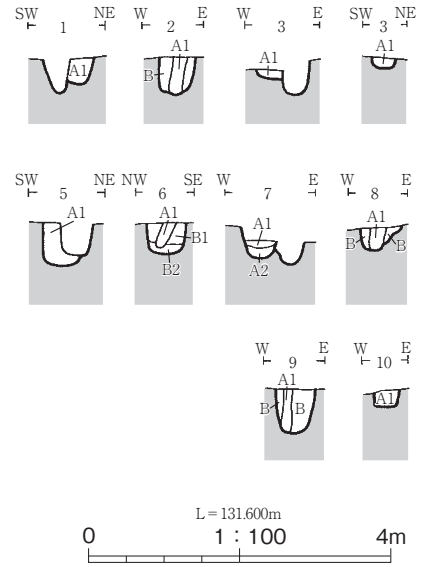
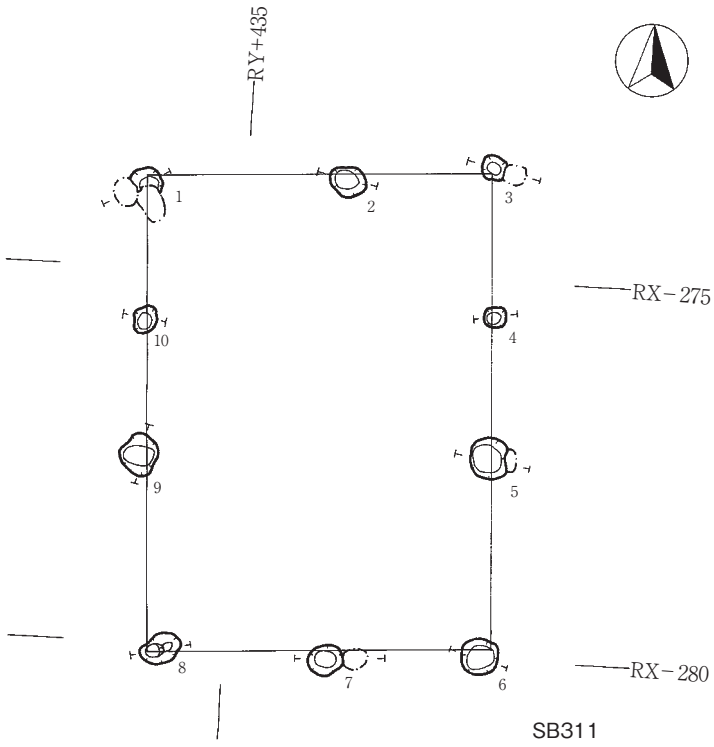
SB308



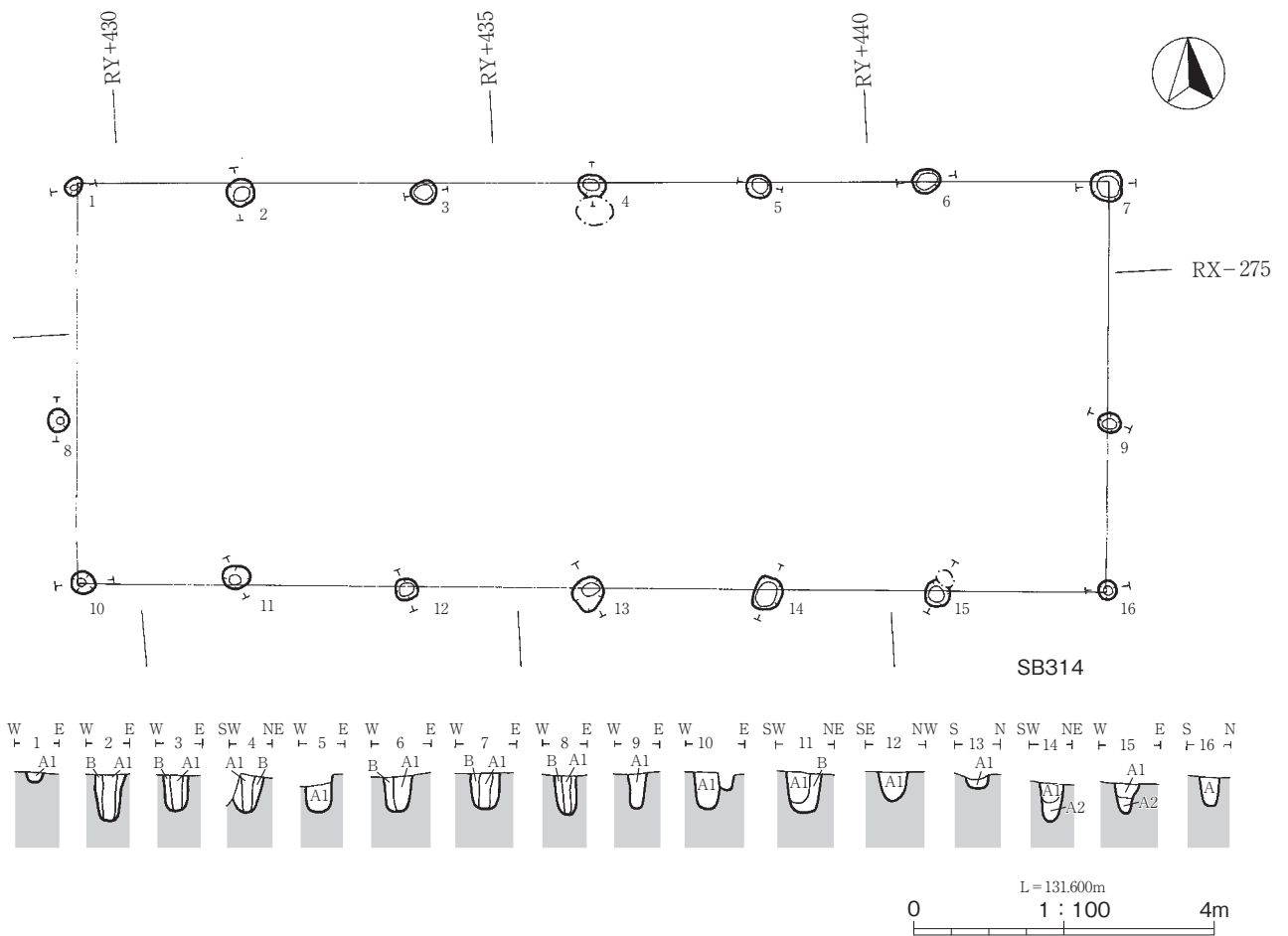
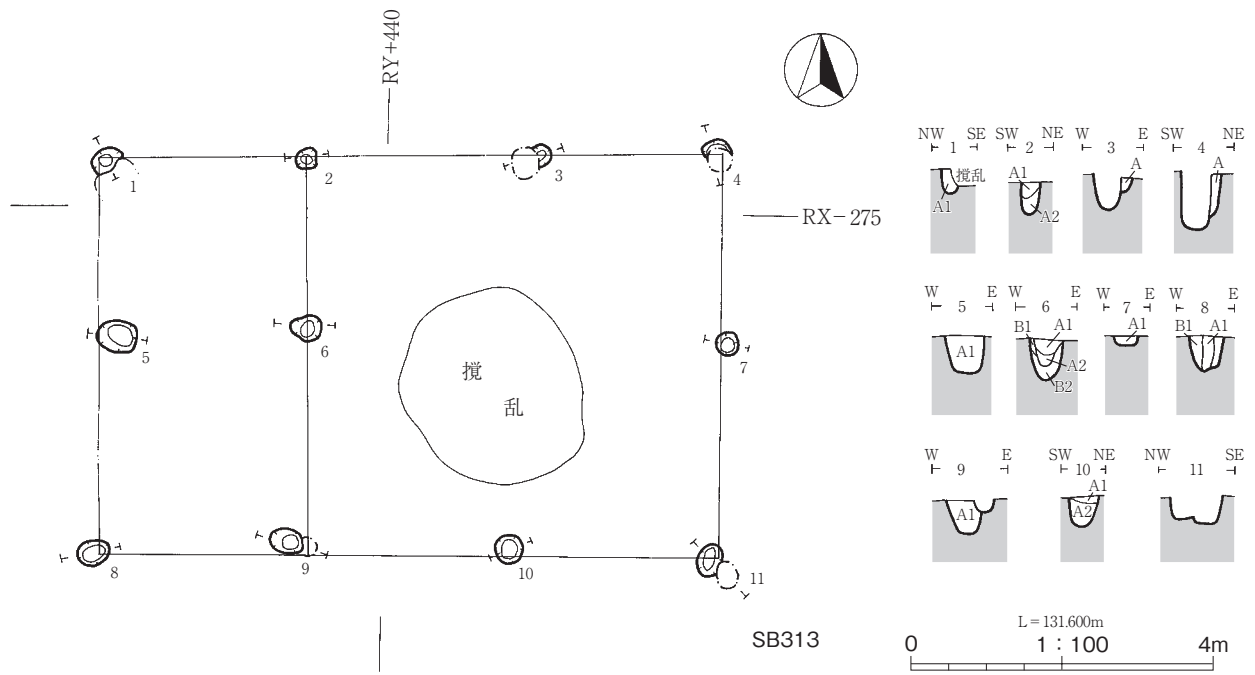
第 28 图 SB308 掘立柱建物跡



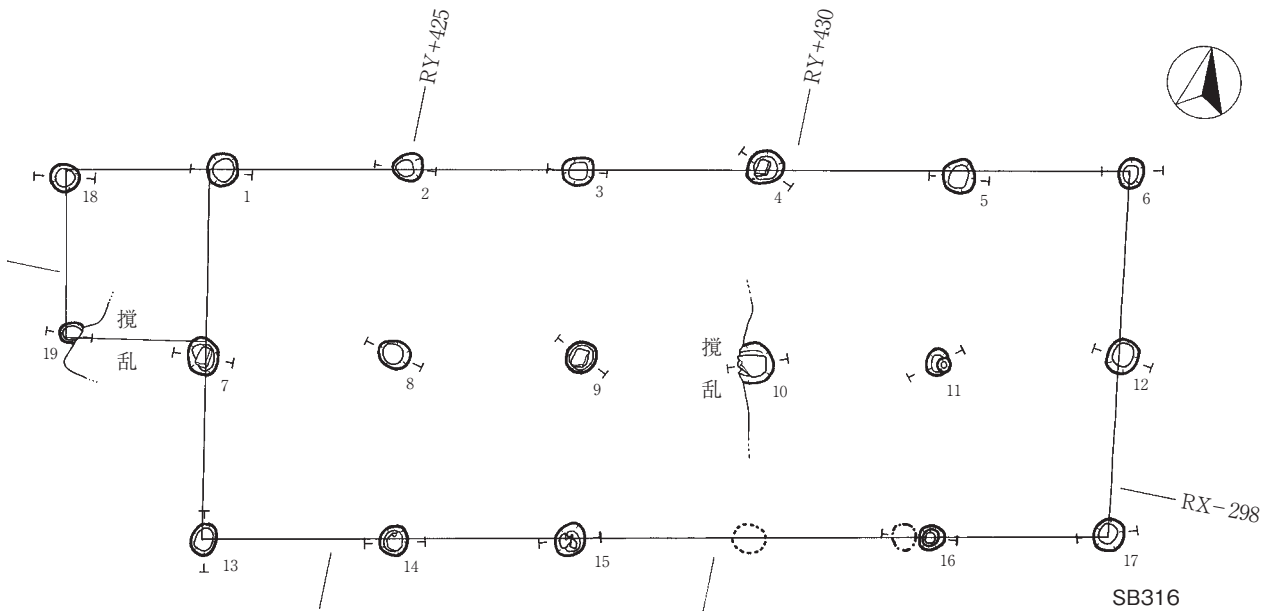
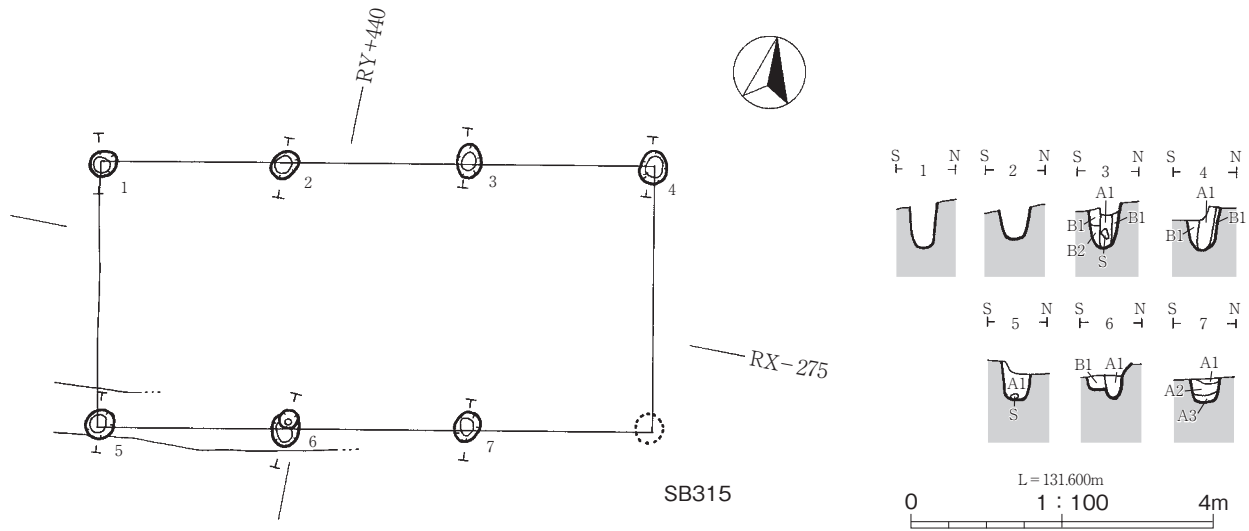
第 29 图 SB309・310 掘立柱建物跡



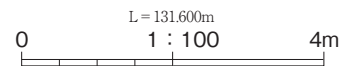
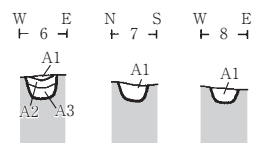
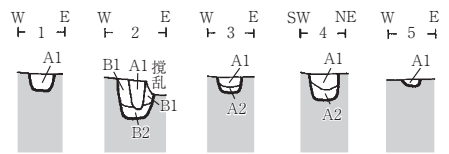
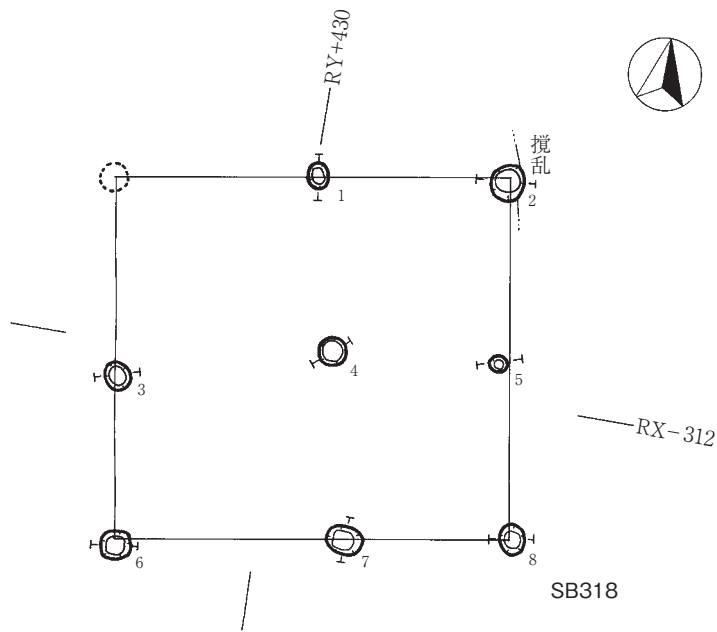
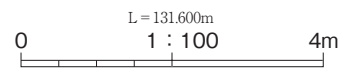
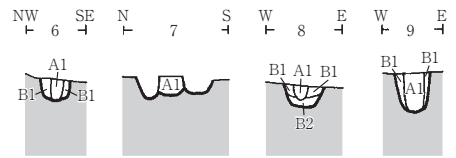
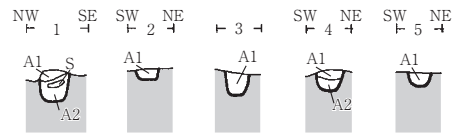
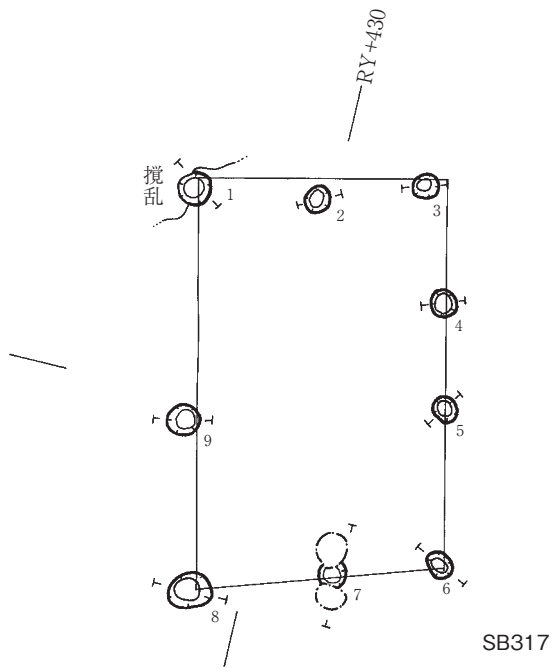
第 30 图 SB311 · 312 掘立柱建物跡



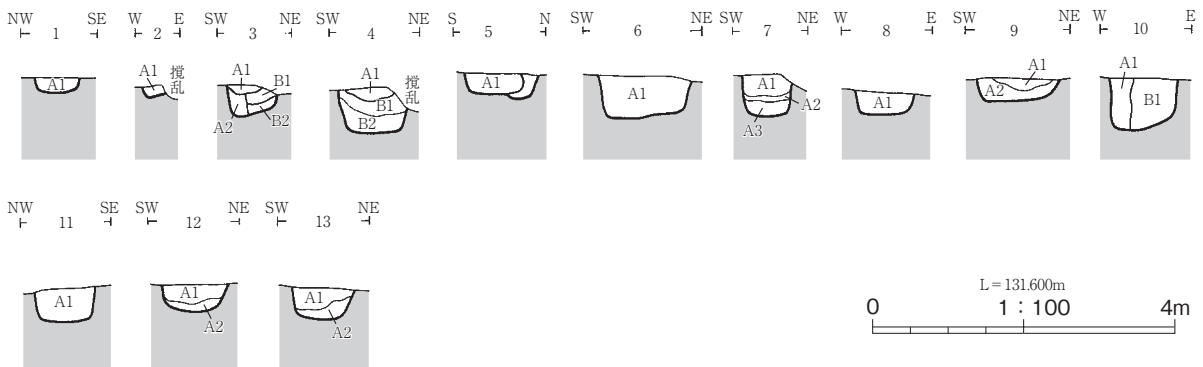
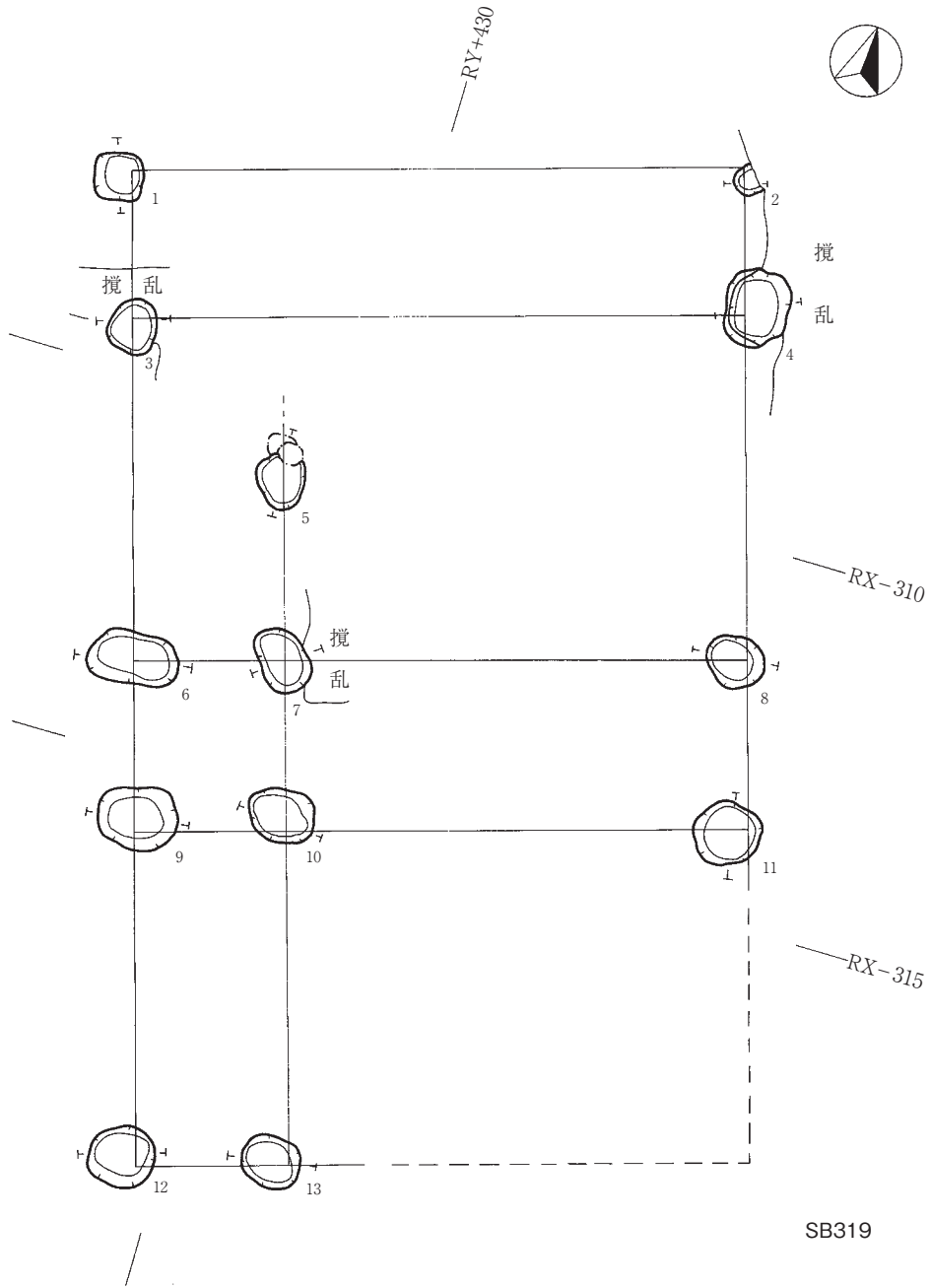
第 31 图 SB313 · 314 掘立柱建物跡



第 32 图 SB315 · 316 掘立柱建物跡



第 33 图 SB317 · 318 掘立柱建物跡



第 34 图 SB319 掘立柱建物跡

9. 近世の遺構

竪穴跡 竪穴跡は3棟検出された。RE001 竪穴跡の床面からは石灯笼や簀、寛永通寶などが出土している規模等については第5表にまとめた。

溝跡 近世の溝跡が3条検出された。SD410 からは唐津灰釉碗の破片が出土している。規模等については第6表にまとめた。

沢地形跡 沢状の地形の低みである。RZ001 は調査区中央東端に位置し、東に向かって下がる。高低差は最も大きいところで1.6 mである。RZ002・003・004 は調査区南東隅にあり、南に向かって下がっていく。RZ002 の高低差は最も大きいところで1.8 mである。規模等については第7表にまとめた。

遺構番号	位置	平面形	規模 (m)			重複	出土遺物
			長軸	短軸	深さ		
RE001	J6-A17	楕円形	7.00	4.02	1.90 ~ 2.25	RE002、SD410 を切る	寛永通寶、簀、灯笼
RE002	I6-X19	楕円形	4.85 以上	3.31	0.05 ~ 0.01	RE001 に切られる	—
RE003	I6-X22	楕円形	3.5	2.2	0.35 ~ 0.7	SK425 を切る	土師器坏

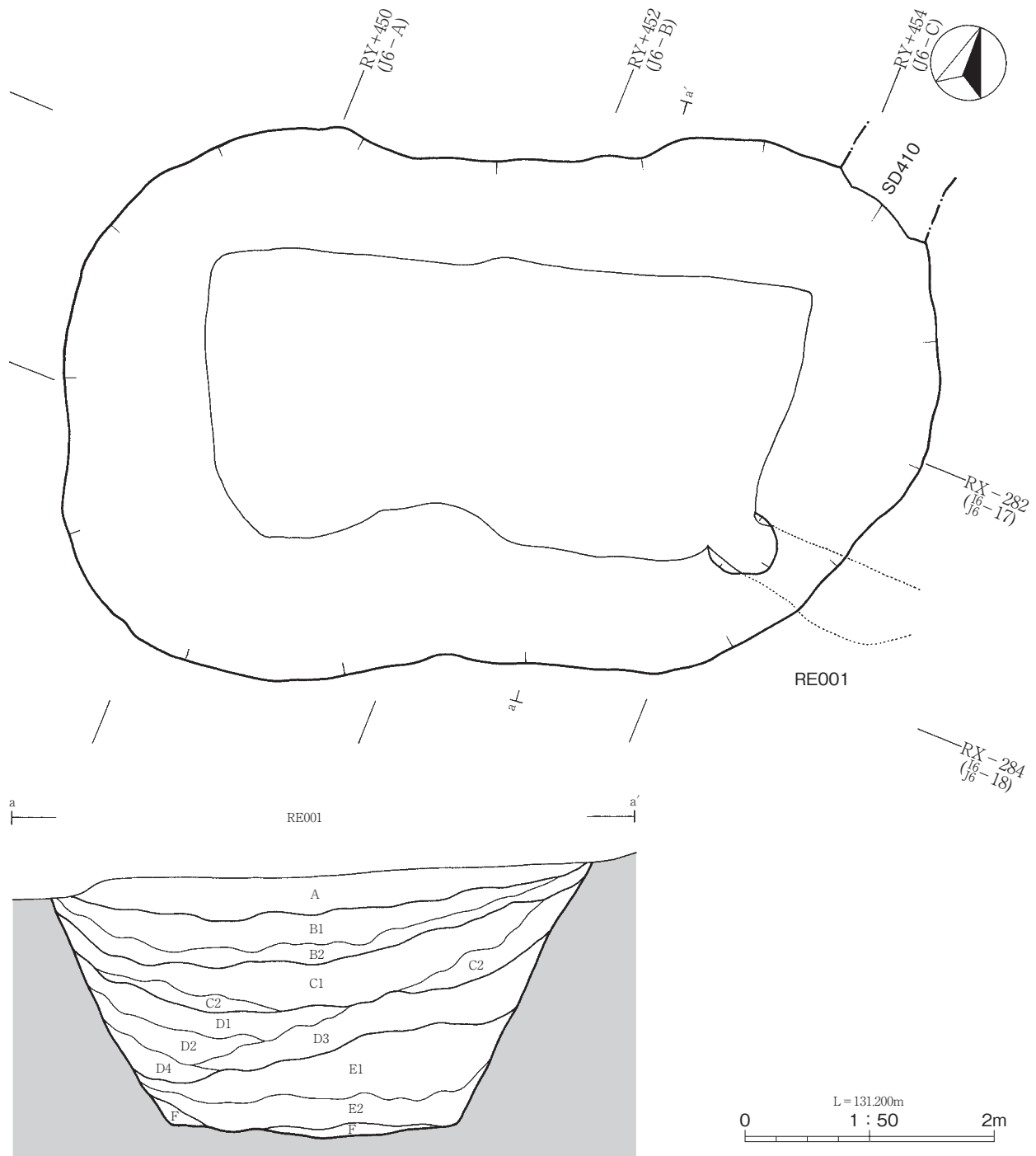
第5表 竪穴状遺構一覧

遺構番号	位置	規模 (m)			重複	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SD410	J6-B5	22.00 以上	1.40	0.52	RE001 に切られる	唐津灰釉碗
SD411	J6-C5	4.35 以上	0.37	0.36	—	—
SD412	I6-R25	7.4 以上	0.92	0.10	SK429,SK431,SK432 Pit699 に切られる	—

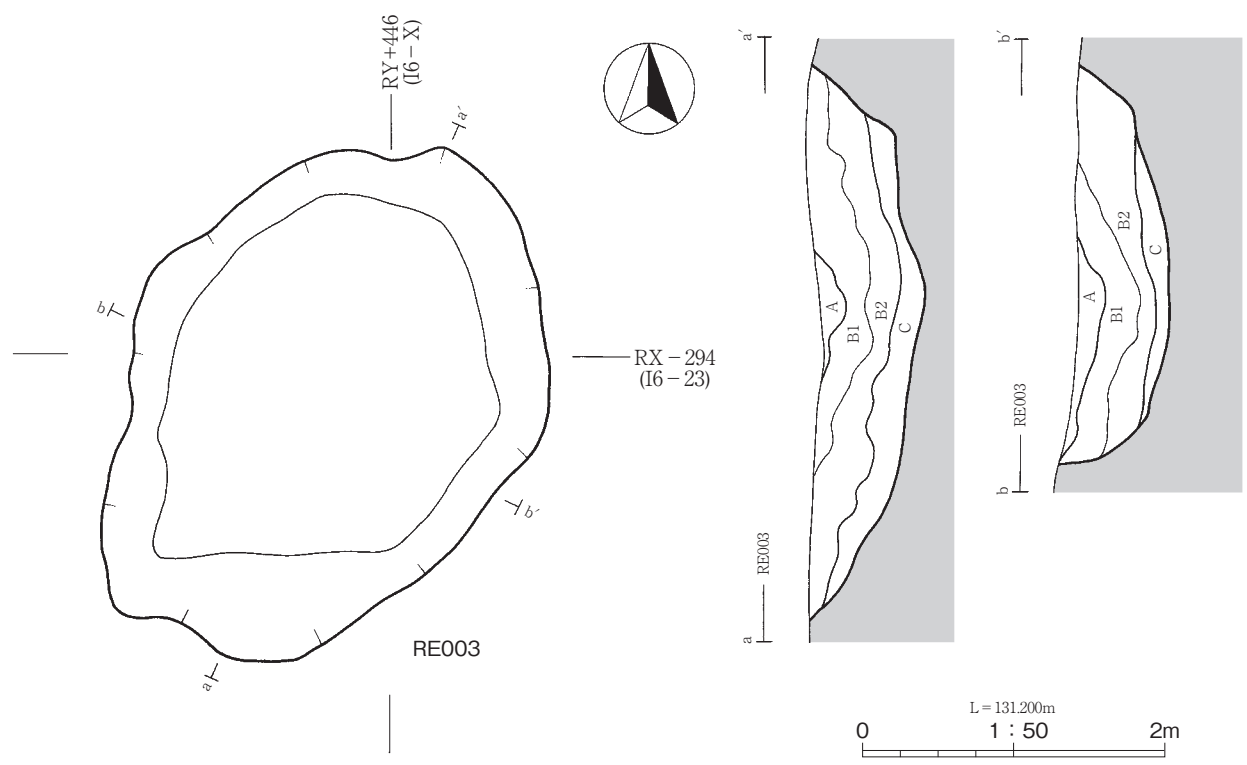
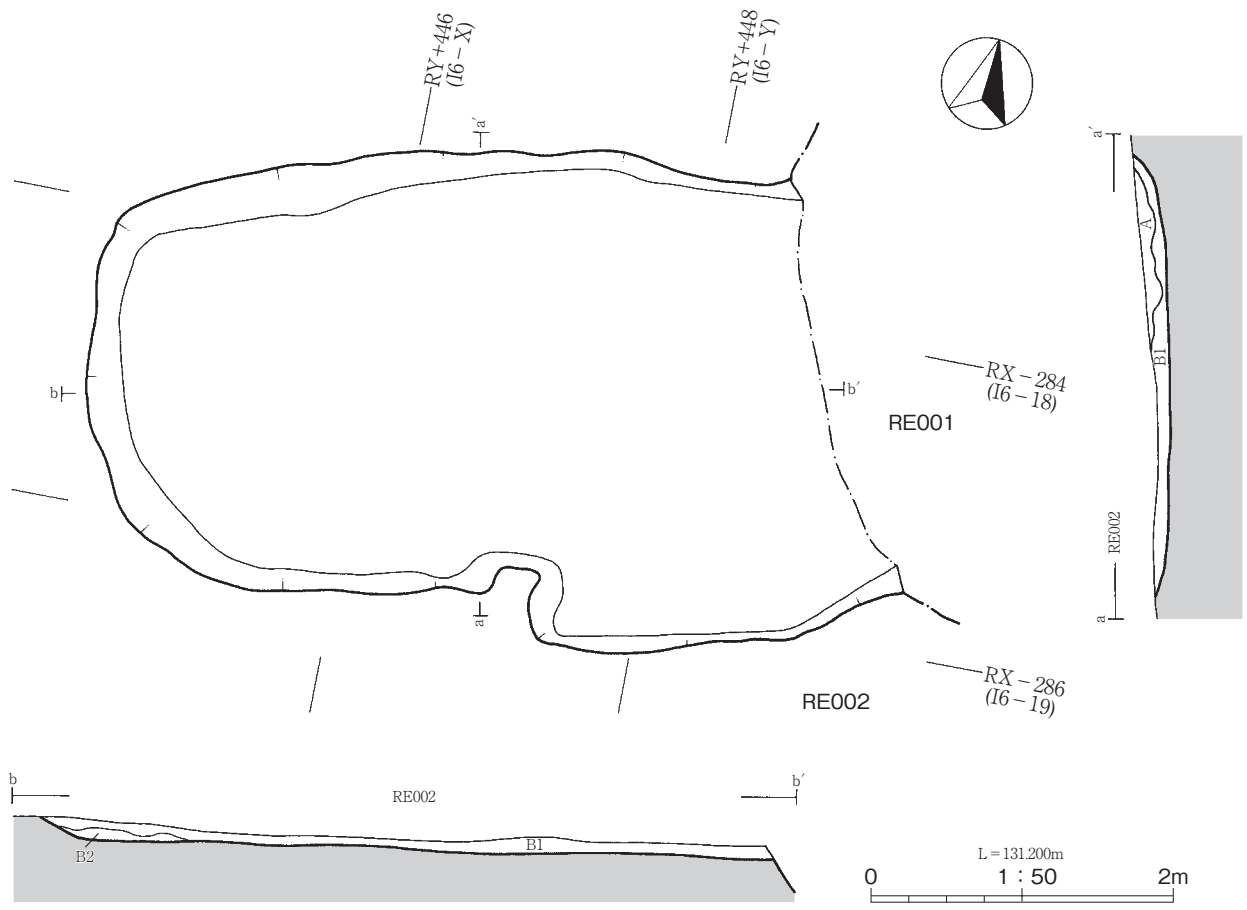
第6表 溝跡一覧

遺構番号	位置	規模 (m)			重複	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
RZ001	I6-X21	9.25 以上	5.25	0.62	SK423 に切られる	寛永通寶
RZ002	I7-U3	12.00	7.20	1.55	SK446 に切られる RZ004 を切る	備前染付格子文皿、中国産白磁皿、備前染付紅皿 東北産灰釉碗、美濃織部向付、志野皿、 寛永通寶、雁首銭、砥石
RZ003	I7-X3	4.80	3.65	0.30	RZ004 を切る	染付八角鉢、寛永通寶、砥石
RZ004	I7-Y5	5.50	3.65	1.30	RZ002・003 に切られる	備前染付山水文皿、備前白磁紅皿、寛永通寶

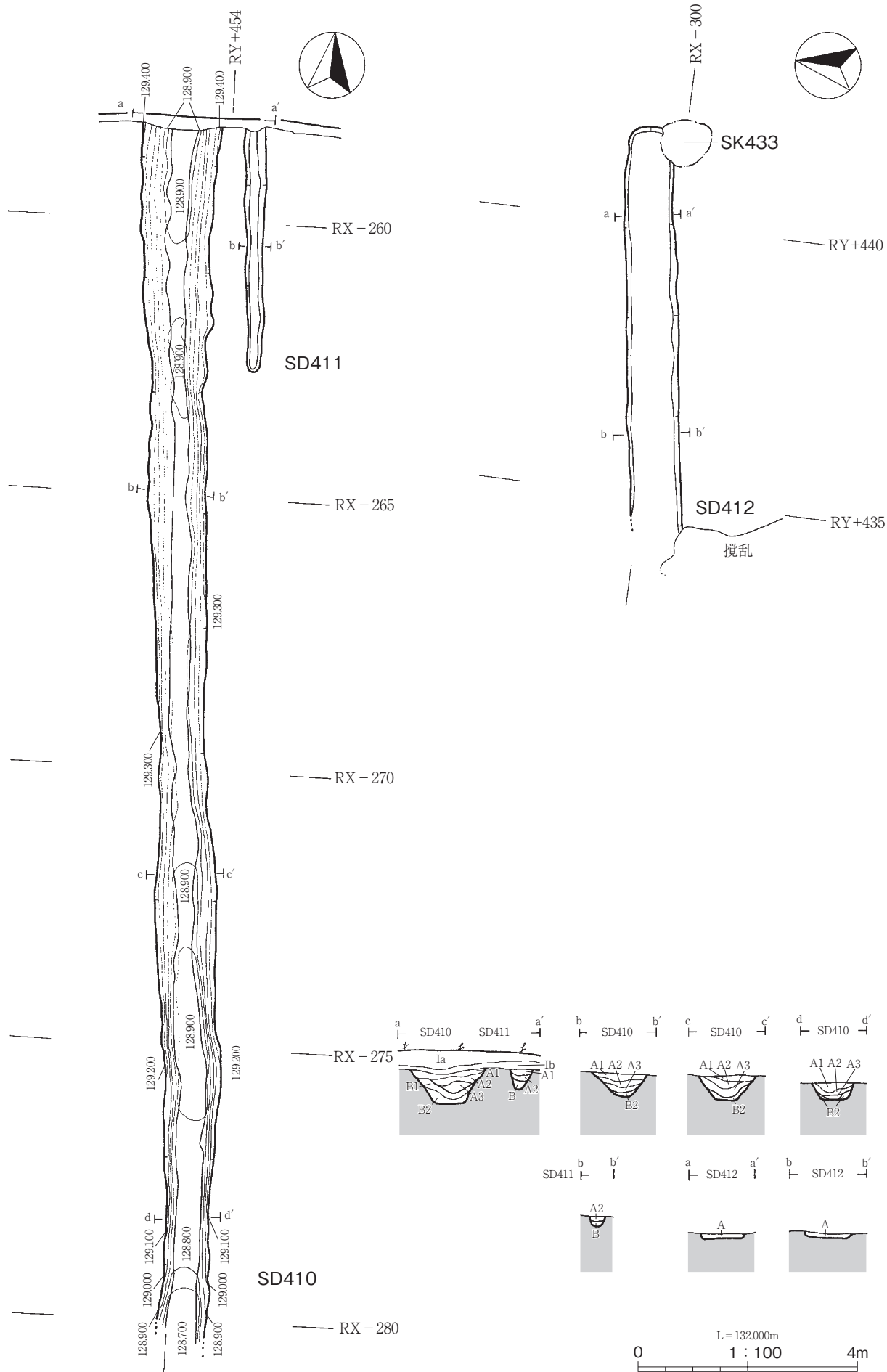
第7表 沢地形跡一覧



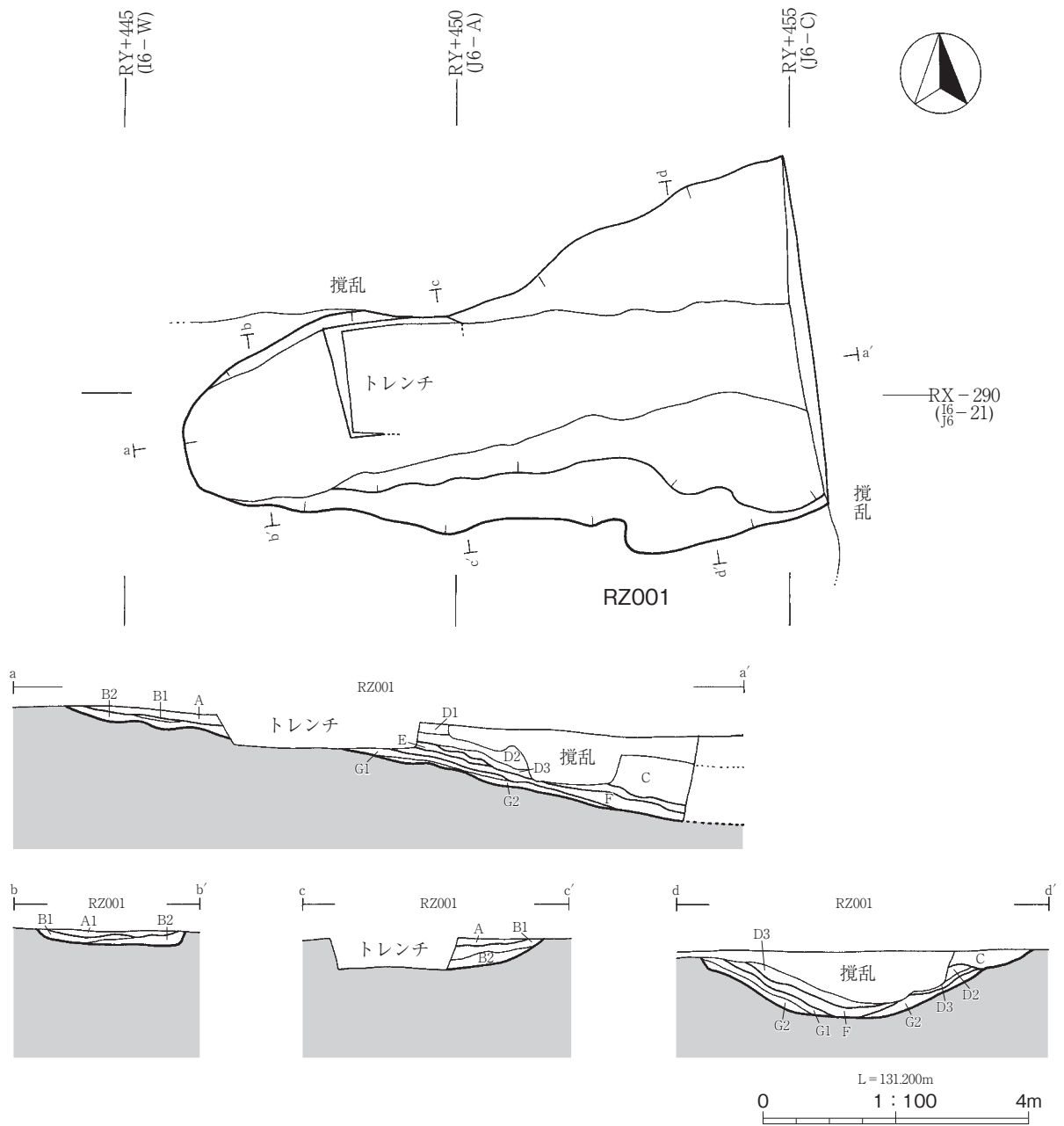
第 35 図 RE001 豎穴建物跡



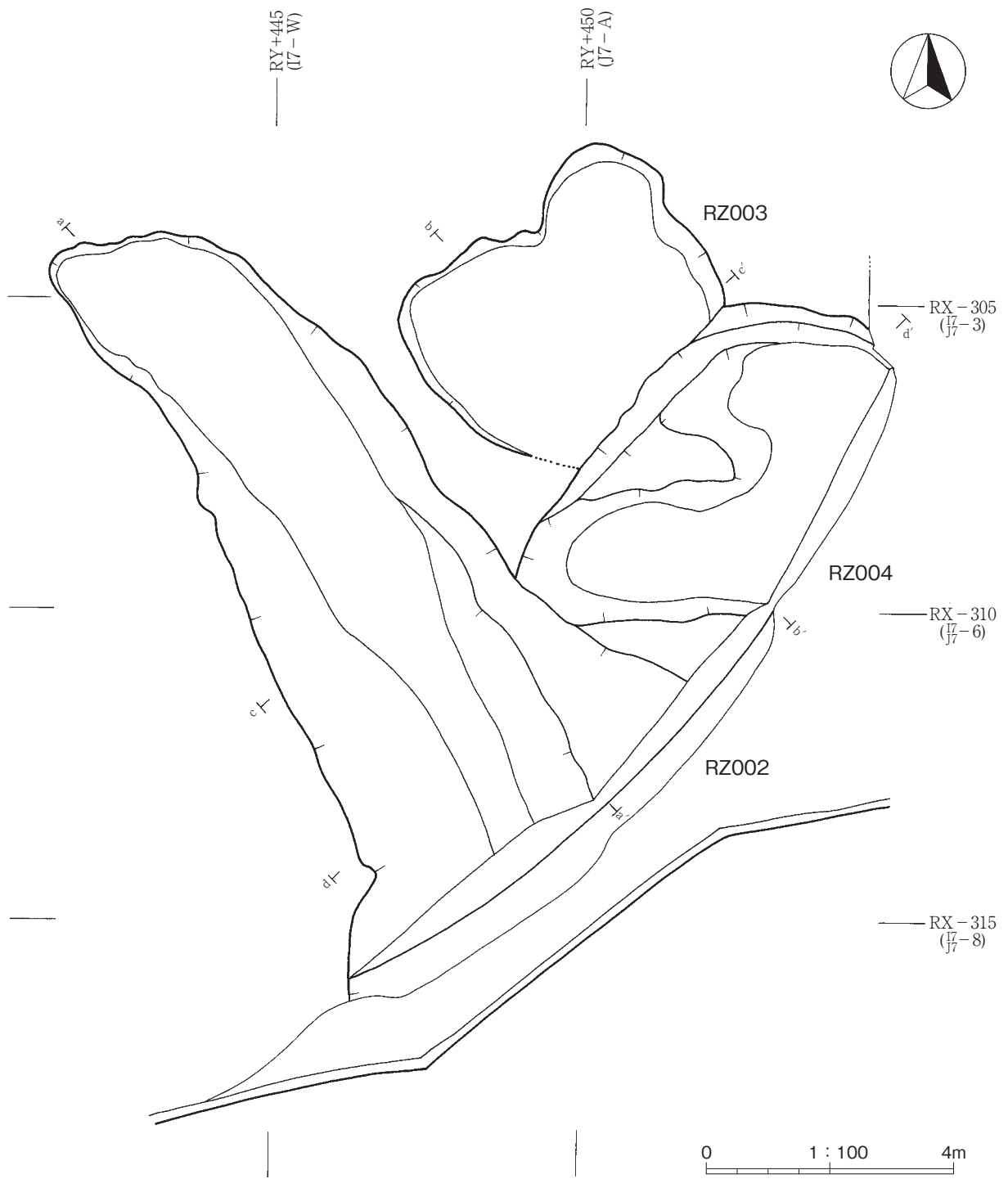
第 36 図 RE002・003 豎穴建物跡



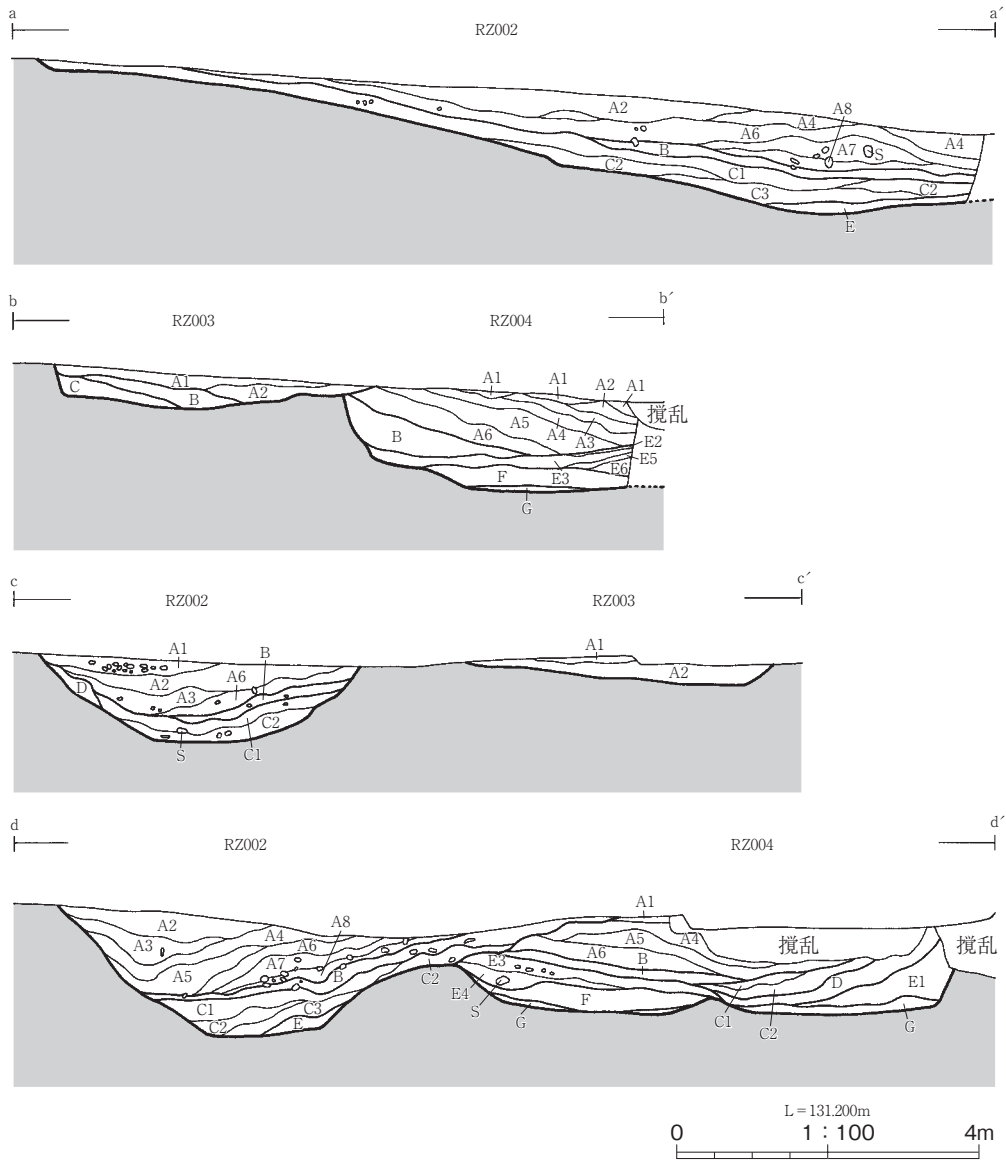
第37図 SD410~412 溝跡



第 38 図 RZ001 沢状地形跡



第 39 図 RZ002 ~ 004 沢状地形跡 (1)

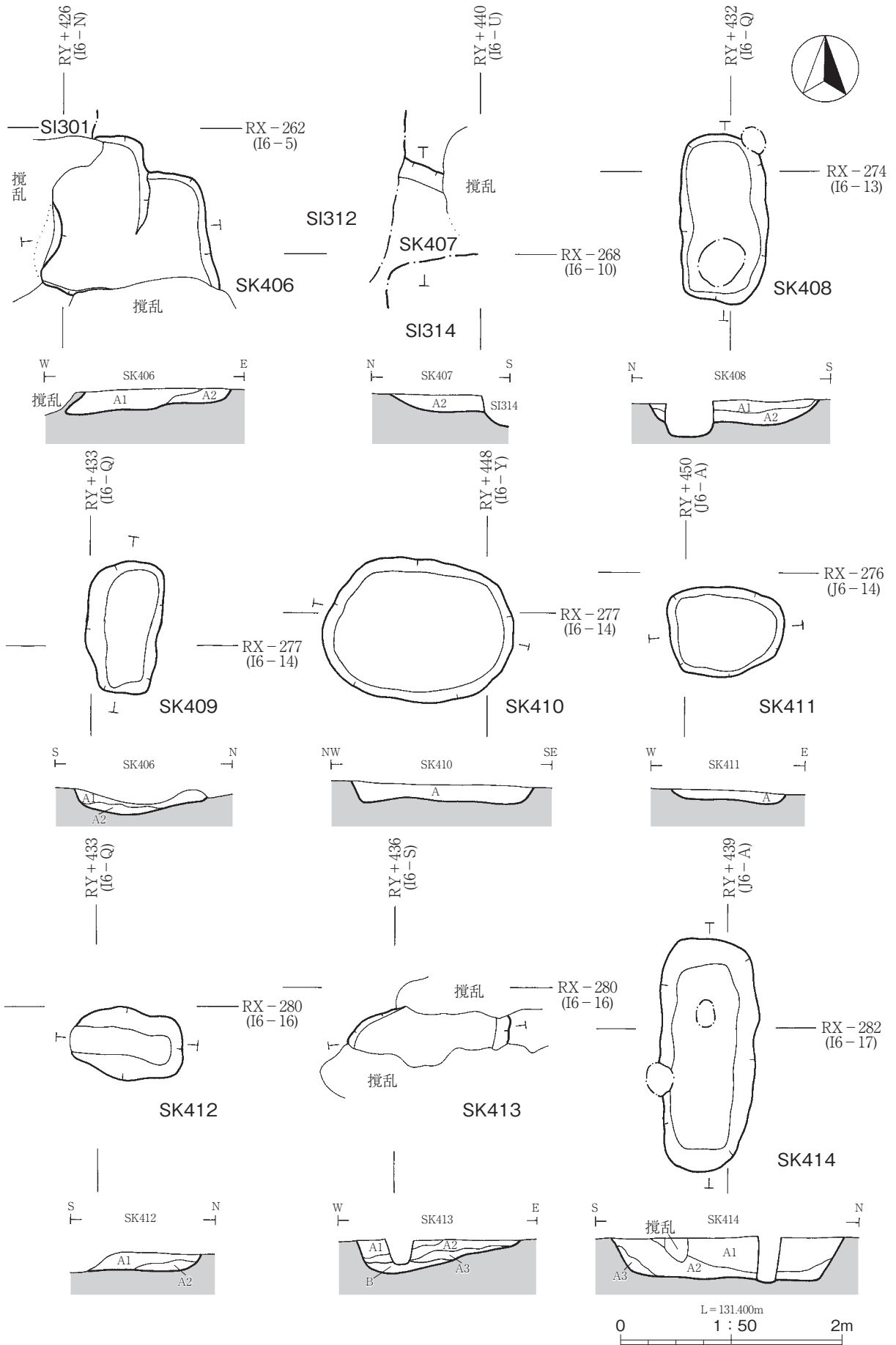


第 40 図 RZ002 ~ 004 沢状地形跡 (2)

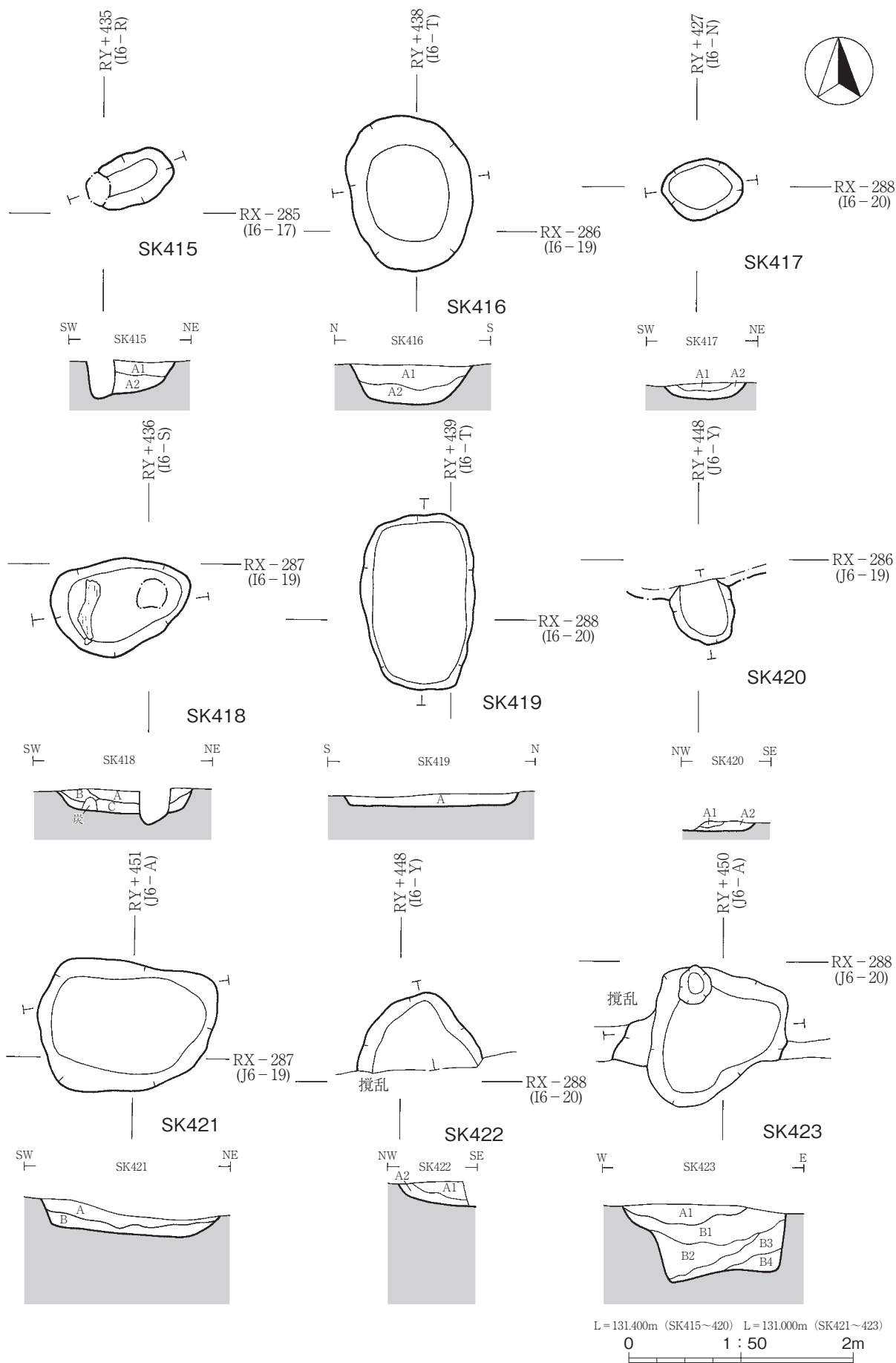
土坑 土坑は49基検出された。いずれも円形または楕円形で、埋土は黒褐色土を主体とするものが多い。規模等については下記の表（第8表）にまとめた。

遺構番号	位置	平面形	規模 (m)			重複
			長軸	短軸	深さ	
SK406	I6-N7	不整形	1.5	1.01	0.21	S I 301 に切られる
SK407	I6-T8	不明	0.91 以上	0.45 以上	0.16	S I 312・314 に切られる
SK408	I6-P13	楕円形	1.54	0.8	0.19	—
SK409	I6-Q14	楕円形	1.21	0.71	0.14	—
SK410	I6-X14	楕円形	1.74	1.26	0.21	—
SK411	I6-A14	楕円形	1.04	0.82	0.09	—
SK412	I6-Q15	不整楕円形	1.03	0.55	0.17	—
SK413	I6-S16	楕円形	1.45	0.42 以上	0.31	—
SK414	I6-T17	楕円形	2.12	0.86	0.37	—
SK415	I6-R18	楕円形	0.91	0.44	0.29	—
SK416	I6-S18	楕円形	1.41	1.07	0.37	—
SK417	I6-N19	楕円形	0.72	0.51	0.13	—
SK418	I6-R19	不整楕円形	1.25	0.81	0.21	—
SK419	I6-T19	楕円形	1.54	0.92	0.11	—
SK420	I6-Y19	楕円形	0.53 以上	0.51	0.08	RE002 に切られる
SK421	J6-A19	不整楕円形	1.59	1.06	0.26	—
SK422	I6-Y19	不明	1.1 以上	—	0.21	—
SK423	I6-Y20	不整形	1.43	0.75	0.71	RZ001 に切られる
SK424	I6-L21	不整形	2.31	1.65	0.35	—
SK425	I6-V22	楕円形	1.36 以上	1.12	0.36	RE003 に切られる
SK426	I7-J2	楕円形	1.02	0.79	0.51	—
SK427	I7-K2	円形	0.87	—	0.32	—
SK428	I7-M2	楕円形	1.07	0.71	0.32	—
SK429	I7-R2	円形	0.91	—	0.41	SD412 に切られる
SK430	I7-R2	楕円形	1.37	0.52 以上	0.43	—
SK431	I7-T1	楕円形	1.41	0.44	0.28	SK432 を切る
SK432	I7-T1	楕円形	0.95	0.71	0.18	SK431 に切られる
SK433	I6-U25	不整円形	0.96	—	0.27	SD412 に切られる
SK434	I6-V24	不整楕円形	1.39	1.21	0.34	—
SK435	I6-V25	楕円形	1.11	0.82	0.41	—
SK436	I6-V25	楕円形	1.22	0.81	0.44	—
SK437	I6-V25	楕円形	1.47	1.01	0.35	—
SK438	I7-V1	不整円形	0.91	—	0.26	—
SK439	I6-W25	不明	0.54	—	0.28	—
SK440	I6-W24	不整円形	1.22	—	0.31	—
SK441	I6-W25	楕円形	1.53	0.94	0.32	—
SK442	I6-W25	円形	1.53	—	0.39	—
SK443	I7-W1	楕円形	1.24 以上	0.76	0.46	—
SK444	I7-T2	不整形	2.57	0.51	0.23	—
SK445	I7-U2	不整形	2.56	0.53	0.38	—
SK446	I7-V2	楕円形	1.29	0.55	0.26	RZ002 に切られる
SK447	I7-V3	楕円形	0.75	0.55	0.06	—
SK448	I7-M4	円形	1.01	—	0.23	—
SK449	I7-M5	円形	1.12	—	0.87	—
SK450	I7-M5	楕円形	1.08	0.86	0.81	—
SK451	I7-P4	楕円形	1.36	1.03	0.54	—
SK452	I7-T6	楕円形	0.71 以上	0.63	0.16	—
SK454	I7-O9	不整楕円形	3.79	0.51	0.34	—
SK455	I7-N9	不整楕円形	0.94	0.36	0.15	—

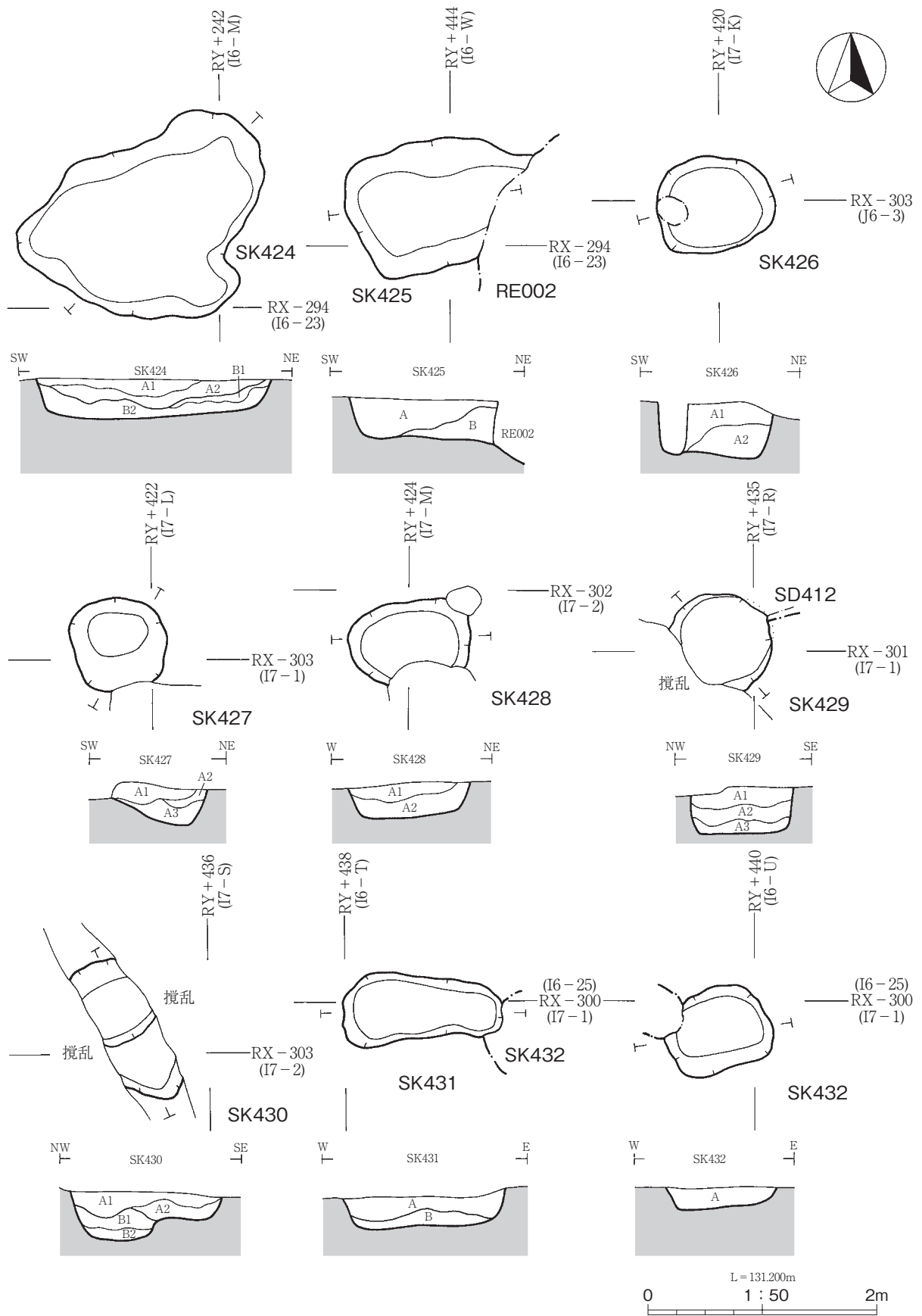
第8表 土坑一覧



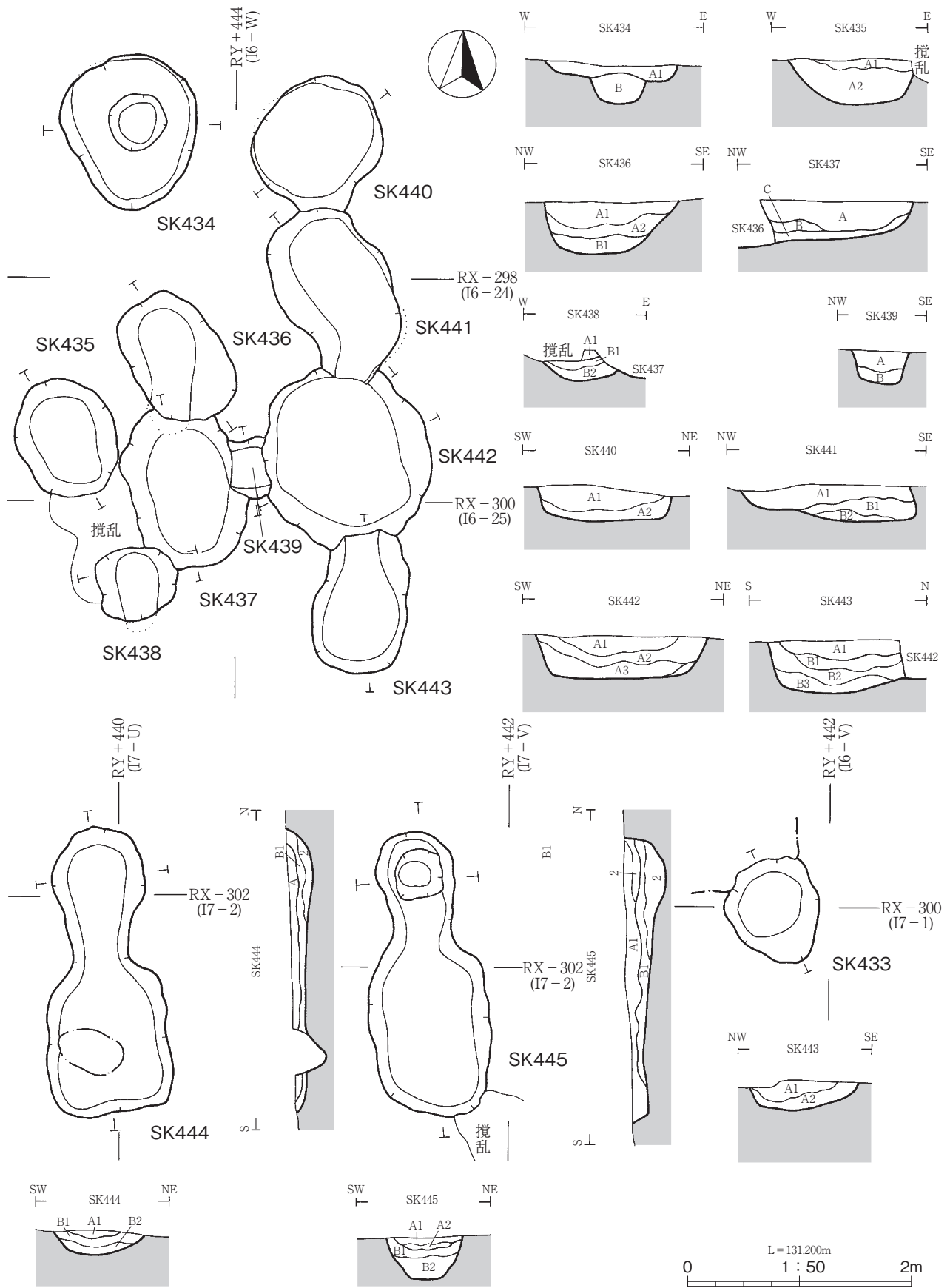
第 41 図 SK406 ~ 414 土坑



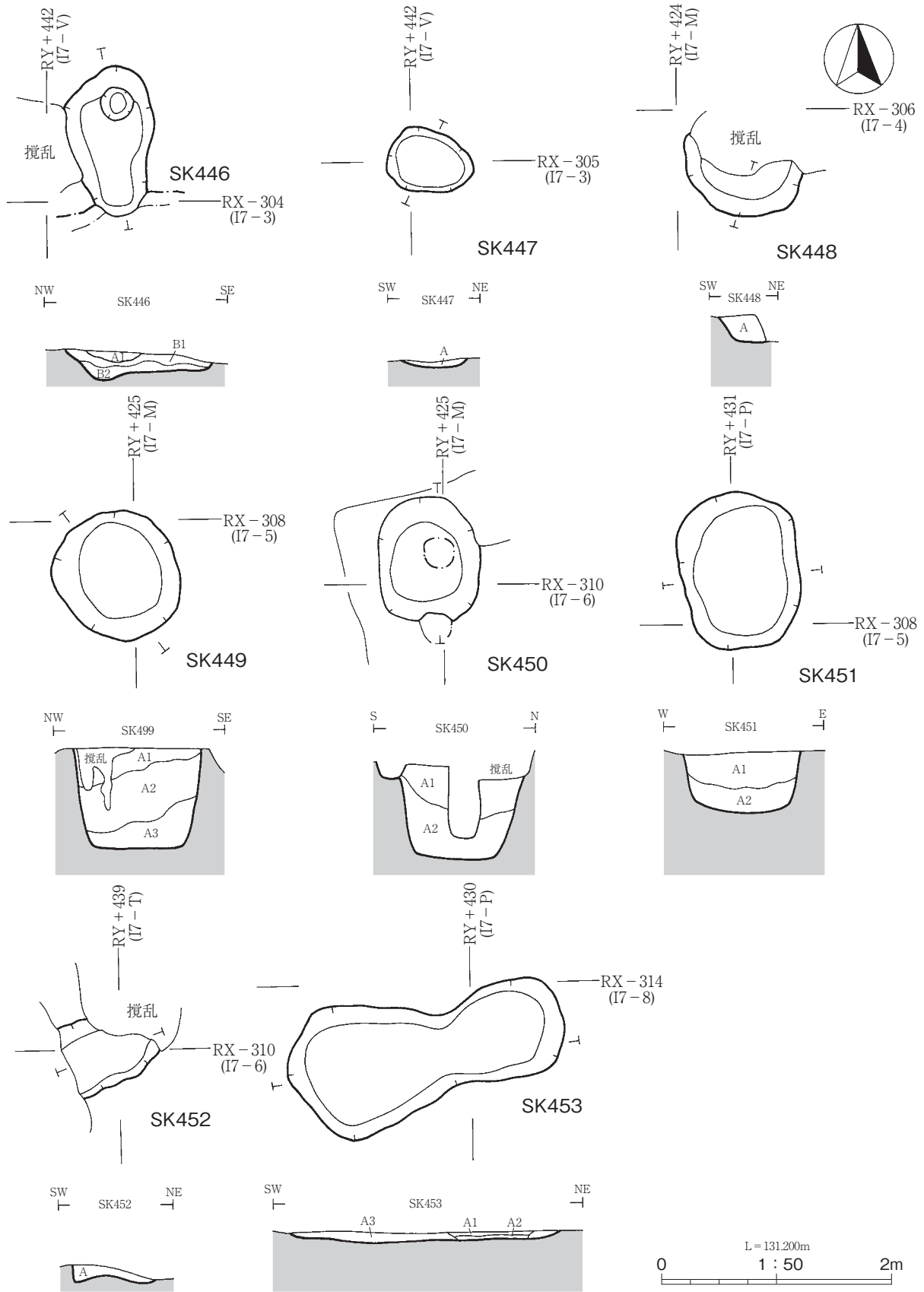
第 42 図 SK415 ~ 423 土坑



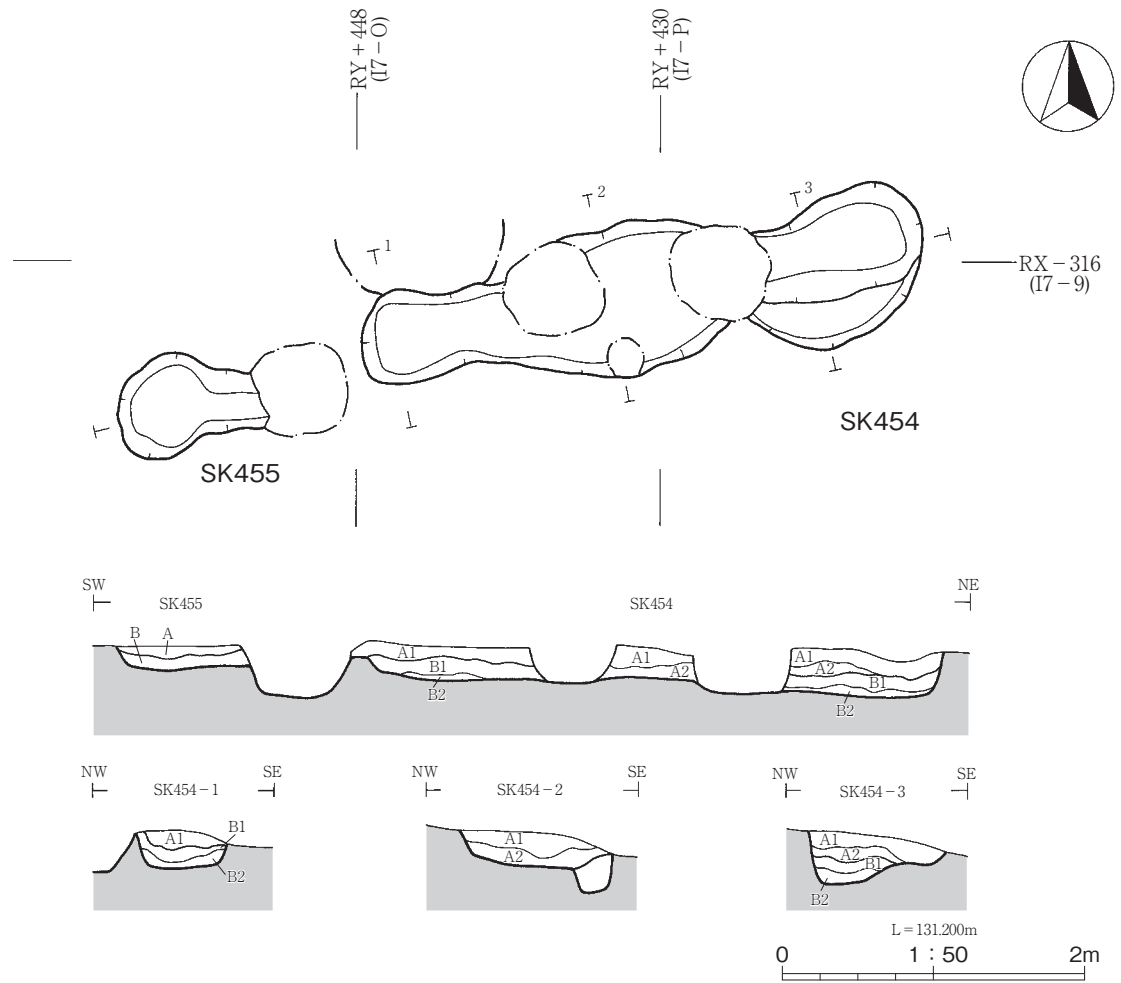
第 43 図 SK424 ~ 432 土坑



第44图 SK433~445土坑



第 45 図 SK446 ~ 453 土坑



第 46 图 SK454 · 455 土坑

柱 穴 群 柱穴は 813 口検出された。埋土は黒褐色のものが多い。各ピットの深さについては下記の表第 9 ～ 11 表にまとめた。

No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)
1	0.62	51	0.15	101	0.12	151	0.22	201	0.01	251	0.11
2	0.34	52	0.11	102	0.34	152	0.26	202	0.22	252	0.52
3	0.24	53	0.29	103	0.28	153	0.48	203	0.38	253	0.24
4	0.56	54	0.82	104	0.49	154	0.44	204	0.50	254	0.22
5	0.24	55	0.42	105	0.14	155	0.39	205	0.32	255	0.48
6	0.42	56	0.26	106	0.24	156	0.65	206	0.40	256	0.25
7	0.18	57	0.42	107	0.18	157	0.15	207	0.30	257	0.40
8	0.20	58	0.29	108	0.39	158	0.52	208	0.16	258	0.28
9	0.18	59	0.23	109	0.18	159	0.18	209	0.48	259	0.16
10	0.24	60	0.17	110	0.17	160	0.42	210	0.39	260	0.32
11	0.19	61	0.24	111	0.15	161	0.38	211	0.40	261	0.59
12	0.18	62	0.30	112	0.22	162	0.24	212	0.10	262	0.35
13	0.21	63	0.35	113	0.18	163	0.32	213	0.18	263	0.16
14	0.22	64	0.19	114	0.29	164	0.14	214	0.24	264	0.30
15	0.12	65	0.18	115	0.39	165	0.13	215	0.21	265	0.39
16	0.29	66	0.40	116	0.20	166	0.33	216	0.11	266	0.48
17	0.36	67	0.18	117	0.19	167	0.82	217	0.12	267	0.36
18	0.22	68	0.13	118	0.18	168	0.52	218	0.50	268	0.07
19	0.29	69	0.21	119	0.17	169	0.33	219	0.20	269	0.34
20	0.28	70	0.22	120	0.36	170	0.61	220	0.38	270	0.40
21	0.22	71	0.27	121	0.30	171	0.12	221	0.11	271	0.32
22	0.26	72	0.23	122	0.18	172	0.54	222	0.19	272	0.14
23	0.30	73	0.31	123	0.47	173	0.46	223	0.12	273	0.18
24	0.35	74	0.15	124	0.19	174	0.35	224	0.30	274	0.31
25	0.29	75	0.20	125	0.25	175	0.18	225	0.31	275	0.25
26	0.21	76	0.22	126	0.16	176	0.22	226	0.20	276	0.15
27	0.11	77	0.16	127	0.36	177	0.31	227	0.36	277	0.45
28	0.24	78	0.28	128	0.26	178	0.44	228	0.22	278	0.46
29	0.13	79	0.19	129	0.28	179	0.18	229	0.36	279	0.40
30	0.18	80	0.41	130	0.35	180	0.42	230	0.20	280	0.30
31	0.24	81	0.16	131	0.46	181	0.36	231	0.40	281	0.51
32	0.15	82	0.20	132	0.28	182	0.24	232	0.31	282	0.55
33	0.18	83	0.24	133	0.42	183	0.28	233	0.15	283	0.31
34	0.45	84	0.56	134	0.16	184	0.58	234	0.24	284	0.35
35	0.24	85	0.18	135	0.52	185	0.52	235	0.23	285	0.32
36	0.28	86	0.23	136	0.42	186	0.12	236	0.46	286	0.12
37	0.29	87	0.25	137	0.18	187	0.30	237	0.19	287	0.20
38	0.41	88	0.12	138	0.53	188	0.38	238	0.21	288	0.18
39	0.39	89	0.14	139	0.42	189	0.29	239	0.45	289	0.35
40	0.28	90	0.29	140	0.24	190	0.41	240	0.30	290	0.24
41	0.40	91	0.28	141	0.46	191	0.51	241	0.40	291	0.53
42	0.19	92	0.18	142	0.47	192	0.50	242	0.18	292	0.18
43	0.22	93	0.28	143	0.23	193	0.56	243	0.26	293	0.48
44	0.45	94	0.31	144	0.46	194	0.36	244	0.40	294	0.38
45	0.28	95	0.08	145	0.25	195	0.19	245	0.29	295	0.45
46	0.33	96	0.14	146	0.14	196	0.24	246	0.18	296	0.50
47	0.31	97	0.37	147	0.18	197	0.21	247	0.28	297	0.34
48	0.34	98	0.27	148	0.34	198	0.45	248	0.11	298	0.42
49	0.25	99	0.40	149	0.47	199	0.26	249	0.42	299	0.23
50	0.15	100	0.24	150	0.13	200	0.22	250	0.22	300	0.14

第9表 ピット計測一覧 (1)

No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)
301	0.35	351	0.28	401	0.24	451	0.38	501	0.28	551	0.25
302	0.02	352	0.41	402	0.26	452	0.20	502	0.32	552	0.18
303	0.25	353	0.59	403	0.50	453	0.40	503	0.21	553	0.12
304	0.50	354	0.40	404	0.66	454	0.33	504	0.26	554	0.24
305	0.24	355	0.28	405	0.20	455	0.19	505	0.28	555	0.33
306	0.15	356	0.45	406	0.31	456	0.26	506	0.42	556	0.45
307	0.35	357	0.18	407	0.20	457	0.32	507	0.38	557	0.30
308	0.20	358	0.20	408	0.22	458	0.21	508	0.41	558	0.52
309	0.30	359	0.30	409	0.31	459	0.18	509	0.40	559	0.11
310	0.56	360	0.11	410	0.36	460	0.20	510	0.24	560	0.10
311	0.23	361	0.36	411	0.30	461	0.25	511	0.30	561	0.41
312	0.12	362	0.17	412	0.33	462	0.28	512	0.55	562	0.22
313	0.46	363	0.15	413	0.38	463	0.12	513	0.24	563	0.40
314	0.38	364	0.28	414	0.34	464	0.26	514	0.31	564	0.21
315	0.45	365	0.22	415	0.20	465	0.19	515	0.12	565	0.20
316	0.16	366	0.15	416	0.26	466	0.25	516	0.42	566	0.24
317	0.27	367	0.52	417	0.14	467	0.12	517	0.26	567	0.22
318	0.22	368	0.34	418	0.15	468	0.11	518	0.40	568	0.56
319	0.12	369	0.35	419	0.28	469	0.44	519	0.35	569	0.38
320	0.29	370	0.40	420	0.39	470	0.13	520	0.44	570	0.60
321	0.52	371	0.25	421	0.20	471	0.34	521	0.13	571	0.35
322	0.30	372	0.48	422	0.10	472	0.30	522	0.41	572	0.30
323	0.34	373	0.20	423	0.15	473	0.18	523	0.22	573	0.61
324	0.51	374	0.18	424	0.18	474	0.17	524	0.32	574	0.50
325	0.19	375	0.42	425	0.12	475	0.45	525	0.21	575	0.26
326	0.22	376	0.15	426	0.58	476	0.32	526	0.20	576	0.22
327	0.46	377	0.22	427	0.40	477	0.36	527	0.18	577	0.31
328	0.30	378	0.36	428	0.12	478	0.29	528	0.10	578	0.20
329	0.44	379	0.18	429	0.36	479	0.26	529	0.30	579	0.37
330	0.38	380	0.26	430	0.24	480	0.41	530	0.31	580	0.15
331	0.14	381	0.42	431	0.36	481	0.40	531	0.29	581	0.32
332	0.58	382	0.39	432	0.32	482	0.34	532	0.28	582	0.70
333	0.30	383	0.11	433	0.15	483	0.35	533	0.22	583	0.24
334	0.12	384	0.22	434	0.28	484	0.40	534	0.34	584	0.18
335	0.10	385	0.18	435	0.51	485	0.30	535	0.28	585	0.09
336	0.17	386	0.16	436	0.16	486	0.61	536	0.19	586	0.10
337	0.26	387	0.15	437	0.34	487	0.41	537	0.60	587	0.12
338	0.22	388	0.24	438	0.50	488	0.26	538	0.26	588	0.30
339	0.24	389	0.25	439	0.48	489	0.11	539	0.27	589	0.24
340	0.51	390	0.48	440	0.15	490	0.25	540	0.28	590	0.10
341	0.48	391	0.16	441	0.13	491	0.44	541	0.16	591	0.11
342	0.24	392	0.24	442	0.32	492	0.25	542	0.21	592	0.44
343	0.19	393	0.43	443	0.18	493	0.41	543	0.15	593	0.38
344	0.12	394	0.28	444	0.22	494	0.24	544	0.26	594	0.60
345	0.17	395	0.18	445	0.13	495	0.22	545	0.44	595	0.38
346	0.08	396	0.30	446	0.50	496	0.31	546	0.14	596	0.50
347	0.28	397	0.24	447	0.34	497	0.48	547	0.32	597	0.20
348	0.31	398	0.22	448	0.30	498	0.36	548	0.36	598	0.14
349	0.40	399	0.17	449	0.41	499	0.41	549	0.24	599	0.12
350	0.08	400	0.30	450	0.20	500	0.24	550	0.40	600	0.41

第10表 ビット計測一覧(2)

No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)
601	0.68	651	0.59	701	0.18	751	0.38	801	0.20
602	0.26	652	0.66	702	0.52	752	0.22	802	0.10
603	0.14	653	0.20	703	0.20	753	0.20	803	0.16
604	0.16	654	0.50	704	0.32	754	0.21	804	0.34
605	0.40	655	0.30	705	0.31	755	0.20	805	0.32
606	0.22	656	0.48	706	0.18	756	0.18	806	0.22
607	0.34	657	0.82	707	0.50	757	0.16	807	0.71
608	0.31	658	0.15	708	0.62	758	0.20	808	0.45
609	0.46	659	0.30	709	0.23	759	0.10	809	0.40
610	0.34	660	0.40	710	0.41	760	0.14	810	0.06
611	0.60	661	0.60	711	0.31	761	0.12	811	0.24
612	0.38	662	0.32	712	0.20	762	0.11	812	0.10
613	0.11	663	0.26	713	0.26	763	0.18	813	0.28
614	0.15	664	0.22	714	0.25	764	0.12		
615	0.14	665	0.59	715	0.28	765	0.36		
616	0.50	666	0.21	716	0.24	766	0.10		
617	0.32	667	0.45	717	0.38	767	0.18		
618	0.50	668	0.50	718	0.08	768	0.12		
619	0.20	669	0.37	719	0.36	769	0.21		
620	0.15	670	0.15	720	0.15	770	0.20		
621	0.45	671	0.20	721	0.07	771	0.08		
622	0.10	672	0.11	722	0.38	772	0.34		
623	0.20	673	0.28	723	0.35	773	0.30		
624	0.24	674	0.30	724	0.11	774	0.31		
625	0.58	675	0.10	725	0.12	775	0.12		
626	0.25	676	0.12	726	0.13	776	0.11		
627	0.30	677	0.44	727	0.30	777	0.12		
628	0.35	678	0.22	728	0.44	778	0.20		
629	0.34	679	0.08	729	0.18	779	0.04		
630	0.22	680	0.08	730	0.10	780	0.08		
631	0.24	681	0.12	731	0.20	781	0.10		
632	0.30	682	0.56	732	0.26	782	0.39		
633	0.18	683	0.21	733	0.14	783	0.34		
634	0.24	684	0.41	734	0.21	784	0.22		
635	0.38	685	0.18	735	0.35	785	0.18		
636	0.40	686	0.31	736	0.30	786	0.12		
637	0.64	687	0.14	737	0.14	787	0.14		
638	0.20	688	0.16	738	0.46	788	0.28		
639	0.35	689	0.31	739	0.30	789	0.15		
640	0.37	690	0.36	740	0.12	790	0.09		
641	0.72	691	0.15	741	0.46	791	0.30		
642	0.21	692	0.21	742	0.06	792	0.12		
643	0.20	693	0.24	743	0.18	793	0.00		
644	0.40	694	0.15	744	0.19	794	0.12		
645	0.51	695	0.24	745	0.31	795	0.15		
646	0.18	696	0.22	746	0.14	796	0.24		
647	0.32	697	0.31	747	0.38	797	0.18		
648	0.21	698	0.06	748	0.41	798	0.32		
649	0.18	699	0.14	749	0.25	799	0.22		
650	0.11	700	0.26	750	0.16	800	0.42		

第11表 ビット計測一覧 (3)



第 47 図 ピット断面図 (1)



第 48 図 ピット断面図 (2)



L = 131.600m
 0 1 : 100 4m

第 49 図 ピット断面図 (3)



第 50 図 ピット断面図 (4)

10、出土遺物(第51～57図)

陶磁器(第51図・第52図1～6)

第51図1は中国産白磁皿の底部である。2は中国産白磁皿の口縁部である。3は瀬戸美濃大窯I期の灰釉丸皿である。4は中国産青磁の盤である。5は中国産の染付皿の破片である。6は瀬戸美濃の灰釉三足盤の底部である。7は瀬戸美濃の灰釉平碗の破片である。8は中国産の青磁皿である。9は瀬戸美濃大窯II～III期の灰釉皿である。10は中国産染付皿の破片である。11は中国産染付皿の口縁部破片である。12は瀬戸美濃大窯I期の灰釉皿である。13は瀬戸美濃大窯I期の灰釉丸皿の破片である。14は瀬戸美濃大窯II期の鉄釉天目茶碗である。15は中国産の染付龍文皿である。口縁部が欠けているものの底部は残存しており、文様は原型を留めている。16は瀬戸美濃染付陶器碗である。17は唐津灰釉碗の底部破片である。18は肥前染付格子目文丸皿の口縁部破片である。

第52図1は肥前染付の紅皿である。2は中国産白磁皿の底部破片である。3は東北産の灰釉碗で、江戸期のものと考えられる。4は江戸期の志野焼きの皿である。5は肥前の染付皿で、外面が青磁である。6は肥前の染付皿である。

鉄製品・銅製品・琥珀(第52図7～14・第53図)

第52図7は板状鉄製品である。8は銅製の刀装具である。鉄製の軸に真鍮を巻きつけている。9は小刀である。柄に木質部が見られる。10は釘である。11は鉄鏃である。12～14は釘である。

第53図1は板状鉄製品である。2は小柄である。小刀に銅製の小柄がついている。3は小刀である。4は筒状鉄製品である。5は筒状銅製品である。6は柄頭である。柄部分の先端の金具で、側面に透かし彫りが施されている。7は簪である。銅製で2箇所大きく屈曲している。8は琥珀の原石である。

石製品(第54図～第57図1)

第54図1は砥石である。表面に三本条痕があり、材質は多孔質安山岩である。

第55図1は石臼である。中央穴部のみ残存している。2は台石である。一面が使用されており、中央部にコゲがある。3は搗臼である。片面のみ使用しており、材質は多孔質安山岩である。

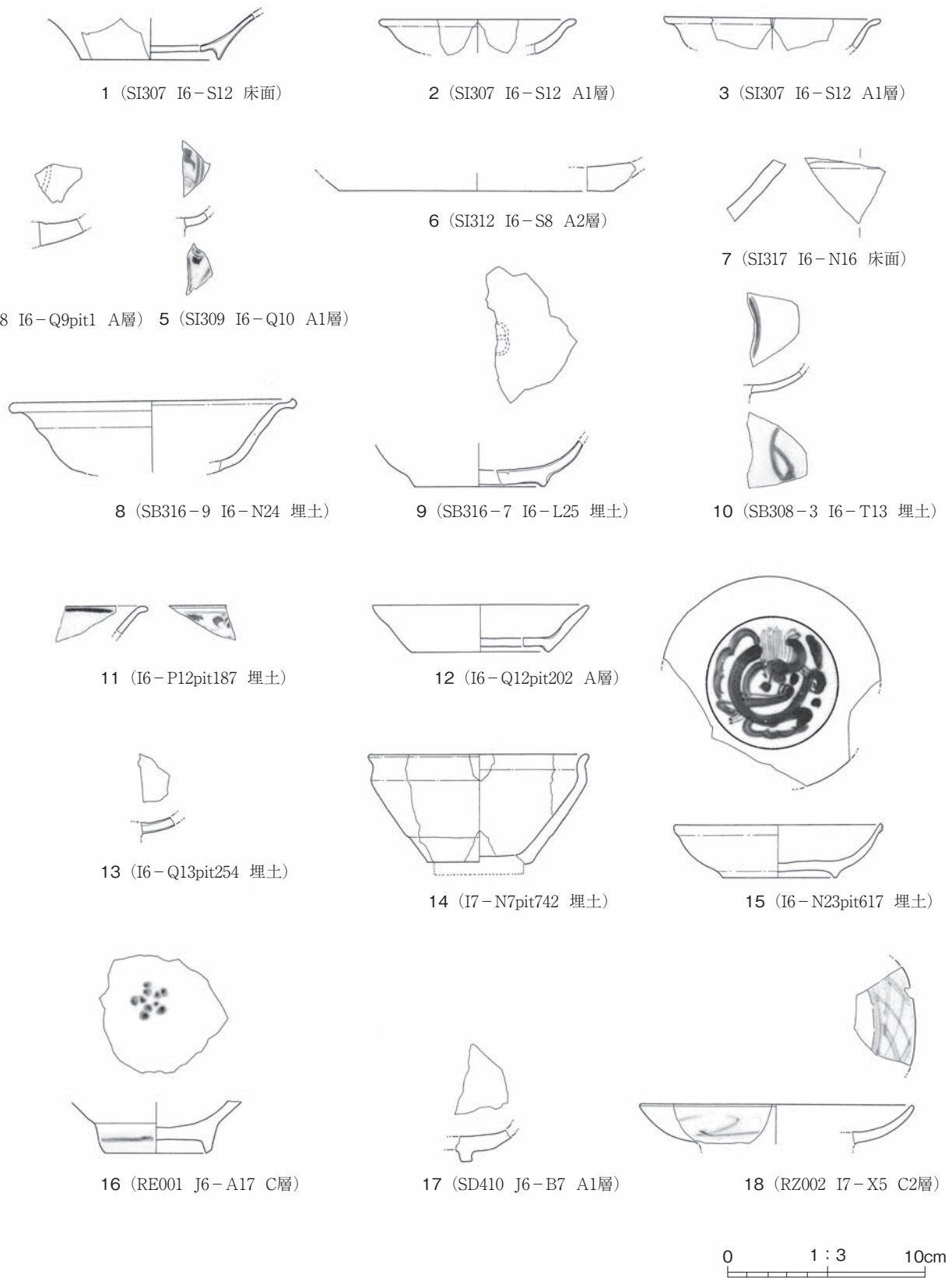
第56図1は灯籠の火袋である。材質は多孔質安山岩である。2～4は砥石である。2は五面使用している。材質はいずれも凝灰岩である。第57図1は、硯として使用されていたものを砥石に転用したものである。背面に文字が線刻されており「无工」か。材質は凝灰岩である。

土器(第57図2～5)

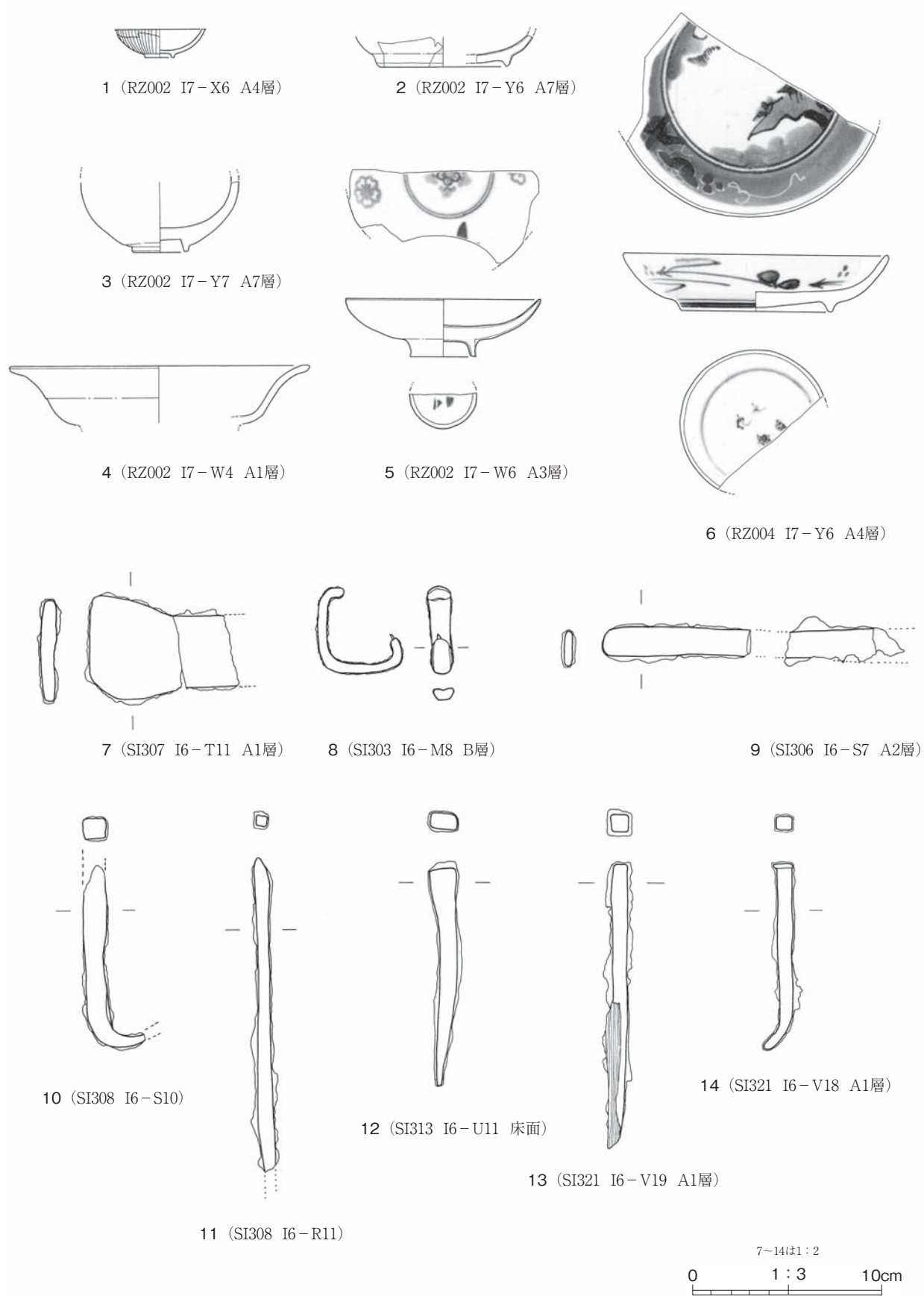
第57図2は須恵器の坏である。口縁下に突帯文があり、古墳時代中～後期のものとみられる。3は土師器の甕である。内外に黒色処理が施されている。4は古式土師器の坏である。頸部が内側に屈曲し口縁部が外傾しており、底部は残存していないが丸みのある体部を持つ。また、体部には化粧粘土によって朱彩が施されている。5は土師器の高台付坏である。磨滅しているが、内側に黒色処理が施されている。

石器(第57図6～15)

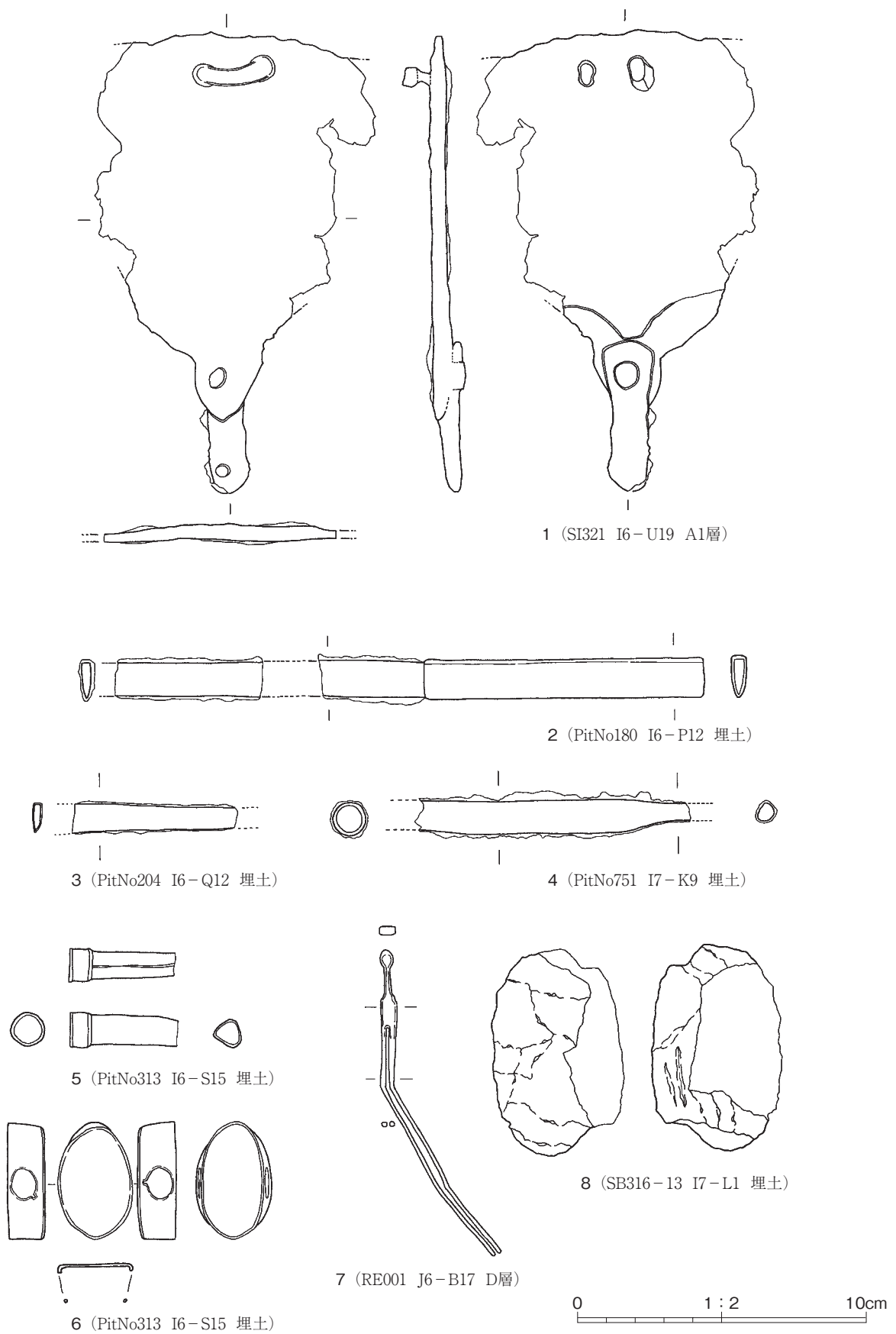
第57図6は頁岩製の有茎石鏃である。7は腹面の側縁に調整痕が施されている搔器である。材質は頁岩である。8は背面両側縁に調整痕が施された削器である。材質は頁岩である。9は黒曜石製の拇指状搔器である。10～14は、黒曜石製のフレークである。15は滑石製の白玉である。



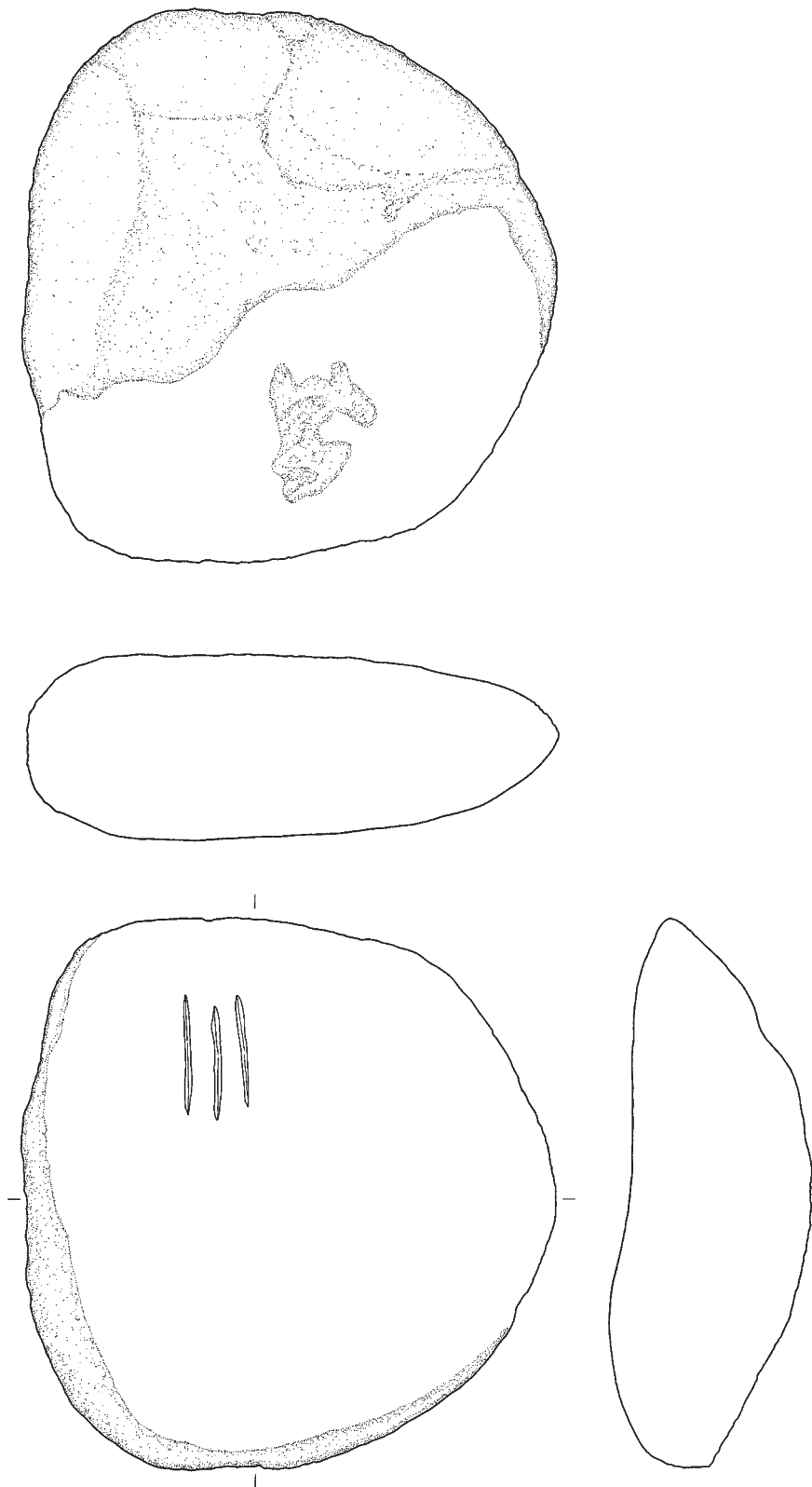
第51図 遺構出土陶磁器(1)



第52図 遺構出土陶磁器(2)、遺構出土金属器(1)



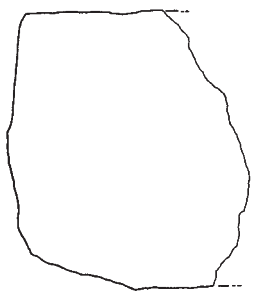
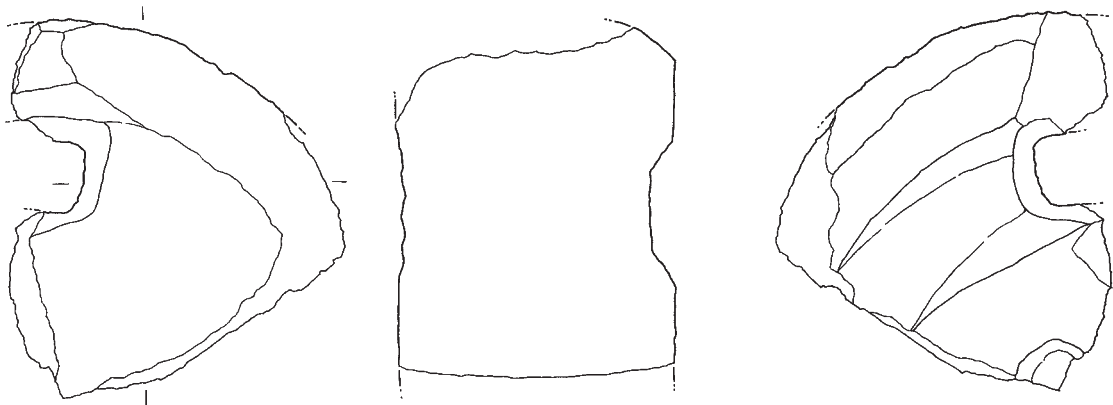
第53図 遺構出土金属器(2)、SB316出土琥珀



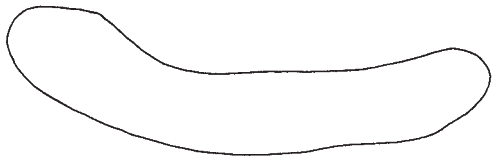
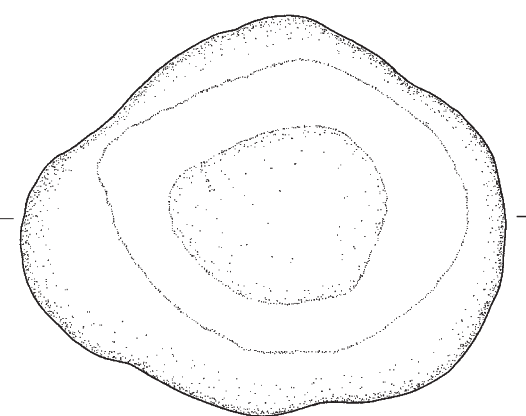
1 (SI305 I6-Q7 床面)

0 1:3 10cm

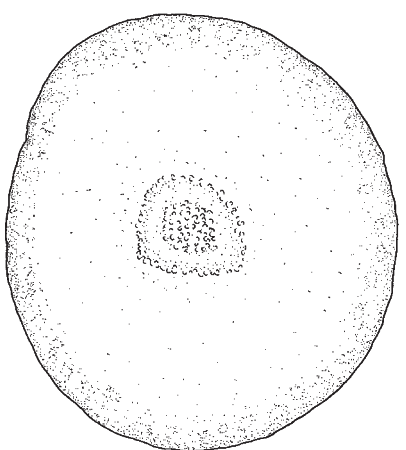
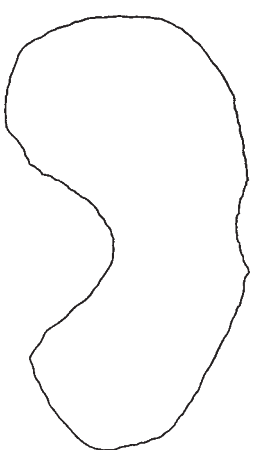
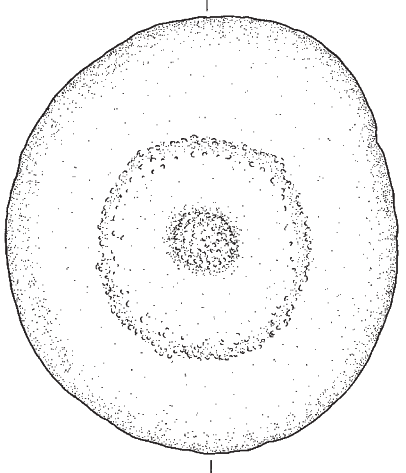
第 54 図 遺構出土石製品 (1)



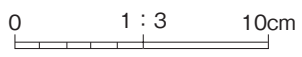
1 (SI312 I6-S9 A2層)



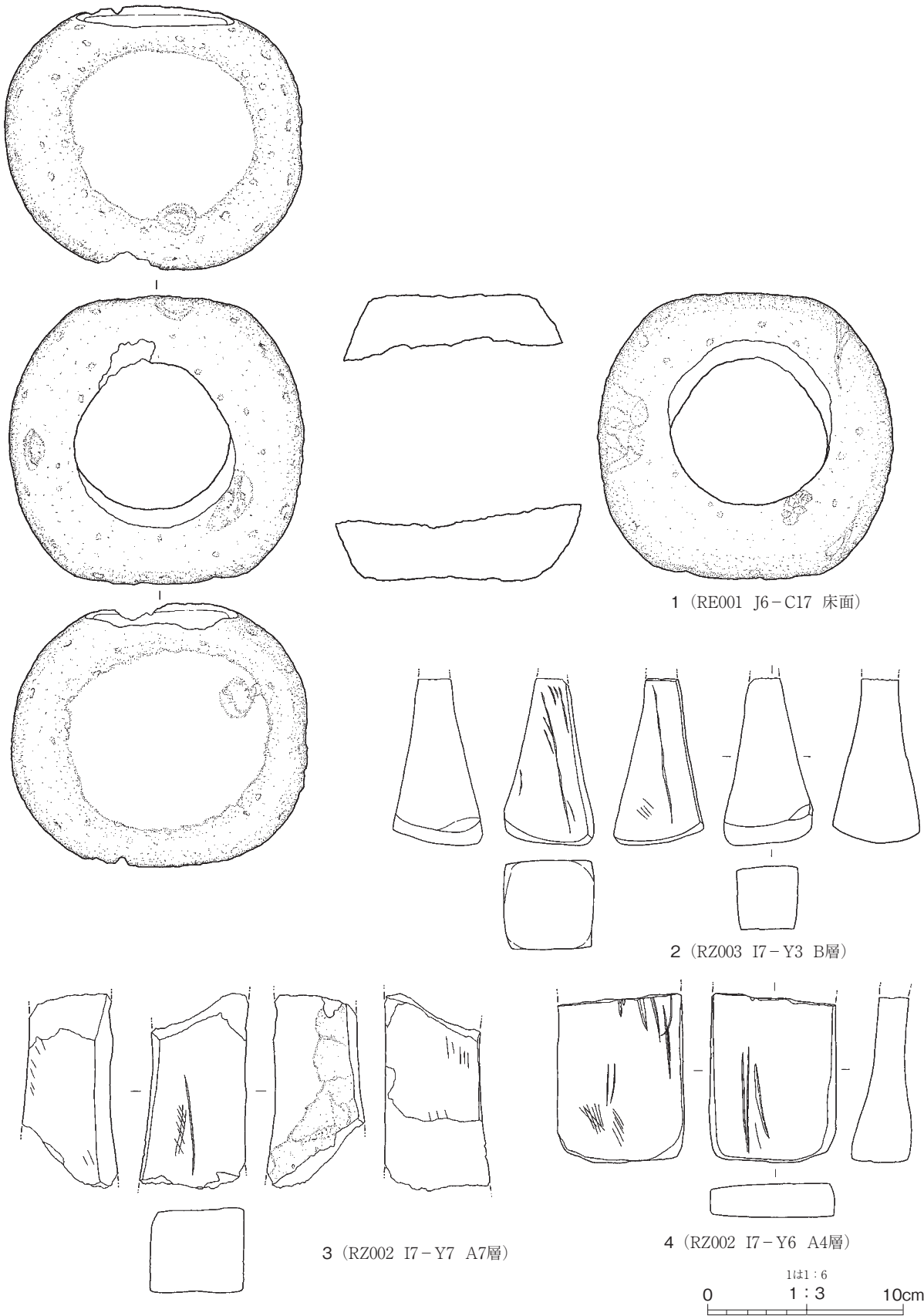
2 (SI313 I6-U12 床面)



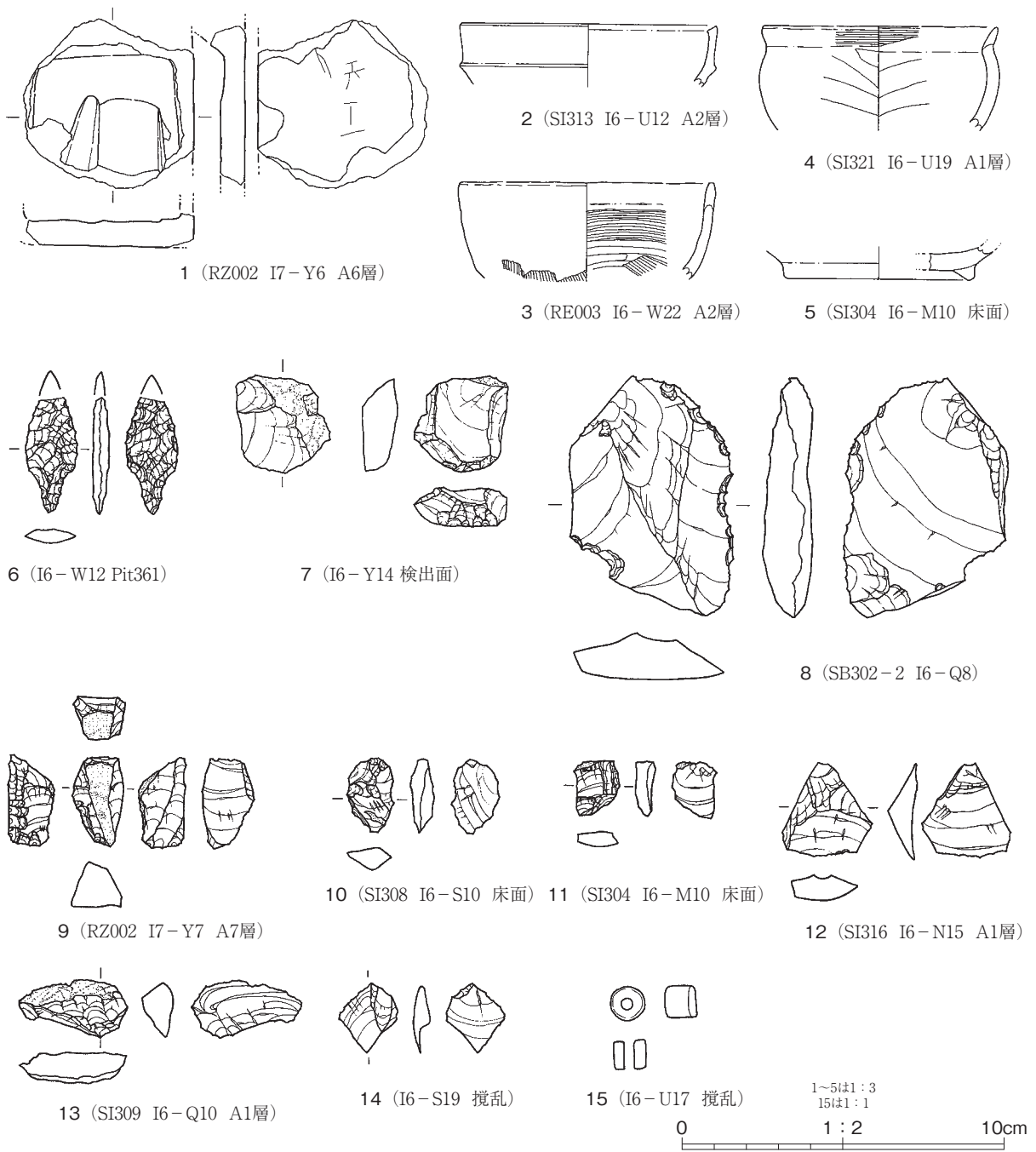
3 (SB317-1 I7-O5 X2層)



第55図 遺構出土石製品 (2)



第56図 遺構出土石製品 (3)



第57図 遺構出土石製品(4)、遺構外出土土器・石器

古銭 (第 58 ~ 60 図 1 ~ 81)

遺構に伴って出土した古銭は、開元通寶などの唐銭、元豊通寶や元祐通寶などの北宋銭、永楽通寶や洪武通寶などの明銭や、それらの倭鑄が多く出土している。また、沢状地形跡からは寛永通寶が多く出土している。

挿図	番号	写真 図版	遺構名	種別	出土		寸法	特徴等
					平面位置	層位		
58	1	6	SI306	元豊通寶	I6-S8	B1	2.4	北宋銭, 1078 年始鑄, 真書体
58	2	6	SI308	開元通寶	I6-R10	埋土	2.4	唐銭, 621 年始鑄
58	3	6	SI308	開元通寶	I6-R10	埋土	2.3	唐銭, 621 年始鑄
58	4	6	SI308	皇宋通寶	I6-R10	埋土	2.4	北宋銭, 1039 年始鑄, 篆書体
58	5	6	SI308	判別不能	I6-R10	埋土	2.3	渡来銭の写しか
58	6	6	SI308	元豊通寶	I6-Q11	埋土	2.3	北宋銭, 1078 年始鑄, 篆書体
58	7	6	SI308	天聖元寶	I6-Q11	埋土	2.4	北宋銭, 1023 年始鑄, 篆書体
58	8	6	SI308	元豊通寶	I6-Q11	埋土	2.3	北宋銭, 1078 年始鑄, 真書体
58	9	6	SI313	無銘銭	I6-U11	床面	2.3 × 2.2	
58	10	6	SI313	永楽通寶	I6-V12	周溝 (B)	2.3	明銭, 1408 年始鑄, 火中品か
58	11	6	SB307-5	至道元寶	I6-R12	埋土	2.4	北宋銭, 995 年始鑄, 草書体
58	12	6	SB307-5	元祐通寶	I6-R12	埋土	2.4	北宋銭, 1068 年始鑄, 篆書体
58	13	6	SB307-5	永楽通寶	I6-R12	埋土	2.5	明銭, 1408 年始鑄
58	14	6	SB308-5	宣徳通寶	I6-R13	埋土	—	明銭, 1433 年始鑄, 真書体
58	15	6	SB313-9	無銘銭	I6-T15	埋土	2.1	悪銭
58	16	6	SB312-2	永楽通寶	I6-U13	埋土	2.3	倭鑄
58	17	6	SB314-7	無銘銭	I6-V17	A	2.2	
58	18	6	SA302-1	永楽通寶	I6-M23	埋土	2.1	倭鑄
58	19	6	Pit146	永楽通寶	I6-M13	埋土	2.3 × 2.2	倭鑄
58	20	6	Pit146	洪武通寶	I6-M13	埋土	2.4	明銭, 1368 年始鑄
58	21	6	Pit153	無銘銭	I6-N15	埋土	1.7	
58	22	6	Pit153	無銘銭	I6-N15	埋土	1.7	
58	23	6	Pit178	元豊通寶	I6-P12	A	2.2 × 2.3	北宋銭, 1078 年始鑄
58	24	6	Pit246	洪武通寶	I6-P15	埋土	2.3	明銭, 1368 年始鑄, 火中品か
58	25	6	Pit301	皇宋通寶	I6-S14	埋土	2.4	北宋銭, 1039 年始鑄, 篆書体
58	26	6	Pit348	無銘銭	I6-U12	埋土	1.9	
58	27	6	Pit680	元祐通寶	I7-N4	埋土	2.4	北宋銭, 1068 年始鑄, 草書体, 火中品か
59	28	6	RE001	寛永通寶	J6-A18	D2	2.8	新寛永 (俯永), 明和 5 年 (1768) 始鑄, 4 文銭
59	29	6	RE001	寛永通寶	J6-A18	A	2.3	新寛永 (退永), 享保 11 年 (1726) 始鑄, 山城国京都七条
59	30	6	RE001	寛永通寶	J6-A18	A	2.2 × 2.1	新寛永 (細字背文), 享保 11 年 (1726) 始鑄, 摂津国大坂高津新地
59	31	6	RZ001	寛永通寶	I6-Y22	E	2.5	古寛永 (沓谷銭, 明暦大字), 延宝 2 年 (1674) 始鑄, 駿河国
59	32	6	RZ002	寛永通寶	I7-Y6	A8	2.2	新寛永 (退永刮去細縁), 元文元年 (1736) 始鑄, 山城国鳥羽大路
59	33	6	RZ002	寛永通寶	I7-Y7	A8	2.4	新寛永 (退点文), 雨乞い銭
59	34	6	RZ002	寛永通寶	I7-X6	A4	2.4	古寛永 (不草点)
59	35	6	RZ002	寛永通寶	I7-Y6	A4	2.5	新寛永 (正字背文), 寛文期
59	36	6	RZ002	寛永通寶	I7-X8	A4	2.4	古寛永 (鳥越銭), 明暦 2 年 (1656) 始鑄
59	37	6	RZ002	寛永通寶	I7-X8	A4	2.1	新寛永 (進冠水永), 元文 2 年 (1737) 始鑄, 江戸本所小梅
59	38	6	RZ002	雁首銭	I7-W5	A3	1.7 × 1.5	
59	39	6	RZ002	寛永通寶	I7-W5	A1	2.2	新寛永 (小字), 享保 11 年 (1726) 始鑄, 江戸深川十万坪
59	40	6	RZ002	寛永通寶	I7-Y5	A1	2.4	古寛永 (岡山銭, 俯永), 寛永 14 年 (1637) 始鑄

第 12 表 古銭計測一覧 (1)

挿図	番号	写真 図版	遺構名	種別	出土		寸法	特徴等
					平面位置	層位		
59	41	6	RZ002	寛永通寶	I7-Y5	A1	2.2	新寛永(虎ノ尾寛), 元文期
59	42	6	RZ002	寛永通寶	I7-Y5	A1	2.4	古寛永(沓谷銭, 明歴小字), 明歴2年(1656)始鑄
59	43	6	RZ003	寛永通寶	I7-Y3	B	2.4	古寛永(水戸銭, 動永), 寛永14年(1637)始鑄
59	44	6	—	寛永通寶	I7-J2	検出面	2.2×2.3	古寛永(広目寛)
59	45	6	—	寛永通寶	I6-Q10	攪乱	—	古寛永(高田銭, 動永), 寛永14年(1637)始鑄
59	46	6	—	無銘銭	I6-P14	攪乱	1.9	
59	47	6	—	景祐元寶	I6-P14	攪乱	2.4	北宋銭, 景祐元年(1034)始鑄
59	48	6	—	洪武通寶	I6-P15	攪乱	2.2×2.3	明銭, 洪武元年(1368)始鑄, 草点通
59	49	6	—	元豊通寶	I6-S19	攪乱	2.3	北宋銭, 1078年始鑄, 篆書体
59	50	6	—	無銘銭?	I6-P23	攪乱	2.5	南部へーらか
59	51	6	—	開元通寶	I7-K2	攪乱	2.2	唐銭, 621年始鑄
59	52	6	—	永楽通寶	J7-B2	攪乱	2.3	明銭, 1408年始鑄
59	53	6	—	渡来銭	I7-L4	攪乱	2.3	
59	54	6	—	寛永通寶	I7-M4	攪乱	2.4	古寛永(仙台銭, 潤字手), 寛永14年(1637)始鑄
60	55	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.4	古寛永(高田銭, 笹手永), 寛永14年(1637)始鑄
60	56	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.5	新寛永(細字背文), 寛文8年(1668)始鑄, 江戸亀戸
60	57	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.5	新寛永(正字背文), 寛文8年(1668)始鑄, 江戸亀戸
60	58	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.4	古寛永(仲寛破貝宝), 寛永14年(1637)始鑄, 岡山銭
60	59	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.4	新寛永(細字背文), 寛文8年(1668)始鑄, 江戸亀戸
60	60	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.3	古寛永(婉文), 寛永14年(1637)始鑄, 岡山銭
60	61	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.5	新寛永(細字背文), 寛文8年(1668)始鑄, 江戸亀戸
60	62	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.3	古寛永(近江坂本銭, 正永), 寛永13年(1636)始鑄
60	63	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.3	古寛永(広永), 寛永14年(1637)始鑄, 三河吉田銭
60	64	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.5	新寛永(正字背文), 寛文8年(1668)始鑄, 江戸亀戸
60	65	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.2	新寛永(広永), 宝永5年(1708)始鑄, 江戸亀戸
60	66	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.3	新寛永(動永広寛), 宝永5年(1708)始鑄, 江戸亀戸
60	67	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.5	新寛永(細字背文), 寛文8年(1668)始鑄, 江戸亀戸
60	68	6	RZ004	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.3	古寛永(俯永中字), 寛永14年(1637)始鑄, 岡山銭
60	69	6	—	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.4	新寛永(中字背文), 寛文8年(1668)始鑄, 江戸亀戸
60	70	6	—	寛永通寶	J7-B5	攪乱	2.3	新寛永(跳永), 宝永5年(1708)始鑄, 江戸亀戸
60	71	6	—	寛永通寶	I7-K7	攪乱	2.4	古寛永, 寛永14年(1637)始鑄, 高田銭か
60	72	6	—	寛永通寶	I7-K7	攪乱	2.2	新寛永(動永広寛), 宝永5年(1708)始鑄, 江戸亀戸
60	73	6	—	無銘銭	I7-M7	攪乱	2	
60	74	6	—	永楽通寶	I7-K8	攪乱	2.4	明銭, 永楽6年(1408)始鑄
60	75	6	—	無銘銭	—	攪乱	2.2	
60	76	6	—	元豊通寶か	—	攪乱	2.4	北宋銭, 1078年始鑄, 草書体
60	77	6	—	寛永通寶	—	攪乱	—	新寛永(大字), 元文3年(1738)始鑄, 秋田銭
60	78	6	—	寛永通寶	—	攪乱	—	古寛永(小梅銭, 仰寛), 元文2年(1737)始鑄
60	79	6	—	洪武通寶	—	攪乱	2.2	明銭, 洪武元年(1368)始鑄
60	80	6	—	寛永通寶	—	I a	2.4	古寛永(御蔵銭, 大永), 寛永13年(1636)始鑄
60	81	6	—	寛永通寶	—	I a	—	新寛永(退永), 享保11年(1726)始鑄, 山城国京都七条

第13表 古銭計測一覧(2)



1 (SI306 I6-S8 B1層)



2 (SI308 I6-R10 埋土)



3 (SI308 I6-R10 埋土)



4 (SI308 I6-S8 埋土)



5 (SI308 I6-R10 埋土)



6 (SI308 I6-Q11 埋土)



7 (SI308 I6-Q11 埋土)



8 (SI308 I6-Q11 埋土)



9 (SI313 I6-U11 床面)



10 (SI313 I6-V12 B層)



11 (SB307-5 I6-R12 埋土)



12 (SB307-5 I6-R12 埋土)



13 (SB307-5 I6-R12 埋土)



14 (SB308-5 I6-R13 埋土)



15 (SB313-9 I6-T15 埋土)



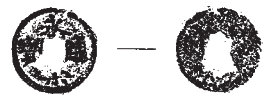
16 (SB312-2 I6-U13 埋土)



17 (SB314-7 I6-V12 A層)



18 (SA302-1 I6-M23 埋土)



19 (PitNo.146 I6-M13 埋土)



20 (PitNo.146 I6-M13 埋土)



21 (PitNo.153 I6-N15 埋土)



22 (PitNo.153 I6-N15 埋土)



23 (PitNo.178 I6-P12 A層)



24 (PitNo.246 I6-P15 埋土)



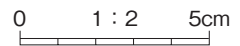
25 (PitNo.301 I6-S14 埋土)



26 (PitNo.348 I6-U12 埋土)



27 (PitNo.680 I7-N4 埋土)



第 58 図 遺構出土古銭 (1)



28 (RE001 J6-A18 D2層)



29 (RE001 J6-A18 A層)



30 (RE001 J6-A18 A層)



31 (RZ001 I6-Y22 E層)



32 (RZ002 I7-Y6 A8層)



33 (RZ002 I7-Y7 A8層)



34 (RZ002 I7-Y6 A4層)



35 (RZ002 I7-Y6 A4層)



36 (RZ002 I7-X8 A4層)



37 (RZ002 I7-X8 A4層)



38 (RZ002 I7-W5 A3層)



39 (RZ002 I7-W5 A1層)



40 (RZ002 I7-Y5 A1層)



41 (RZ002 I7-Y5 A1層)



42 (RZ002 I7-Y5 A1層)



43 (RZ003 I7-Y3 B層)



44 (I7-J2 検出面)



45 (I6-Q10 攪乱)



46 (I6-P14 攪乱)



47 (I6-P14 攪乱)



48 (I6-P15 攪乱)



49 (I6-S19 攪乱)



50 (I6-P23 攪乱)



51 (I7-K2 攪乱)



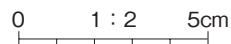
52 (J7-B2 攪乱)



53 (I7-L4 攪乱)



54 (I7-M4 攪乱)



第 59 図 遺構出土古銭 (2)、遺構外出土古銭 (1)



55 (J7-B5 攪乱)



56 (J7-B5 攪乱)



57 (J7-B5 攪乱)



58 (J7-B5 攪乱)



59 (J7-B5 攪乱)



60 (J7-B5 攪乱)



61 (J7-B5 攪乱)



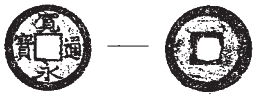
62 (J7-B5 攪乱)



63 (J7-B5 攪乱)



64 (J7-B5 攪乱)



65 (J7-B5 攪乱)



66 (J7-B5 攪乱)



67 (J7-B5 攪乱)



68 (J7-B5 攪乱)



69 (J7-B5 攪乱)



70 (J7-B5 攪乱)



71 (I7-K7 攪乱)



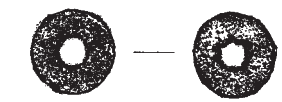
72 (I7-K7 攪乱)



73 (I7-M7 攪乱)



74 (I7-K8 攪乱)



75 (攪乱)



76 (攪乱)



77 (攪乱)



78 (攪乱)



79 (Ia層)



80 (Ia層)



81 (Ia層)

0 1:2 5cm

第60圖 遺構外出土古錢(2)

Ⅲ. 総括

検出遺構 里館遺跡第56次調査では、縄文時代の陥し穴状遺構7基、古代の竪穴住居跡1棟、中世の竪穴建物跡21棟、掘立柱建物跡19棟、中世～近世の柱列跡8列、土坑50基、柱穴813口、近世の竪穴状遺構3棟、溝跡3条、沢状遺構4基が検出された。

陥し穴状遺構 陥し穴状遺構は出土遺物がないため詳細は不明だが、その形状や過去の調査事例から縄文時代後期～晩期に属するものと考えられる。

古墳時代 土師器の坏(第57図4)は、その形態から古墳時代前期のものであるとされ、須恵器の坏(第57図2)は、古墳時代中～後期のものと考えられる。黒曜石製のラウンドスクレーパーおよびフレーク(第57図10～14)の石質は不透明で縞が入っていることから湯ノ倉産の可能性が高い。また、滑石製の白玉(第57図15)も出土している。いずれも二次堆積により中世の遺構から出土している。里館遺跡の北東に隣接する宿田遺跡でも、同時期の遺物が遺構外ではあるが出土していることから、滝沢台地南端部の周辺に古墳時代の遺構が存在していたことが推定される。

竪穴住居跡 奈良～平安時代と考えられる竪穴住居跡が1棟確認された。カマドは煙道が北向きに設置され、礫を芯材とした基底部が残されている。煙出しは削平されていて残存していない。これまでに里館遺跡で古代の竪穴住居跡の発見例はなく、遺跡内の時代変遷を考えるうえで貴重な発見である。

竪穴建物跡 竪穴建物跡は、隅丸方形で北もしくは南に舌状の出入り口が付けられている例が多い。一辺が約2～4mのほぼ同規模で、調査区北側に集中している。重複しているものも多く、SI307～311は5時期に渡って建替えが行われたことが考えられる。竪穴建物跡内からは中国産白磁皿・青磁盤、瀬戸美濃灰釉三足盤や平碗などの陶磁器や、刀装具や刀子などの鉄製品が出土している。陶磁器の年代から建物跡の時期は概ね15～16世紀と考えられる。

掘立柱建物跡 掘立柱建物跡は、大半が東西棟で、3間×2間または3間×1間の建物跡が半数を占める。埋土は掘方が暗褐色土で柱痕跡は黒褐色土を主体とするものが多数を占める。調査区北側では集中して検出されており、複数の時期に渡って建替えが行われたことが想定される。

SB308は7間×2間の母屋に4間×2間の角屋がつく大型の掘立柱建物跡で、柱穴からは中国染付皿や宣徳通寶といった明銭が出土している。柱間寸法は概ね5寸で割り切れる間隔であり、7尺を超える長い寸法で作られている。

SB316は総柱の5間×2間の東西棟で西側に庇が付くタイプである。柱間寸法が7尺～8尺5寸と大きく、やはり5寸で割り切れる柱間寸法が多く用いられている。柱穴からは中国産青磁皿(15～16世紀)や瀬戸美濃灰釉皿(大窯Ⅱ～Ⅲ期)や琥珀の原石が出土している。

琥珀原石 琥珀は奈良時代以前、装飾品としての利用が主体的であったが、室町時代以降は香料や医薬品などに用いられるようになる。今回出土した原石も同様の用途が推定される。理化学的鑑定を行ったわけではないが、岩手県は縄文時代から続く琥珀の一大原産地である久慈地方を有していることから、この原石も久慈産と推定される。

掘立柱建物跡の年代 他の掘立柱建物跡からは至道元寶や元祐通寶などの北宋銭、永楽通寶などの明銭も出土している。出土遺物は少ないものの、埋土の共通性から、どの掘立柱建物跡も概ね15～16世紀の年代であると考えられる。

柱 列 SA301は調査区北側に位置し、倭鋳の永楽通寶が出土している。SA302はSB316掘立柱建物跡と平行しており、附属する塀であった可能性がある。埋土の状態が前述の掘立柱建物跡と共通することからSA301・302も15～16世紀に帰属するものと考えられる。一方、SA304～SA308柱列の底部からは礎盤が確認できることから、掘立柱建物を構築していたことが推測されたが、それぞれの柱に対応する柱穴を検出することはできなかった。柱間寸法は8尺を採用しているものが多く、5寸で割り切れる間隔である。遺物は出土しなかったが埋土の状態から、時期は近世以降と考えられる。

柱 穴 調査区内からは813口の柱穴が発見されている。Pit202からは瀬戸美濃灰釉皿（第51図12）が出土しており、大窯Ⅱ～Ⅲ期のものと考えられる。Pit742からは瀬戸美濃鉄釉天目茶碗（第51図14）が出土し、大窯Ⅱ期のものとみられる。Pit617からは中国産染付龍文皿（第51図15）がほぼ完形で見ついている。これらの柱穴は本来、掘立柱建物跡を構成していたものと考えられるが、全ての柱穴を掘立柱建物跡の柱穴として検出し、使い切るには至らなかった。出土遺物と埋土の共通性から、掘立柱建物跡や竪穴建物跡と同様に15～16世紀に属するものと考えられる。

近世の遺構 RE001竪穴跡は深さ2.25mをはかり、長軸は7mに及ぶ。簀（第53図7）や寛永通寶、底部からは灯籠の火袋（第56図1）が出土している。SD410溝跡からは唐津灰釉碗が出土しているため17世紀の遺構であると考えられる。RZ001・002沢状地形跡は出入り口と考えられる。

自然堤防 RE001竪穴跡の壁面において河川堆積の痕跡が観察でき、遺構検出面から約2m下に黒色土層が確認された。過去の調査において、この黒色土層中より縄文時代中期と考えられる土器が出土している。前述した陥し穴状遺構（縄文後期～晩期）が砂質シルト層から掘り込まれていることから、1,000～2,000年の間にこの層が堆積し、縄文時代晩期には現在のような自然堤防が形成されていたと考えられる。

土 坑 土坑は楕円形または不整形のものが大半を占め、大きさは長軸が3mを超えるものから1mに満たないものまで様々である。埋土に焼土が含まれているものも認められるため、火を使用した用途も考えられるが、遺物が出土していないため詳細は不明である。

ま と め 今回の発掘調査では、過去の調査と同様に15～16世紀の遺構・遺物が確認された。後述する放射性炭素年代測定の結果からもこの年代は裏付けされ、戦国時代の城館跡であることは明確となった。今回の調査区は、東西と北を大規模な堀によって区画され、南は段丘崖によって画された曲輪の中に位置する。遺構の密度と重複関係から城館の主要部分であり、長期間に渡り使用されていたことが想定される。

掘立柱建物跡の柱間寸法は5寸で割り切れる間隔を使用しているものが多いが、当てはまらないものも存在し、曲尺を使用したかは断定しがたい。大半の建物は3間×2間か3間×1の小規模なもので、間隔を7尺以上の長い寸法を用いて作られる傾向がみられる。SB308は桁行が7間を越え角屋が附属する建物であるが、これが所謂「主殿」的な建物に当るものかは検討が必要である。掘立柱建物が集中する調査区北側では、柱穴の重複が著しいことから建替えが長期に渡って行われていたことが想定される。竪穴建物はその掘立柱建物群の北側に附属するように配置され、やはり重複が著しい。掘立柱建物の建替えと同時に、竪穴建物の建替えも行われていた可能性が高い。竪穴建物は居住用の施設ではなく鍛冶工房や納屋、土室などの用途が想定されている。調査区全体で813口の柱穴を検出したが、時間と力量不足から全ての柱穴を使い切り掘立柱建物跡を構成するに至らなかった。紙面に掲載した以上に掘立柱建物は増える可能性は十分にある。今後の再検討課題とさ

せていただきたい。

また、これまでに発見例のなかった古墳時代前～中期の土器や古代の竪穴住居跡も発見された。古墳時代の遺物はこれまでも北東に位置する宿田遺跡でも確認されているが、遺構自体はまだ未発見である。厨川地区でこれまでに発見された古代の竪穴住居跡は、一遺跡における遺構密度が高くなく、滝沢台地南端に広がる集落であったと考えられている。今回も竪穴住居跡1棟しか確認されていないことから、集落の範囲が広がったことが想定される。

里館遺跡は北東に位置する安倍館遺跡と同様に厨川柵の擬定地と考えられてきたが、今回の調査でも当該期の遺構・遺物は確認されなかった。しかし、遺跡の北西部(34次調査)では12世紀の遺構・遺物も確認されていることから、今後の調査の進展によっては11世紀代の遺構・遺物も発見される可能性もある。遺跡の全容が解明されることに期待したい。

【引用・参考文献】(発掘調査報告書)

岩手県教育委員会 1979「厨川柵擬定地」『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002『中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第416集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009『矢盛遺跡第12・13次発掘調査報告書 盛岡新都市土地区画整理事業関連遺跡調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第534集

東京都埋蔵文化財センター 2002『尾張藩上屋敷跡遺跡X』東京都埋蔵文化財センター調査報告第114集

盛岡市教育委員会 1985『盛岡市埋蔵文化財調査年報—昭和55～58年度』

盛岡市教育委員会 1987『安倍館・里館遺跡』—昭和61年度発掘調査概報—

盛岡市教育委員会 1988『安倍館・里館遺跡』—昭和62年度発掘調査概報—

盛岡市教育委員会 1994『稻荷町遺跡』—第1～4・6次発掘調査報告—

盛岡市教育委員会 1995『小屋塚遺跡』—第1～27次発掘調査報告—

盛岡市教育委員会 1999『安倍館遺跡』—厨川城の調査—

【引用・参考文献】(発掘調査報告書以外)

板橋源 1959「厨川柵擬定地盛岡市権現坂発掘概報」『岩手大学学芸学部年報』第14巻 岩手大学学芸部

佐々木浩一 2007『根城跡 陸奥の戦国大名南部氏の本拠地』日本の遺跡19 同成社

東北中世考古学会編 2001『掘立と竪穴 中世遺構論の課題』高志書院

兵庫埋蔵銭調査会 1996『中世の出土銭 補遺Ⅰ』

兵庫埋蔵銭調査会 1997『近世の出土銭Ⅰ』

兵庫埋蔵銭調査会 1998『近世の出土銭Ⅱ』

附章

里館遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

里館遺跡は、岩手県盛岡市天昌寺町 242-5 (北緯 32° 42' 41.78954"、東経 141° 07' 13.46510") に所在し、雫石川北岸の完新世に形成された自然堤防上に位置する。測定対象試料は、竪穴建物跡 (SI304) A3 層出土炭化物 (1:IAAA-113390)、竪穴建物跡 (SI305) A1 層出土炭化物 (2:IAAA-113391)、竪穴建物跡 (SI307) A2 層出土炭化物 (3:IAAA-113392)、竪穴建物跡 (SI315) A2 層出土炭化物 (4:IAAA-113393)、竪穴建物跡 (SI308) A1 層出土炭化物 (5:IAAA-113394)、竪穴住居跡 (RA001) A3 層出土炭化物 (6:IAAA-113395、7:IAAA-113396)、土坑 (SK418) C 層出土炭化物 (8:IAAA-113397)、柱穴跡 (pit297) A1 層出土炭化物 (9:IAAA-113398) の合計 9 点である (表 1)。

2 測定の意義

遺跡内に位置する複数の遺構の前後関係および集落の継続期間を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、14C の計数、13C 濃度 (13C/12C)、14C 濃度 (14C/12C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) δ 13C は、試料炭素の 13C 濃度 (13C/12C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) 14C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。14C 年代は δ 13C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。14C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、試料の 14C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

炭化物の ^{14}C 年代は、竪穴建物跡 (SI304) A3 層出土の 1 が $580 \pm 20\text{yrBP}$ 、竪穴建物跡 (SI305) A1 層出土の 2 が $600 \pm 20\text{yrBP}$ 、竪穴建物跡 (SI307) A2 層出土の 3 が $430 \pm 20\text{yrBP}$ 、竪穴建物跡 (SI315) A2 層出土の 4 が $640 \pm 20\text{yrBP}$ 、竪穴建物跡 (SI308) A1 層出土炭化物の 5 が $340 \pm 30\text{yrBP}$ 、竪穴住居跡 (RA001) A3 層出土の 6 が $1260 \pm 20\text{yrBP}$ 、7 が $1310 \pm 30\text{yrBP}$ 、土坑 (SK418) C 層出土の 8 が $340 \pm 20\text{yrBP}$ 、柱穴跡 (pit297) A1 層出土の 9 が $580 \pm 20\text{yrBP}$ である。竪穴住居跡 (RA001) A3 層出土の 6 と 7 の値は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で近接し、おおむね近い年代を示す。

暦年較正年代 (1σ) は、1 が 1320 ~ 1406cal AD の間に 2 つの範囲、2 が 1310 ~ 1398cal AD の間に 2 つの範囲、3 が 1436 ~ 1462cal AD の範囲、4 が 1294 ~ 1387cal AD の間に 2 つの範囲、5 が 1494 ~ 1632cal AD の間に 3 つの範囲、6 が 691 ~ 775cal AD の間に 2 つの範囲、7 が 665 ~ 766cal AD の間に 2 つの範囲、8 が 1491 ~ 1631cal AD の間に 3 つの範囲、9 が 1320 ~ 1405cal AD の間に 2 つの範囲で示される。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-113390	1	竪穴建物跡 (SI304) A3 層	炭化物	AAA	-26.54 ± 0.55	580 ± 20	93.04 ± 0.27
IAAA-113391	2	竪穴建物跡 (SI305) A1 層	炭化物	AAA	-26.47 ± 0.61	600 ± 20	92.81 ± 0.27
IAAA-113392	3	竪穴建物跡 (SI307) A2 層	炭化物	AAA	-26.99 ± 0.45	430 ± 20	94.76 ± 0.28
IAAA-113393	4	竪穴建物跡 (SI315) A2 層	炭化物	AAA	-23.22 ± 0.36	640 ± 20	92.31 ± 0.27
IAAA-113394	5	竪穴建物跡 (SI308) A1 層	炭化物	AAA	-27.56 ± 0.61	340 ± 30	95.88 ± 0.30
IAAA-113395	6	竪穴住居跡 (RA001) A3 層	炭化物	AAA	-25.80 ± 0.39	1,260 ± 20	85.50 ± 0.26
IAAA-113396	7	竪穴住居跡 (RA001) A3 層	炭化物	AAA	-25.16 ± 0.52	1,310 ± 30	85.00 ± 0.27
IAAA-113397	8	土坑 (SK418) C 層	炭化物	AAA	-27.04 ± 0.70	340 ± 20	95.83 ± 0.29
IAAA-113398	9	柱穴跡 (pit297) A1 層	炭化物	AAA	-24.63 ± 0.63	580 ± 20	93.02 ± 0.28

[#5051]

表 2 (1)

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-113390	600 ± 20	92.75 ± 0.25	579 ± 23	1320calAD - 1350calAD (46.1%) 1391calAD - 1406calAD (22.1%)	1305calAD - 1364calAD (63.6%) 1384calAD - 1415calAD (31.8%)
IAAA-113391	620 ± 20	92.53 ± 0.24	599 ± 23	1310calAD - 1360calAD (55.8%) 1387calAD - 1398calAD (12.4%)	1299calAD - 1370calAD (72.5%) 1380calAD - 1408calAD (22.9%)
IAAA-113392	470 ± 20	94.38 ± 0.27	432 ± 24	1436calAD - 1462calAD (68.2%)	1426calAD - 1487calAD (95.4%)
IAAA-113393	610 ± 20	92.65 ± 0.26	642 ± 23	1294calAD - 1310calAD (25.6%) 1360calAD - 1387calAD (42.6%)	1285calAD - 1324calAD (40.4%) 1346calAD - 1394calAD (55.0%)
IAAA-113394	380 ± 20	95.38 ± 0.27	337 ± 25	1494calAD - 1526calAD (22.0%) 1557calAD - 1602calAD (33.3%) 1614calAD - 1632calAD (12.8%)	1475calAD - 1639calAD (95.4%)
IAAA-113395	1,270 ± 20	85.36 ± 0.25	1,258 ± 24	691calAD - 751calAD (56.7%) 762calAD - 775calAD (11.5%)	672calAD - 783calAD (89.0%) 789calAD - 813calAD (5.0%) 844calAD - 857calAD (1.4%)
IAAA-113396	1,310 ± 20	84.97 ± 0.25	1,305 ± 25	665calAD - 709calAD (47.8%) 747calAD - 766calAD (20.4%)	659calAD - 725calAD (65.2%) 738calAD - 772calAD (30.2%)
IAAA-113397	380 ± 20	95.42 ± 0.26	342 ± 24	1491calAD - 1524calAD (23.2%) 1559calAD - 1603calAD (30.2%) 1610calAD - 1631calAD (14.8%)	1470calAD - 1635calAD (95.4%)

表 2 (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-113398	580 \pm 20	93.09 \pm 0.26	581 \pm 24	1320calAD - 1351calAD (47.2%) 1391calAD - 1405calAD (21.0%)	1304calAD - 1365calAD (64.7%) 1384calAD - 1414calAD (30.7%)

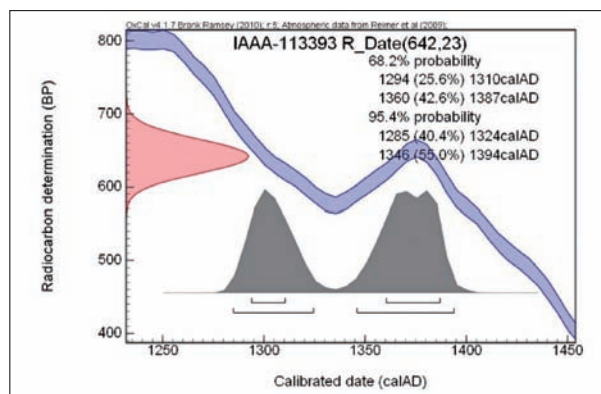
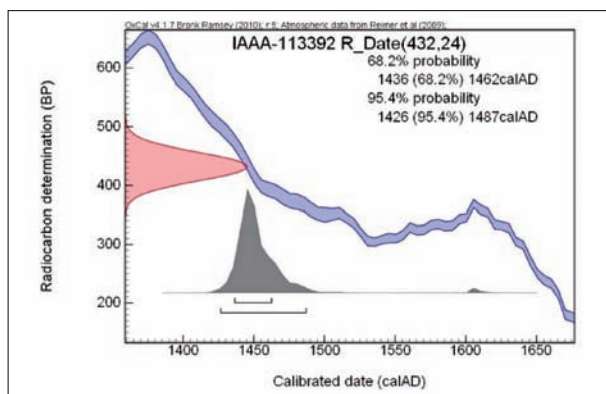
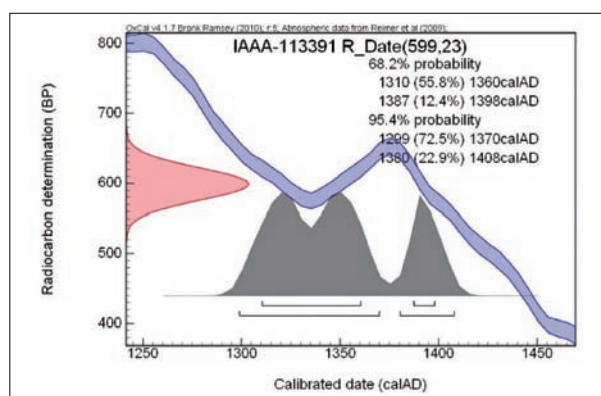
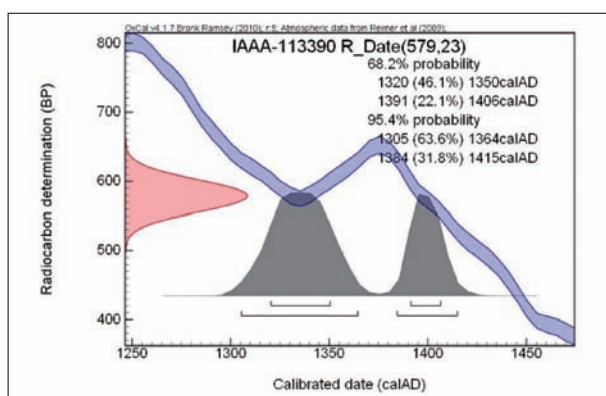
[参考値]

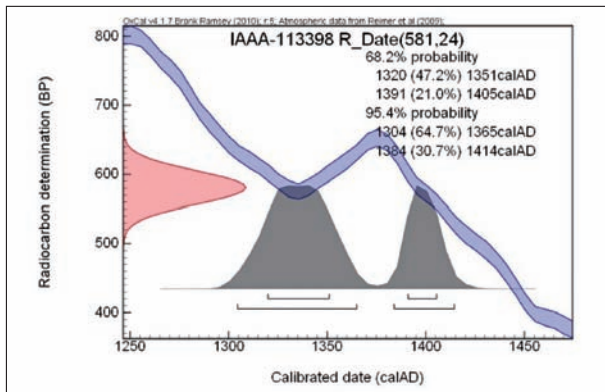
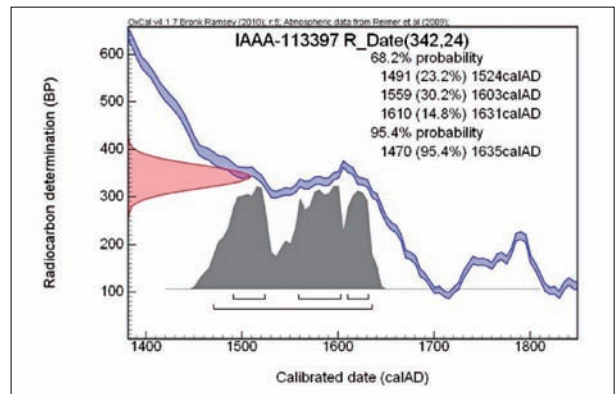
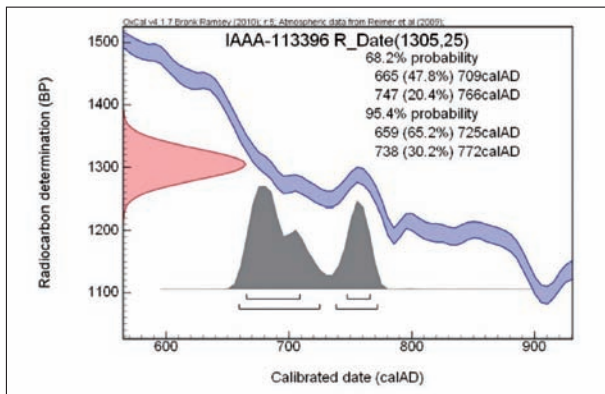
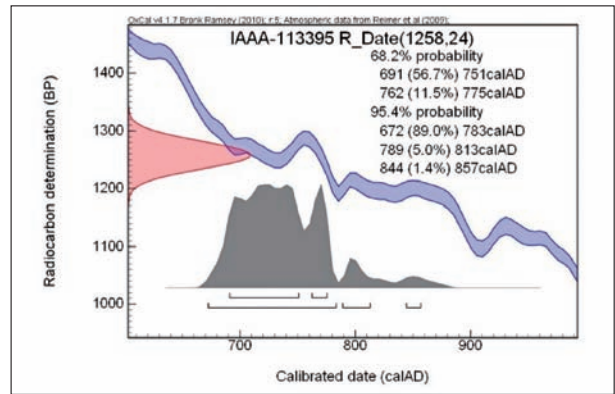
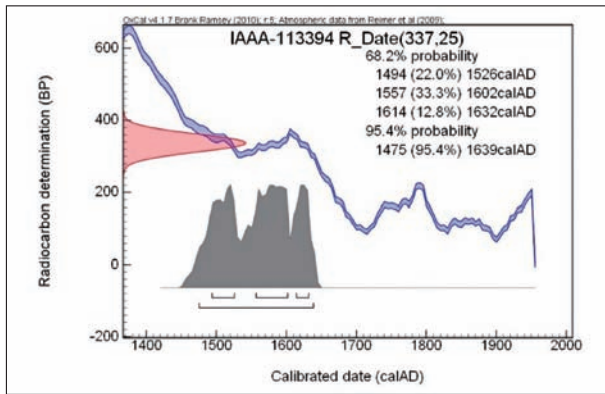
文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150





[参考] 暦年較正年代グラフ

写真図版



調査区遠景



調査区全景（左が北）

第2図版



SB316 掘立柱建物跡



竪穴建物跡重複状況



R D 005 土坑



R D 006 土坑



R A 001 竪穴住居跡



S I 305・306 竪穴建物跡



S I 313・314・315 竪穴建物跡



S I 316・317 竪穴建物跡



R E 001 竪穴跡



R Z 002・003・004 沢状地形

第4図版



里館遺跡第56次調査出土 陶磁器



里館遺跡第56次調査出土 鉄・銅製品

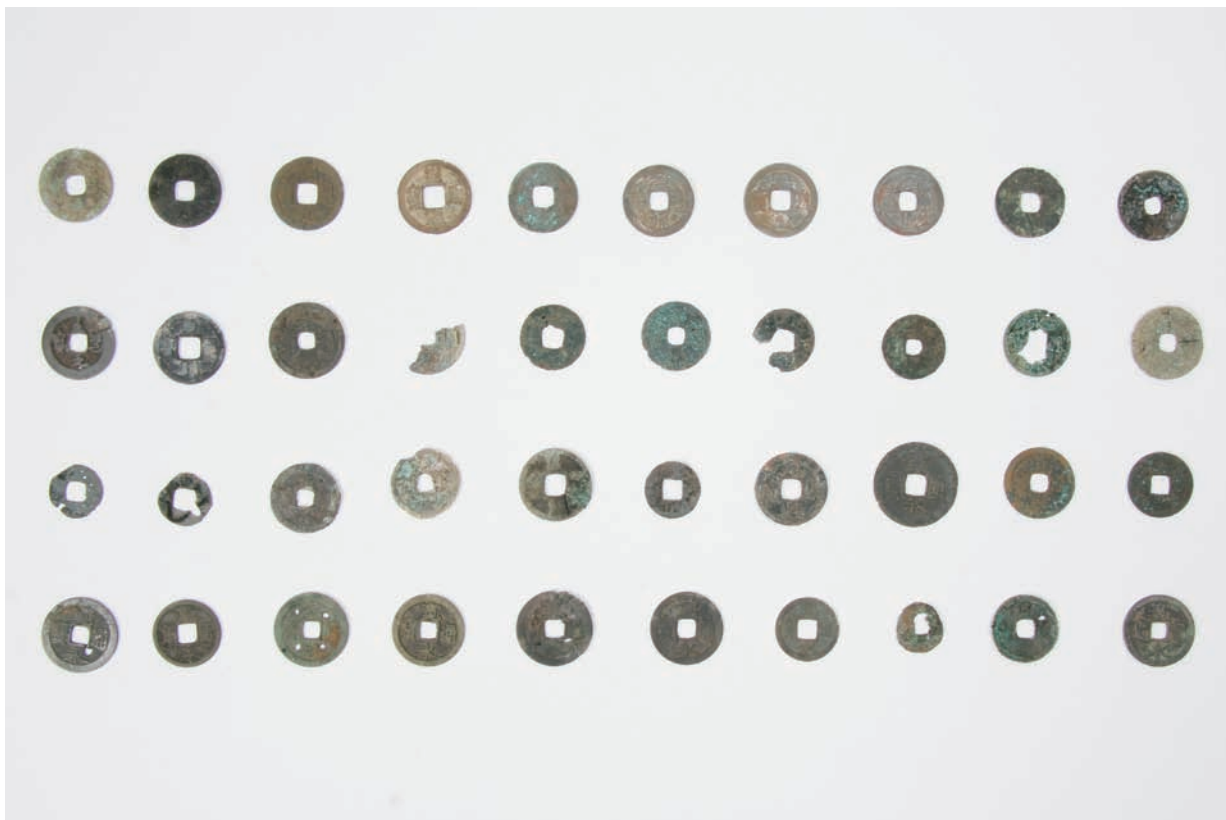


里館遺跡第56次調査出土 石製品、琥珀原石

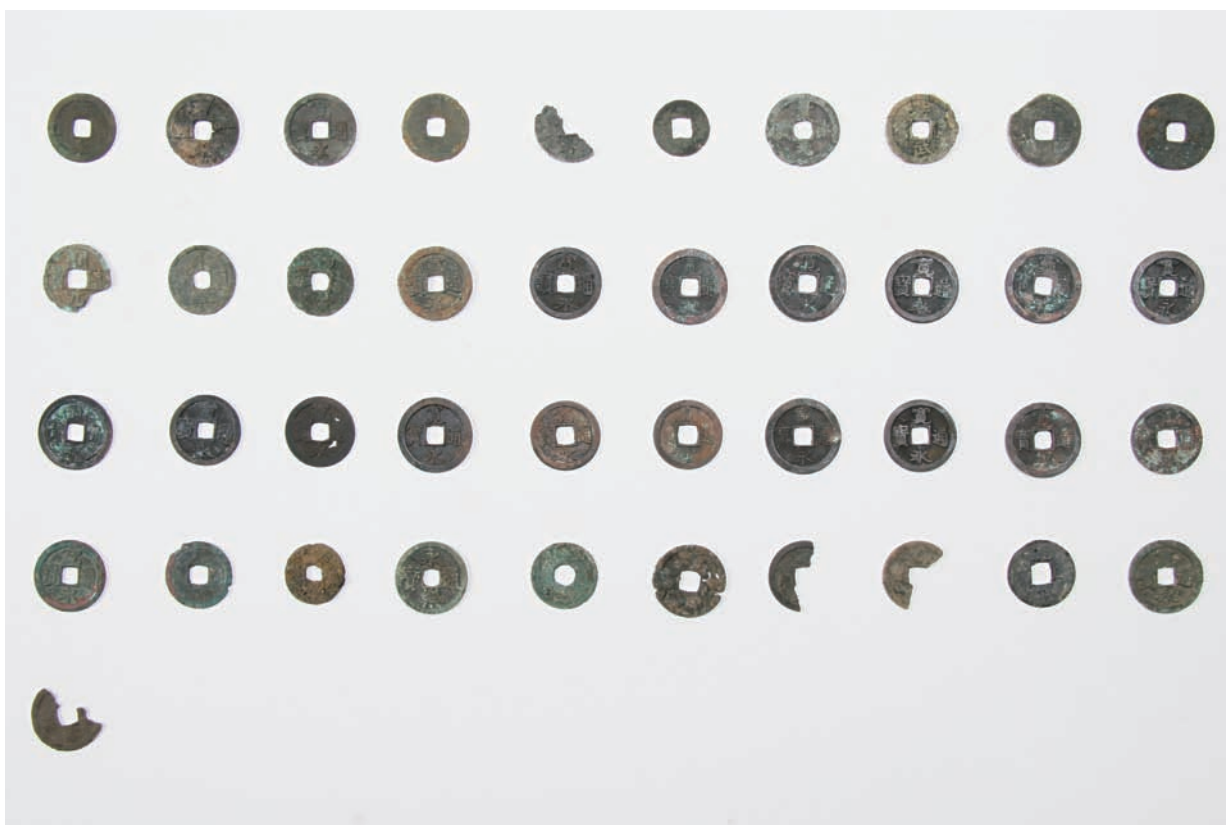


里館遺跡第56次調査出土 土器・石器

第6図版



里館遺跡第56次調査出土 古銭1



里館遺跡第56次調査出土 古銭2

報告書抄録

ふりがな	さたていせき							
書名	里館遺跡							
副書名	供養塔および駐車場造成に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	佐々木亮二 三品花菜子							
編集機関	盛岡市 遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 TEL019-635-6600							
発行機関	宗教法人天昌寺 盛岡市教育委員会							
発行年月日	2013年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
さたていせき 里館遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 てんしょうじちよう 天昌寺町	3201		39° 40' 57"	141° 08' 19"	(第56次) 2011.08.22 ~ 2011.11.25	2,096	供養塔および 駐車場造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
里館遺跡 (第56次調査)	城館	縄文時代	陥し穴状遺構		7		石鏃、削器 古式土師器、須恵器、黒曜石製 ラウンドスクレイパー、白玉 土師器 陶磁器(中国産白磁・ 青磁、瀬戸美濃灰釉、 染付)、鉄鏃、刀子、 柄尻、小柄、釘、簪、 碾臼、搗臼、砥石、硯、 古銭(北宋銭、明銭、 寛永通宝、無銘銭)、 コハク原石	城館の主要部分 に当たると考えら れる地点を調査 し、多数の掘立 柱建物跡や竪穴 建物跡が確認さ れた。
		古墳時代						
		古代	竪穴住居跡		1			
		中世	竪穴建物跡		21			
			掘立柱建物跡		19			
		中～近世	柱列跡		8			
			土坑		50			
近世	柱穴		813					
	竪穴跡		3					
	溝跡		3					
		沢状地形		4				
要約	里館遺跡はこれまでの調査で堀跡や掘立柱建物跡などが確認され、出土遺物の年代から15～16世紀の城館跡であることが判明している。第56次調査では、掘立柱建物跡や竪穴建物跡など城館を構成する遺構が多数確認された。その遺構密度から今回の調査地点は城館の主要部分と考えられる。また、C14を用いた炭素年代測定からも理化学的に城館の年代を裏付けることができた。							

里館遺跡

—供養塔および駐車場造成に伴う緊急発掘調査報告書—
2013年2月28日 発行

編 集 盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13番地1
TEL 019 - 635 - 6600

発 行 宗教法人天昌寺 盛岡市教育委員会

印 刷 株式会社 杜陵印刷
〒020-0122 盛岡市みたけ2丁目22-50
TEL 019 - 641 - 8000
